

道腎協結成30周年記念誌

# 風と大地と 微笑みと



北海道腎臓病患者連絡協議会

道腎協結成30周年記念誌

# 風と大地と 微笑みと



# 序にかえて



北海道腎臓病患者連絡協議会

会長 川村 隆志

昭和52年10月全道7地域146名の透析患者が集まり、北海道腎臓病患者連絡協議会が結成されました。おかげさまで、30年を迎えることになりました。146名が灯した明かりは、多くの人の共感を呼んで、現在、会員数は4,200名を超えました。患者会が結成された当初は、「金の切れ目が命の切れ目」という時代で、当時の患者運動は、まさに命を賭けた活動でした。その後、更生医療の適用を受けられるようになり、すべての患者がほとんど自己負担無く治療が受けられ、透析医療は飛躍的に伸びました。そして今日の透析医療は「命をつなぐだけの医療」から「生活の質の向上」へと進歩してきました。この透析医療は、私たちにとって未来につながるかけがえないものです。

30年の活動経過の中では、道腎協活動をサポートした多くの役員の皆さんとの悲しい別れもありました。また地域腎友会をリードした幹事の方々の悲しい知らせもありました。道腎協はこの方々の努力の上に立つて今日があることを忘れてはなりません。現在は、糖尿病性腎症からの透析導入、患者の高齢化・長期間治療にともなう障害の重度化、脳死臓器移植の停滞、就労・雇用問題、患者会組織の問題、後期高齢者医療制度問題など問題が山積しています。一方、社会を見ても、雇用不安の増大やデフ

レ経済の長期化などの影響で、依然として先行き不透明な情勢の中で、我々透析医療を取り巻く状況も想像以上に厳しいものとして理解せざるを得ません。これまで患者会活動で築き上げてきたものが、少子高齢化社会という理由で経済基盤の弱い障害者の我々に次々と負担が強いられ、崩されてきています。今まで以上に障害者は、力を結末しなければなりません。これまで培ってきた大きな力と多くの仲間と一緒に、後退する社会保障制度を少しでも食い止めなければなりません。

道腎協結成30年という節目の年に私たちは、もう一度患者会結成当時の精神にもどり会員皆で困難に立ち向かい一致団結してこれらの問題に取り組んでいきたく思っております。

この記念誌は、我々透析患者及び関係者に道腎協の設立当初からの歴史と現在の患者の状況を知っていた。たとえ共に、先輩が築き上げた「患者の命と暮らしを守る制度」を未来に受け継ぐ義務を果たすために、発刊しました。

最後に本誌発刊に当たり、多くの関係者のご協力により完成することができました。事を、ここに心より感謝とお礼を申し上げます。

● 序にかえて ●

北海道腎臓病患者連絡協議会 会長 川村隆志

● 祝 辞 ●

道腎協結成30周年記念によせて

北海道知事 高橋 はるみ

道腎協の結成30周年を祝す

北海道透析医会 会長 大平 整爾

ご 挨拶

北海道透析療法学会 会長 久木田 和 丘

道腎協創立30周年へのお祝い

社団法人全国腎臓病協議会 会長 油 井 清 治

30周年おめでとございます

財団法人北海道難病連 代表理事 高 田 泰 一

第30回総会記念交流会

..... 12

第30回記念総会

..... 16

道腎協総会 地域大会

..... 17

● 30年のあゆみ ●

道腎協結成30年のあゆみ

..... 23

一年間のあゆみ（昭和52年～平成19年まで）

..... 27

● 地域腎友会 ●

旭川地方腎友会

..... 61

岩見沢腎友会

..... 62

浦河地区腎友会

..... 63



|                 |    |
|-----------------|----|
| 江別腎臓病患者会        | 64 |
| 小樽後志地方腎友会       | 65 |
| オホーツク腎友会        | 66 |
| 北見地方腎友会         | 67 |
| 釧路地方腎友会         | 68 |
| 札幌腎臓病患者友の会      | 69 |
| 静内腎友会           | 70 |
| 腎友会滝川クリニック透析者の会 | 71 |
| 伊達地方腎友会         | 72 |
| 道南腎友会           | 73 |
| 十勝地方腎友会         | 74 |
| 苫小牧腎友会          | 75 |
| 根室腎友会           | 76 |
| 深川腎友会           | 77 |
| 室蘭地方腎友会         | 78 |
| 紋別地方腎友会         | 79 |
| 夕張腎臓病友の会        | 80 |
| 留萌地方水無人腎友会      | 81 |
| 稚内地方腎友会         | 82 |
| 士別腎友会           | 83 |
| 三笠腎友会           | 84 |
| 富良野腎友会          | 85 |
| 小清水腎友会          | 86 |
| 名寄市立病院腎友会       | 87 |
| 千歳腎友会           | 88 |

● 医療講演の歴史 ●

医療講演の歴史……………91

● 透析器の歴史 ●

人工腎臓の歴史……………111  
人工透析とは……………114

● 私もひとり ●

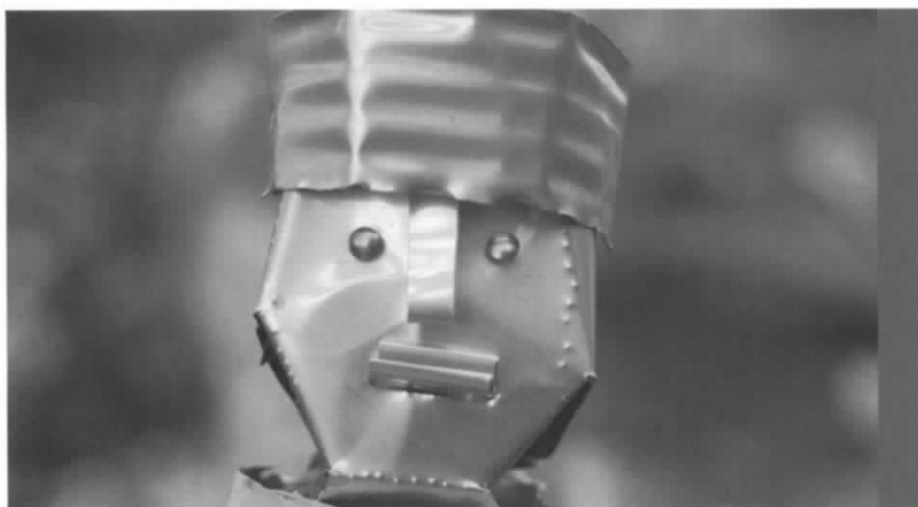
河野 正子／前田 勘児／森 静恵／原田 淳也／佐藤 清／竹山 克朗……………117  
上井 光子／合田 晃／森川 潤一／福田 茂哉／片桐 俊子／大野 武昭……………118  
原 晶子／石川 義雄／佐藤勢津子／土田 祐子／梅原 孝之……………119  
小笠原和枝／松岡スイ子／寺本 光司／乾 道子／筒井 紀昭……………120  
天沼 忠／川崎 純子／石田恵美子／浅見 恭行／前田 慶子／上條 富明……………121

● 資料 編 ●

年度別役員名簿……………125  
あゆみ……………144

編集後記

# 祝辞



# 道腎協結成30周年記念によせて



北海道知事

高橋 はるみ

北海道腎臓病患者連絡協議会が、結成30周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。また、この記念すべき年に、これまでの歩みと功績を後世に伝える記念誌が発行されますことを、お喜び申し上げます。

貴会におかれましては、昭和52年の結成以来長年にわたり、腎臓機能障がい者の方々が安心して治療を受けられるよう、人工透析施設の増設や医療費の自己負担の軽減、臓器移植の推進などにご尽力され、多大な成果を挙げられましたことに対し、深く敬意を表します。

平成9年に「臓器の移植に関する法律」が施行となり、本道においても、財団法人北海道腎臓バンクをはじめ、移植医療の関係団体や機関との連携により、道内における腎移植の推進体制の整備が一層図られてまいりました。

道としても、臓器移植の体制整備の一環として、「北海道院内臓器移植連絡調整者」を臓器移植提供病院に委嘱するなど、医療機関等との連携を密にしながら円滑な臓器移植が推進されるよう取り組んでいるところであります。

平成18年の道内における年間腎移植件数は過去最多で78件となっており、ここ数年では、増加の傾向を示していますが、根治療法としての腎移植を希望している患者の

方は474名と、その数を大きく上回っています。

道としては、今後とも、より一層、道民に対し移植医療に関する知識の普及啓発活動を進めるとともに、腎臓機能障がい者の治療の充実に向けて、人工透析機器の整備・充実に努めてまいりますので、引き続き貴会のご理解とご協力をお願いいたします。

終わりに、結成30年を迎えられた貴会の活動が、今後ますます充実されることを期待するとともに、会員の皆様のご多幸を心から祈念いたしまして、お祝いのごことばとします。

# 道腎協の結成30周年を祝す



北海道透析医会

会長 大平 整爾

組織の存続と発展…一つの組織が長く存続していくためには、その組織に明確な目的があり、これを遂行していく熱意ある実行者が必要です。貴協議会が幾多の困難を乗り越え多くの成果を獲得しつつ今日の発展に至った歴史的経過を振り返りますと、これを痛感し心から敬意を表したいと存じます。会務に奮闘された歴代の役員諸氏並びに協力を惜しまなかつた一般会員の総力が、今日を迎えたのであらうと推測する次第です。

医師と患者との関係…医師と患者皆様との関係は過去10数年間で大いに変貌してまいりました。これは今となつては当然の帰着なのですが、医療者はまず第一に患者の意向を尊重しその方々の安心や安寧を得るべく努力を惜しまないということでありましょう。そうは云うのですが、医療者が行いたい医療行為と受療者が受けたい医療内容とは時に相違する場合が出てまいります。慢性疾患では医療者側と患者側の意向の調整が、円滑円満に行われることを強く希望いたします。

透析療法のあるべき姿…現在の腎機能代替療法即ち血液透析並びに腹膜透析は生体腎が持つ緻密で多彩な機能を全て代行し得ないために、種々の制約が生じています。幾つかの薬剤の規則的な内服や生活上の約束事などがこれに当たりますが、長期的にこれを守っていくことは容易なことでは

ないと推測いたします。只今の透析は、例えば血液透析で申せば1回4時間・週3回という治療形式に皆様が生生活を合わせていくことを強要しております。種々の保険診療上の制限はあるにせよ、患者皆様の生活に合わせて治療形式を組み立てることができればよいのではないかと強く思うので

す。  
約束事の順守ということ…例えば必要な薬を指示のように内服することや透析間体重増加率を好ましい範囲に止めることなどに關して、これまでは「医療側の希望・指示に従う・従っていただく」という考え方が主流でした。これをコンプライアンス (compliance) と云つてきました。しかし、約束事が本当に守られていくためには患者皆様が動機付けを持つて主体的に守っていく姿勢がどうしても必要不可欠になります。これをアドヒアランス (adherence) と呼ぶのですが、「患者中心の医療」とは先に申しましたように医療者側が第一に患者皆様の意向を汲むことにありますが、その上に、患者皆様が自らのこととして約束事を積極的に守ることが肝要であることを心に留めていただきたいと思います。

患者と医療者の協同作業…改めて申すべくもなく、慢性疾患の治療では二者の時に相反する意向を調整しながら二者が合い携えて協同で進むことが望まれます。私共医療者側も今後一層の勉強を重ねる所存ですが、皆様のご努力を切に願ひする次第です。



# ご挨拶



北海道透析療法学会

会長 久木田 和丘

暖冬といわれた昨冬の雪は、期待に反して遅くまで続き最終的に降雪量は辻褃が合ったようです。しかし何事もなかったように北海道も春のステージに入り、夏から秋を迎えます。今年の冬の雪はどうでしょう。昨今、よく耳にしますのは年金問題、高齢化社会、それに加えて「団塊の世代」などです。そして定年延長も規定されました。これは寿命が延び一人ひとりが以前の老人といわれる世代となっても、まだまだ元気に過ごすことができる時代になったことを意味し、人類にとつては有難いことだと思われます。平均寿命が延び高齢となっても元気な人が多くなった現在、高齢少子化社会をのりきる方法は、定年延長また労働希望のある人はいつまでも働ける社会が本邦では望まれるところです。

さて透析患者さんの高齢化もよく知られています。2005年12月末の統計をみますと透析患者総数は257、765人と増加傾向にあります。導入患者平均年齢は20年前の54・4歳から66・2歳へ大きく増加しています。また12月末の患者平均年齢は50・4歳から63・9歳とこちらも大きく増加しております。現在の透析のテーマはいかに元気に日常を過ごしてもらえるかが重点となってきました。現在通院透析のみならず、長期入院透析についても高齢化時代への変遷から避けて通れない問題です。

透析における治療法もそれにあわせ進歩、変化をつけて行く必要があります。現在、透析での長期患者さんも増加しましたが外科的観点から、原則として不可能な手術はなくなってきました。腎不全に加え、さらに合併症が起こったとしてもそれを改善する手段が増加しています。このような手段の積極的な活用が勧められます。

道腎協結成30年を迎えられ、おめでとうございます。会員も増加され日常での活動も活発です。種々の合併症があったとしても元気に活動されている事は、会員のみならずご家族はじめ周囲の方に大変な勇気を与えられます。本会の発展を祈念しますとともに全道26地域4200名の会員をはじめ、そのご家族そして周囲の方々が元気よく過ごされる事を学会も応援していきたいと考えます。

# 道腎協創立30周年へのお祝い



社団法人 全国腎臓病協議会

会長 油井 清治

北海道腎臓病患者連絡協議会が長年にわたり腎臓病患者の療養環境の整備・向上を目指し運動を進めてこられ、本年結成30周年を迎えられましたことに心からの敬意とお祝いを申し上げます。

さて、最近の私達を取りまく情勢は、年々厳しさを増しています。平成18年4月に診療報酬の改定が実施され透析医療の分野でも診療報酬の引き下げが行われるとともに、透析技術料にエリスロポエチン製剤が包括化され、必要量を使用してもらえず強い貧血状態の中で透析治療を行っている患者がいるなど大きな影響を受けました。

介護保険の改定では、新予防給付による透析患者のサービス利用の制限や保険料の引き上げ、利用者負担増など制度が大きく後退しました。透析患者の高齢化、糖尿病性腎症患者の増加するなか、介護を必要とするすべての人に公的な責任において介護が保障される運動への取り組みが急務です。

さらに、平成18年6月に医療制度改革関連法案が国会で可決され「医療制度改革」がスタートしました。10月1日からは、人工透析の高額療養費について一定以上の所得者に対し月額2万円に引き上げられました。また、「後期高齢者医療制度」の新設により新たな診療報酬体系の創設や高齢者からの保険料徴収など私たちをとりまく医療・福祉情勢は更に厳しくなり予断を許すことができません。

そのような状況の中で、夕張市の財政破

綻による市立病院透析室の閉鎖は、地元のみならず、全国のわたしたちの仲間にも大きな衝撃を与えました。全国的にも地方自治体の財政問題、医師不足等を理由とした病院の閉鎖、透析室の閉鎖が今大きな問題となつています。私は、人間は各人それぞれが、かけがえない存在であつて、たとえどのような状況であっても、一人ひとりが透析治療、通院、入院、入所が保障されるべきであるという信念を持つて、これらの問題に取り組んで行きたいと考えています。

日本の透析医療は、関係者のためめぬご努力によつて世界一となり、40年生存も可能な時代を迎えようとしています。一方、患者会結成当時の原点が、時代の経過と共に風化しつつあります。原因の一環として当時の状況を語りつないできた、貴重な活動家が亡くなられていき、語りべと云われた人達が失われていく現状があります。

全腎協は、昨年「新・腎疾患対策確立のために一人ひとりが、いのちを輝かせるために」を提起し活動の柱として新たなスタートをしました。その具体的な活動として慢性腎臓病（CKD）対策を国民的課題とするために、当事者の立場から取り組みをはじめました。全国の仲間と一丸となつて推進していきたいと考えています。

貴会も創立30周年を契機に更に組織を強化されるとともに、高いレベルでの患者会を目指されることを強く希望し、ご挨拶いたします。

# 30周年おめでとうございます



財団法人 北海道難病連

代表理事 **高田 秦一**

道腎協会員のみなさん。会の結成30周年に心からお祝い申し上げます。長期にわたる困難な運動を積み重ねてこの日を迎えた皆さんに、心から敬意を表するものです。先輩方の命がけの戦いを引き継ぎ、旗を掲げて運動を30年も継続させてきたということは並大抵のことではありません。会員の熱心な支えと、地域や医療機関のみなさんをはじめ、行政や企業のご理解と協力の結晶だと思えます。関係の皆様深く感謝します。

道腎協のみなさんは全腎協の運動に合わせて、北海道難病連やJPAの運動にも大きな力を発揮し、北海道のみならず全国規模で患者会のトップランナーとして素晴らしい運動を繰り広げており、この面からも感謝を申し上げます。

皆様も危惧されていらつしやるように、日本の政治や経済の方向が効率追求・高度経済成長をいまだにひたすら求めているので、国民の基本的な要望である医療や福祉を切り詰めており、とりわけその最前線にある難病患者や長期に医療を必要としている者には厳しい状況が続いています。財政難といえどどんな無理でも通る昨今の政治情勢ですが、国民本位の政策に転換させる声を、今こそ上げていかななくてはなりません。

健康な人たちがさえも高い医療保険や窓

口支払いを余儀なくさせられている今ですから、透析患者や難病患者だけを特別扱いにしてくださいとは、言えないですね。ですが、むしろ常に病気のこと医療のことを考えている私達こそが、医療のあるべき姿を人々に訴え、改善の声を上げていく役割がある。そのことで道民・国民の支持を得て、社会を変えていくことができるのです。

「人間の生きる基礎部分を備えさせる」それが私達に社会から求められている役割です。こういう私達の運動に課せられた使命は大変大きくて重いけれども、尊く、やりがいがあることです。この厳しい医療情勢が永久に続くはずはない。人間の考える人間の営みなのだから、人間の知恵で解決できるはずです。

そこを信じて、みんなが自分に残されている何かの力、それは知恵であったり、情熱や直感であったり、体力であったりしますが、それを出しあう。これが大切です。今日から始まる新しい歴史のページに、知恵と仲間の連帯でみなさんの夢を北海道難病連と共に実現させましょう。

# 第30回総会記念交流会

平成19年5月26日



川村会長のごあいさつ



いよいよ交流会の始まり



“路地裏芸を楽しむ会”の皆さんの登場



司会の苜木事務局長



ゲームの進行は柳沼副会長



全道各地からたくさんの方々が交流会に集いました

### 第30回道腎協定期総会交流会



何が当たるかな？景品抽選会の模様



鈴木相談役の音頭で、乾杯！



さすが！！



南京玉すだれに挑戦。大成功！





輪、ワッ! 入ったかしら



川村会長と、三笠、道南、苫小牧、札幌、十勝、釧路、旭川の方々



楽しいゲーム終了。札幌の方々



それいけ!!



オホーツク、伊達、小樽の方々



なかなか難しい～



北見、富良野、旭川、江別の方々



釧路、室蘭の方々



あっ、残念。今度こそ！



十勝、札幌、苫小牧の方々

# 第30回記念総会

平成19年5月27日



記念講演をして下さった山崎親雄先生（日本透析医会会長・衆済会増子クリニック院長）



真剣に討議する皆さん



川村会長のごあいさつ



多くの総会参加の皆さん

# 道腎協總會 地域大会

## 第17回定期総会 室蘭大会

と き：平成6年6月5日(日)

ところ：室蘭市障害者福祉総合センター

## 交流会

と き：平成6年6月4日(土)

ところ：ホテル セピアス



## 第18回定期総会 釧路大会

と き：平成7年6月4日(日)

ところ：釧路市生涯学習センター まなぼっと

## 交流会

と き：平成7年6月3日(土)

ところ：釧路キャッスルホテル



## 第19回定期総会 函館大会

と き：平成8年5月26日(日)

ところ：はなびしホテル

### 交流会

と き：平成8年5月25日(土)

ところ：はなびしホテル

## 道腎協第19回総会『函館大会』



## 第21回定期総会 十勝大会

と き：平成10年5月24日(日)

ところ：音更町文化センター

### 交流会

と き：平成10年5月23日(土)

ところ：大平原観光ホテル





## 第23回定期総会 小樽大会

と き：平成12年 5月21日(日)

と ころ：小樽国際ホテル 午後 小樽市内観光

### 交流会

と き：平成12年 5月20日(土)

と ころ：小樽国際ホテル

宿 泊：小樽国際ホテル・  
オーセントホテル小樽



## 第26回定期総会 苫小牧大会

と き：平成15年 5月25日(日)

と ころ：苫小牧プリンスホテル

### 交流会

と き：平成15年 5月24日(土)

と ころ：苫小牧プリンスホテル



## 第28回定期総会 旭川大会

と き：平成17年 5月29日(日)  
と ころ：旭川大雪クリスタルホール

### 交流会

と き：平成17年 5月28日(土)  
と ころ：ホテル 大雪



旭川地方腎友会会長 青柳正一氏

# 30年のあゆみ



# 道腎協結成30年のあゆみ

## 生命の値段

わが国では慢性腎不全の治療法として人

### 人工透析の個人負担額例

| 性別   | 年齢 | 透析開始日 | 保険負担率      | 負担金額     |
|------|----|-------|------------|----------|
| A. 女 | 51 | S 45  | 50% (健保家族) | 123,155円 |
| B. 女 | 52 | S 45  | 50% (健保家族) | 86,325円  |
| C. 女 | 49 | S 45  | 50% (健保家族) | 120,175円 |
| D. 男 | 14 | S 45  | 50% (健保家族) | 105,391円 |
| E. 男 | 13 | S 45  | 50% (健保家族) | 141,153円 |
| F. 男 | 33 | S 45  | 30% (国保)   | 101,281円 |
| G. 女 | 33 | S 46  | 30% (国保)   | 223,520円 |
| H. 男 | 26 | S 44  | 50% (注)    | 10,750円  |

平均 113,939円

(注：医療扶助自己負担)

(当時の大卒サラリーマン初任給 約3万円程度)

全腎協結成総会議案書より

工透析療法が始められたのは1960年代後半以降でした。この治療法は昭和42年（1967年）12月に医療保険の適用になり一般に普及されることになりました。

しかし、自己負担のまったくない患者は社会保険（サラリーマンや公務員などの被用者の保険制度）の本人だけで、当時の医療保険制度では、社会保険の家族は5割の自己負担、国民健康保険（自営業者等を対象の制度）は3割の自己負担、当時の金額で10万〜30万（当時の大卒サラリーマンの初任給は約3万程度）になっていました。

この為、医療費の経済的負担に耐えうる患者だけが透析治療の恩恵に浴し延命できた状況でした。

### 選択される生命

経済的条件だけが透析治療を受けられる絶対条件ではありませんでした。

透析適応の腎不全患者にとって重要な問題は人工腎臓の器械が全国的に不足していたことです。健保適用以降増え始めてはいたが、それでも昭和45年の全国の人工腎臓

は666台、昭和46年で1、575台でした。昭和46年当時、全国で腎不全・尿毒症による死亡者数は1万人から1万2千人といわれていました。その内、もし人工腎臓治療を受けられれば半数は生き残れたであろうという事でした。

### 人工腎臓台数と透析患者数

|                     |      |      |
|---------------------|------|------|
| 昭和43年8月<br>(1968年)  | 105台 | 215名 |
| 昭和45年3月<br>(1970年)  | 335台 | 514名 |
| 昭和45年12月<br>(1970年) | 666台 | 949名 |

(666台というのは人工腎臓を必要とする患者の約5分の1である)

透析施設ではなんらかの患者の選択を行わざるを得ませんでした。社会保険本人が優先され、世帯の柱となる患者が選ばれ、結果として男性が圧倒的に多くなりました。また大阪で昭和46年12月に透析専門病院が一切広告もせず所在地さえ知らせずに

開院していました。所在地がわかれば患者が押しかけて人工腎臓を奪い合い、混乱がおこるので内密に開業していたという現在では信じられない事があったそうです。

こうした状況下で、医療費を捻出するために貯金を使い果たし、退職金を前借りし、家や土地を売り払い、生活保護を受け（生活保護になれば医療費は無料）ために離婚し、また医療費が続かず、退院して自らの命を絶つて行く患者がたくさんいた悲劇的な状況でした。

## 全国腎臓病患者連絡協議会 (全腎協)の結成

この様な情勢の中、全国各地で結成されていた透析患者会が結集して、昭和46年（1971年）6月に全国腎臓病患者連絡協議会（現 社団法人 全国腎臓病協議会）が結成されました。結成の後すぐに、厚生省（現 厚生労働省）が要求した腎疾患対策関連予算を実現するよう求めて連日、国会請願やデモ行進を続けました。全腎協結成1年たらずの昭和47年には人工腎臓を5カ年計画で増設し、身体障害者福祉法にもとづく更生医療（育成医療）の適用が実現され患者の医療費自己負担が激減した事は画期的であり、透析導入前などの貧

血や具合の悪い中での行動はまさに、患者の命をかけた戦いの成果でありました。

## 北海道腎臓病患者連絡協議会 (道腎協)の結成

北海道では、昭和52年（1977年）3月6日、札幌医師会館において、道内で透析患者会を結成していた札幌、苫小牧、室蘭、函館、留萌、旭川、北見、釧路の8地区代表者40名が参加して道腎協結成準備会が開催されました。

道内での各地域の透析療法・食事管理の実態や患者会活動の様子等の情報交換や透析施設偏在の問題の解消や透析医療保障制度の活動を目的に結集しました。

同年10月1日、札幌市の「サッポロハイツ」において、会長 細川哲夫氏、事務局 長 阿部隆氏、総務・会計担当 留目英生氏が役員として選出され、全腎協の小林事務局長をお迎えして、全道7ブロック（当時の名称）会員146名で道腎協が正式に結成されました。

現在の道腎協は、26地域患者会（会員4,200名）と全国的に見ても大組織となりました。

道腎協組織の全国の都府県腎協と違う所は、各県腎協は、各病院患者会単位で県腎

協に参加するのに対して、道腎協は、本道の面積の広大さゆえに、各地域患者会単位で加入しますがその形態は、多様であります。周辺市町村単位患者会の集合体の各地域患者会、市単位の地域患者会、または市に一つしか透析施設がなく、一病院患者会だけの地域患者会と様々な形態状況です。

特に本道は、透析施設が大きな市町村にしかなく片道70km、2時間かけて通院しなければならぬ患者さんも多数います。結成以来、透析施設偏在の解消を目指し活動して、徐々に解決していますが、まだ不十分な所もあります。

道腎協は、結成以来道内の「腎疾患総合対策」腎臓病の予防・治療・研究・社会復帰を活動の柱として活動してきました。

平成14年（2002年）からは、道庁との「意見交換会」を毎年実施して、道庁から情報を戴いたり、意見交換をしながら、私たち透析患者の実態とその時々の要望・意見を訴えるなど、貴重な活動もしてきました。

行政に要望活動する為や患者さんの実態を把握し、今後の会活動の指針にする為、数回の実態調査をしました。また、昭和59年（1984年）には北海道腎臓バンク開設を記念して、全国初の北海道一周腎提供登録者拡大キャラバンを2班に分けて、同年7月24日第1次隊6名、8月10日



第2次隊5名で夏の暑さの中、バンクの修理や道に迷ったりしながらも、各地の首長さんの腎臓移植への理解をお願いしました。また、訪問した地域の腎友会の協力を得て、街頭で腎バンク登録への呼びかけを行いながら、全道2千kmを走破しました。そして、週に3回通院する為の北海道独自の通院交通費助成制度、平成2年（1990年）のJR・航空運賃割引、平成6年（1994年）の有料道路割引の内部障害者への適用等は、すべて息の長い活動の成果です。

## 年々厳しくなる医療制度

昨今、国は厳しい財政状況と規制緩和という大義名分のもと、社会保障にも市場原理主義を導入してきました。多少の減免措置を盛り込みながら、「応能負担」から「応益負担」と結果的に大多数の一般国民に痛みを与えただけでした。

社会保険被保険者の医療費自己負担も昭和59年の1割に始まり、平成15年（2002年）には3割負担になり、一度負担増が導入されると次々と改悪されていきます。

北海道においても、平成13年（2001年）10月に、北海道医療給付事業の「重度心身障害者医療費助成制度（マル障）」に

所得制限が導入されました。

平成16年（2004年）10月からは、住民税課税世帯には、原則1割の医療費自己負担（月額上限有り）が実施され、透析医療だけではなく、合併症の治療が必要な患者には、大変厳しい制度になりました。

道腎協や地域腎友会は、マル障制度改悪に反対して、道知事に要望書や、道議会に長宛に地元選出道議会議員などに紹介議員になって戴き請願署名の提出もしました。もちろん議員に対して数度の要望書・陳情書活動も展開いたしました。マル障受給関連3団体と一緒に、知事に対して直接面会しての陳情も実現できましたが、残念ながら実施されませんでした。

また、透析医療自己負担を軽減するため、「更生医療」を使用する活動も併行して行いました。透析医療機関や院外処方薬局への、「更生医療」指定施設指導を数度にわたって要請しました。この要請には道庁も大変積極的に対応して戴きました。

しかし、国の保険制度の変更に、平成18年（2006年）4月から、「更生医療」から「自立支援医療」になりました。全国の都道府県腎協からの反対要望の結果、透析医療は「重度医療」の対象になり、自己負担増の患者は最小限に留めることができました。

この様に、国・道は何でも財政難だから

と云い、一番弱いところから自己負担をさせようと考えています。道腎協は常に情報を収集して、今まで以上に会員の皆様に提供しようと思っています。

## 透析医療を巡る厳しい環境

透析医療においても、平成6年（1994年）の人工腎臓の技術料に生理食塩水などが包括され、平成14年（2002年）には人工腎臓の時間制区分がなくなりました。

また、平成18年（2006年）の診療報酬改定には、貧血治療薬エリスロポエチンの人工腎臓への包括や、夜間・休日加算点数の廃止が検討されました。全国の患者会活動の結果、エリスロポエチンの包括は阻止できせんでしたが、夜間・休日加算点数は減額で済みました。最近の診療報酬の改定内容は透析医療の質が懸念される事ばかりですが、体調を維持するのに重要な長時間透析をしやすい人工腎臓の時間制区分復活など全腎協・日本医師会・透析医会・透析施設など、様々な団体と連携して透析医療の質を確保していかなければなりません。

## 患者会の将来に向けて組織率の向上

道腎協は、ここ数年の組織率低下に対し組織検討委員会を設け、「施設訪問マニュアル」・「患者会入会マニュアル」・地域腎友会の活動助成などを決定して、活動を実施していますが、中々組織率向上が難しい状況です。行政への様々な要望には全道の透析患者を代表する組織として組織率は大変重要です。最近は道庁から重要な患者団体と認識され、透析患者に影響される施策について、道腎協事務局に説明するため訪問されるようになりました。

透析医療や患者会活動に無関心な方が増えるという事は、国の透析医療改悪政策を助長するものです。現在、受けている透析医療制度の恩恵をこれから透析導入される方に引き継ぐのが、私たちの責務だと考慮して戴きたいものです。

結成30周年を迎えられるのも、家族・医療スタッフ、医療機器の進歩、志なかばで逝去された役員・会員など様々な皆様方に支えられての事と思ひ、あらためて感謝申し上げます。

## 北海道の透析患者を巡る医療制度の変遷(概略)

**昭和42 (1967) 年12月**

人工透析に健康保険適用になる。

**昭和47 (1972) 年10月**

腎機能障害者が身体障害者(内部障害者)に含まれ、身体障害者手帳が発行される。更生医療(育成)適用になり、高額な医療費自己負担が大幅に軽減され、1万数千人(当時)と言われた腎不全・尿毒症の患者の生命が救われる。

**昭和48 (1973) 年10月**

道に於いて重度心身障害者医療費助成制度(マル障)が実施され、自己負担が殆ど無料になる。

**昭和53 (1978) 年2月**

腎臓移植が保険適用される。また、夜間・休日透析加算が導入され夜間透析施設が増え働く患者には朗報となる。

**昭和55 (1980) 年4月**

道が腎機能障害者に通院交通費助成事業を実施する。居住している市町村に透析施設がなく、居住地以外の透析施設に通院している患者の通院交通費が軽減される。

**昭和59 (1984) 年10月**

健保本人に1割の自己負担が導入され、透

析患者は限度額1カ月1万円の高額長期疾病(特定疾病・マル長)になる。

**平成4 (1992) 年4月**

「慢性維持透析患者外来医学管理料」が新設され、血液検査などが包括制になり、検査回数が減らされる施設が増える。

**平成13 (2001) 年10月**

道のマル障制度に所得制限(特別障害者手当に準拠)が導入される。

**平成14 (2002) 年4月**

外来透析中の給食費が保険適用廃止される。有料の給食費が負担になり透析中に食事しない患者が増える。

**平成16 (2004) 年10月**

道のマル障制度に住民税課税世帯に、原則1割(月額上限有り)の医療費自己負担が導入される。課税世帯の殆どが更生医療を使用して負担軽減をする。

**平成18 (2006) 年4月**

更生医療(育成)医療が「障害者自立支援医療」になり、透析患者も自己負担増になる。

**平成18 (2006) 年10月**

特定疾病の自己負担が、高額所得者は1カ月2万円になる。

**トピックス**

- 腎バンク開設 (10. 1) 東北・東海・北陸・近畿・中国
- 「北海道腎移植をすすめる会」発足 (北大泌尿器科) (10. 1)
- 夜間透析加算・人工腎臓時間制保険点数適用導入、腎移植健保適用 (2. 1)

**◎道腎協結成(10.1)**

昭和52年5月8日、月寒公民館において、札幌腎臓病患者友の会第4回総会議案書にのっとり、「道腎協発足を目的とした、設立準備委員会」が決議されたが、それ以前の52年3月6日、札幌、苫小牧、室蘭、函館、留萌、旭川、北見、釧路の8地区の集まり、代表40名が参加して開催され、会長細川哲夫氏、事務局長阿部隆氏、総務・会計留目英生氏が役員候補として選出されていた。昭和52年10月1日、サッポロハイツにて、全腎協の小林事務局長をお迎えして、設立委員会を開催、旭川を除く7ブロックの参同を得、道腎協を設立する。その後、帯広ブロックが参加し、8ブロックで運営される。



第1回幹事会

**患者数の変遷**

**1977**  
昭和52年度

- 全国患者総数 22,579人
- 全道患者総数 1,077人
- 全道会員数 146人

- ブロック数：7ブロック
- 会費：道腎協 50円／1カ月  
全腎協 100円／1カ月
- 事務局：札幌市豊平区水車町1丁目78番地 留目氏宅



**道腎協  
設立あいさつ**

会長 細川 哲夫

(要旨)

昨年7月に永年の懸案でありました道腎協設立も各地区の会員各位の熱意により実現しました。資料の収集、整備、各団体との連絡業務等内部体制作りを進めて参りましたが、これらの作業は主としてボランティアの方々のご協力、ご支援を頂き体制作りを進めて参りました。現在の経済不況に加え保険制度の改定により「社会復帰」に不可欠な夜間透析についても変化をきたす恐れがあり、患者の増加に伴う器械不足等諸問題は多々あります。

これらに対処する為、全腎協、難病連等各団体と連絡をもつ各地域の会員と共によりよい透析環境作りに努力して行きましょう。

(どうじん創刊号より)

**一年のあゆみ**

3月6日 道腎協結成準備会

腎移植の映画と講演 (札幌医師会館)

10月1日 北海道腎臓病患者連絡協議会

(道腎協) 結成

10月17日 道腎協、北海道難病連に加盟

3月5日 道腎協、第1回幹事会開催

3月14日 機関紙「どうじん」創刊

**社会のうごき**

8月7日 有珠山が噴火

小有珠の沈下、新火口出現、被害総額300億円を超える

9月28日 日本赤軍、日航機をハイジャック

日本人の平均寿命、この年世界一に

**トピックス**

- 小中学生の毎年検尿義務化となる（10月）
- 登録者から初めて死体腎移植（2.5）

**●通院交通費助成について**

道東3地区通院交通費助成の請願は道議会の採択を得、民生部予算に組み込まれるが、知事査定ではねられ、もう一步だった。その後も民生部に働きかけ全道労協からも強力な後押しの約束をいただき、民生部も次の議会には上程するとの前向きの姿勢。また市町村でも各個に通院交通費の助成を実施計画している所もある。

（どうじん2号・第1回総会報告より）

**●各ブロック活動報告より**

- 函館：患者数約20名、道南独自のアンケートでは、一番の問題は「社会復帰」。
- 札幌：総会はレクリエーションを兼ねて樽前ハイランドで開催、その他、春・秋のソフトボール大会。初年度会活動に協力の患者31名が再入会。
- 室蘭：不安定な社会状況下で、安定した透析と雇用の安定のためにはどうしたらいいか。ある会社では従業員4,000名中200名の首切りが実施されようとしており身障者も入っている。地域ブロックとして、道腎協に協力しつつも社会復帰などの基本線活動を

**患者数の変遷**

**1978**

—昭和53年度—

- 全国患者総数 27,048人
- 全道患者総数 1,143人
- 全道会員数 254人

- 第1回定期総会開催
- ブロック数：8ブロック（帯広参加）  
帯広参加、小樽が札幌ブロックに参加、北見ブロックに石田医院入会

- に反映させたい。登別・伊達にも窓口を。
- 苦小牧：患者の親睦をはかるのが主目的、組織率は100%、レクリエーションは年2回、交通費助成では2～3の市町村に交渉中。
- 留萌：留萌市にベッド数増を要望。結果、夜間透析実施はじまる。十勝岳温泉にて研修会の予定。
- 釧路：野外レクリエーション実施。6月5日にはみなとライオンズクラブより103名の腎提供登録を受ける。通院交通費では白糠町に陳情。
- 帯広：花見、サマーピクニック、ソフトボール大会等実施。会員相互の親睦を深め正・準会員53名となる。  
（どうじん2号より）

**●第1回定期総会(6.18)**

**一年のあゆみ**

**社会のこぼれ**

- |        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 4月1日   | 患者と家族の全国集会参加                   |
| 4月16日  | 第2回幹事会開催                       |
| 6月18日  | 第1回定期総会開催                      |
| 7月10日  | 道内透析患者の実態調査（回答数587名）           |
| 11月7日  | 道に道東3地区より通院交通費助成の請願書           |
| 11月24日 | 道内の通院交通費の実態調査実施                |
| 12月23日 | 道議会にて道東3地区の通院交通費助成の請願採択        |
| 4月2日   | 第9回全国高校バレーボール選抜大会女子決勝で、妹背牛商初優勝 |
| 5月20日  | 成田空港開港                         |
| 10月24日 | 有珠山の泥流温泉街を襲う                   |
| 11月21日 | 球界、「江川」で大騒動                    |
| 1月13日  | 初の大学共通一次試験                     |

**トピックス**

- 国立佐倉病院腎センターオープン (4. 1)
- 角膜及び腎臓移植に関する法律成立 (12. 11)
- 内部障害者にも乗用車物品税免除適用実施 (3. 25)

**●第2回定期総会**

道内7ブロックから代表45名参加。「北海道腎移植をすすめる会」の平野先生(北大)道難病相談員の清水先生、北海道難病連の伊藤事務局長をお迎えし、お話及び講演をたまたまった。

平野先生からは「血液透析」と「腎移植」は腎不全治療において車の両輪のように重要との講演。

清水先生からは、北海道各地域の患者「すみずみ」の意見が「ひとつの人格」にまとまるには道腎協や難病連等の組織がなければならないとのお話。

伊藤事務局長からは「医療福祉の切り捨てを許さない運動を難病連、道腎協が協力して行おう」とのお話。

その後「装着型人工腎臓JAK-2」についての映画上映。(当時は新しい試みとして、装着して透析を行う事のできる人工腎臓の開発が望まれていた)

**患者数の変遷**

**1979**  
昭和54年度

- 全国患者総数 32,331人
- 全道患者総数 1,377人
- 全道会員数 337人

● ブロック数：10ブロック (旭川・稚内参加)

**●通院交通費助成要求の全道決起集会**



**●第2回定期総会(6.17)**



**一年のあゆみ**

- 6月17日 第2回定期総会  
腎移植に関する講習会
- 10月10日 機関紙「どうじん」2号発行
- 10月17日 通院交通費で三者会談(全道労協・難病連・道腎協)
- 11月28日 通院交通費で記者クラブ会見
- 12月1日 北海道ブロック会議
- 12月2日 通院交通費助成全道決起集会
- 12月4日 通院交通費で要望書提出
- 1月17日 道議会にて通院交通費の要望書採択

**社会のうねり**

- 4月8日 地方選で保守・中道圧勝
- 5月4日 道知事選堂垣内尚弘氏三選
- 5月4日 英国に初の女性首相(サッチャー)
- 5月10日 「北海道スモン訴訟」患者側全面勝訴
- 9月10日 豊平川、25年ぶりサケそ上
- 10月7日 総選挙で自民完敗
- 10月19日 台風20号、道南・道東、被害大



**トピックス**

- 道腎協新会長に岩崎薫氏就任（6.29）

**●通院交通費助成の実施について**

昭和53年度から継続して道へ申請中であった透析患者通院交通費助成の600万円の予算化が決まり7月1日より実施された。対象者は道内在住の透析患者で身体障害者手帳取得の者、自分の在住する市町村に透析施設がなく、他の市町村に通院している者で生活保護を受けていないこと。年2回の交付で交通手段は、国鉄・バス・自家用車等にかかわらず補助されることとなった。また所得により補助金額に違いがある。



通院交通費等で尽力された  
故 留目英生事務局長

**●「北海道透析白書」完成(6.15)**

細川道腎協会長は、白書の「序」において、血液透析は、患者の社会復帰の手段として重要な役割を果たしている。患者の社会復帰にあたっては家族はもちろんのこと、職場など周囲の人々の深い理解を必要としているが、今日の社会状況は患者を理解し受け入れる体制にないとし、透析を受けながらの社会復帰のために、社会の理解を得ることが必要と考え、第1部では腎臓の働き・人工腎臓・日常管理について、第2部では北海道の患者が置かれている実態調査の報告という構成で白書を編したことを記している。

**●第3回定期総会(6.29)****患者数の変遷**

- 全国患者総数 36,397人
- 全道患者総数 1,549人
- 全道会員数 535人

# 1980

—昭和55年度—

- ブロック数：10ブロック
- 会費：道腎協 100円／1カ月（10.1）
- 事務局移転：札幌市中央区北3条20丁目  
北3条内科クリニックビル（1月）

**●実態調査報告より**

- ①回答者：587人（男365人、女220人、性別無記入2人）道内患者約1,400人中、回答率42%
- ②透析施設・通院時間等：通院に往復2時間以上が22%、最高7時間の患者もいた。都市集中型の透析施設偏在が顕著。通院時間や交通費の問題が示され、身近なところに施設をという希望多い。
- ③透析回数：週3回が約65%
- ④経済状態：生活維持者は本人約37%、本人と家族25%、家族約35%、収入源が、月給自営約43%、年金40%、生活保護6%。年収が100万以下の者が過半数を超えた。生活状況については、普通という回答が約57%である半面、困っているが約30%のほり、透析に関連して生活状況が苦しくなっている人が多くいることを示している。その他、食事療法や身体状態、結婚、生きがい、腎移植等についても、患者の切実な声

が寄せられた。

12月8日 J・レノン射殺される

10月21日 長島茂雄巨人軍監督辞任

9月25日 秘境知床に横断道

**社会のうごき**

10月10日 「どうじん」3号発行

補助事業実施

7月1日 道が腎機能障害者通院交通費の

6月29日 第3回定期総会

6月15日 「北海道透析白書」完成

5月2日 健保改悪阻止ハガキ行動

**一年のあゆみ**

**トピックス**

- 診療報酬の改定 (6.1)  
人工腎臓の技術料と材料費の分離  
外来透析時の給食費 (50点) の別途設定  
夜間透析加算の大幅な引き上げ  
腎臓移植手術料の大幅引き上げ
- 生体腎死体腎提供者費用の保険給付
- ニプロ社の新ダイヤライザー「NACシリーズ」で眼障害が多発170名 (3.12) 被害

**患者数の変遷**

**1981**  
— 昭和56年度 —

- 全国患者総数 42,223人
- 全道患者総数 1,896人
- 全道会員数 575人

- ブロック数: 11ブロック (小樽後志地方単独ブロックになり参加)

● 第4回定期総会(5.23)

初の地方開催として、旭川において、「腎不全を考える集い」旭川大会とともに開かれる。



初の地方開催を旭川で (第4回定期総会)

● 第1回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン実施(11.18)

腎臓移植については、会員の関心も強く、これまでの運動で腎臓提供者登録制度・腎移

- 植法の制定・移植手術費用の公費負担・腎臓提供者 (生体腎、死体腎とも) の費用の保険給付等が実現し、その体制は大きく拡充されてきた。しかし死体腎移植の普及にとって、腎提供登録者の絶対的不足が最大の問題となっている。このキャンペーンでは、45都道府県組織が取り組み、道内では5カ所・150人が参加した。これにより、登録者は増加した。マスコミの報道もあり、それまでの月間登録者20人前後から、いっきに150人に増加しその後も増え続けるという具体的成果を収めた。

(「どうじん」4号より)



札幌大通りでの腎キャンペーン風景

**一年のあゆみ**

**社会のつぎ**

- |        |                          |
|--------|--------------------------|
| 5月23日  | 第4回定期総会                  |
| 5月24日  | 「腎不全を考える集い」旭川大会開催        |
| 11月18日 | 第1回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン実施   |
| 7月19日  | モスクワで変則オリンピック開催          |
| 8月10日  | 国鉄赤字40線廃止へ 道内では8線        |
| 8月17日  | 東北・上越新幹線が東京駅へ乗り入れ        |
| 10月1日  | 国鉄石勝線開業                  |
| 10月16日 | 北炭夕張新鉱でガス突出事故 死者・行方不明93人 |
| 11月10日 | 雄冬岬トンネル開通 40日で巻き出し部崩壊    |
| 5月5日   | 道内低温、8月豪雨で大被害            |
| 3月21日  | 浦河沖で大地震、浦河震度6            |



**トピックス**

- 米国から空輸された死体腎移植が室蘭日鋼記念病院で行われ、米国からの腎臓移植としては道内で第1号、第2号となる(9.22・29)
- CAPD「携帯透析」実用化へ(道新)(11.16)
- 全国初の専用施設「北海道難病センター」がオープン(1.12)
- 腎移植オンラインシステムがスタート(国立佐倉病院)(3.23)
- ハガキで大蔵省・厚生省へ抗議運動(1月) 社会保障費の大幅削減また透析医療の立て替え払い制、入院食事代患者負担等が検討されていることに対し、全腎協とともに実施

**●初の道議会請願  
議会へ提出(12.3)**

- 請願6項目
- (1)北海道腎バンクを設立する事。
- (2)腎提供登録者を増やすための広報活動を強めると共に腎臓移植手術実施医療機関、地方腎移植センターの整備をすすめて下さい。
- (3)腎疾患総合対策を確立させるために、患者代表も含めた対策委員会を設置することを検討して下さい。
- (4)腎不全患者が安心して透析治療を継続できるよう保障して下さい。
- (5)道内の地方公務員採用基準を緩和して腎臓病疾患の雇用を促進して下さい。
- (6)他市町以外の透析病院へ通院している透析患者への通院交通助成費の増額を検討して下さい。

**患者数の変遷**

- 全国患者総数 47,978人
- 全道患者総数 2,070人
- 全道会員数 914人

**1982**

—昭和57年度—

- ブロック数：11ブロック
- 全腎協国会請願署名数：(全道) 11,466名

**●第5回定期総会(5.29)  
特別記念医療講演会(5.30)**

第5回総会後、翌日、札幌市教育文化会館において、結成5周年を記念し特別記念医療講演会が行われた。約200名が参集し、本道で初めて死体腎移植に成功した日鋼記念病院の西村院長、安田副院長、スタッフの乙部技師、さらに米国より昨年5月より死体腎が送られて来ているが、この運動に努力されている来道中の本道出身のUCLAロサンゼルス大学病院の岩城裕一助教授に特別に講演をお願いした。いずれも、移植を願う熱心な患者・家族に多大な感銘を与える貴重な講演会となった。(「どうじん」4号より)



札幌市教育文化会館にて(第5回定期総会)

**一年のあゆみ**

- 5月29日 第5回定期総会開催
- 5月30日 5周年記念医療講演
- 8月1日 「どうじん」創立5周年4号
- 9月19日 第2回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン
- 11月 道に「腎疾患対策委員会」の設置を要望
- 12月3日 初の道議会請願議会へ提出
- 1月1日 「どうじん」5号発行

**社会のつぎ**

- 4月2日 フォークランド紛争勃発
- 6月12日 82北海道博覧会
- 8月18日 参院全国区に比例代表制
- 10月12日 札幌西友ストア史上空前の食中毒7千人
- 3月11日 日本近距離航空機・中標津で墜落

**トピックス**

- 透析の軽量化に成功、わずか4.5kg歩きながら使用でき「家庭用」へ道開く為に実用化を目指す（岩手新報）（9.6）
- 厚生省、脳死に関する研究班発足（9.10）
- 欧米で腹膜透析（CAPD）の利用者が増加中（日経メディカル）（1.9）
- 医療費改定で透析医療費再び引き下げ。在宅でのCAPDの健保適用が実現（3.1）

● **全腎協、厚生大臣に健康保険改悪案について要望書(10月)**

道腎協、全腎協ともに連絡を取り合い、全国患者家族団体連絡会の一員として、同会の医療制度改悪反対声明、厚生大臣申し入れ（8.22）に参加。これは8.18に林厚生大臣が現10割給付の保険本人給付率を8割に引きさげる等の改革案を検討していることを明らかにしたことによる。

● **健康保険改悪にハガキで抗議運動(11.1)**

全腎協では全会員に反対のハガキを内閣総理大臣、厚生大臣あてに出すことの呼びかけを決定し、道腎協でも早急に全会員に呼びかけた。



中村信夫事務局長(左)と伊藤たてお氏(道難病連事務局長)

**患者数の変遷**

**1983**  
—昭和58年度—

- 全国患者総数 53,017人
- 全道患者総数 2,194人
- 全道会員数 1,210人

- ブロック数：11ブロック
- 全腎協国会請願署名数：（全道）19,306名
- 事務局移転
  - ・ 札幌市中央区北3条西20丁目佐々木ビル（6月）
  - ・ 札幌市中央区北7条西8丁目岩本薬局2F（2月）

● **健康保険制度改革案を厚生省が社会保険審議会、社会保障審議会に対し諮問(1.15)**

（主な内容）

被用者保険本人の給付率（現行10割）を昭和61年度から8割にし、それまでは9割とする。現行5万1千円の高額療養費自己負担限度額を5万4千円とする（低所得者は外来3万9千円、入院3万円）。また「高度医療、特別のサービスの提供」については一部保険を適用するとしながら、差額徴収を認め拡大していく考えを新たに示した。

この改革案は、昭和57年8月の当初案からみれば、入院時食事代の一部負担、ビタミン剤、かぜ薬、胃薬等の保険給付除外といった案は全腎協など患者団体の強い反対もあって中止されたが、これまでの初診時の一部負担金以外は自己負担のなかった被用者保険本人も1割の負担という案で、1割負担分は更生医療でというのが、透析のある道内指定機関は46カ所のみで全道各地の会員からも、「改悪されると透析患者はどうなるのだ。」という問い合せ相次ぐ。

**社会のこぼれ**

- 2月10日 サラエボ五輪、北沢選手がスケートで銀メダル
- 10月22日 白糠線廃止
- 9月1日 大韓航空ボーイング747 サハリン沖で消息たつ、269人死亡
- 7月15日 免田栄被告無罪
- 5月26日 秋田沖M7.7の地震
- 4月11日 道知事選、横路孝弘氏当選
- 3月25日 「どうじん」8号発行

**一年のあゆみ**

- 6月1日 「どうじん」6号発行
- 6月7日 道に腎移植センターの設置を要望
- 7月3日 第6回定期総会開催
- 9月18日 第3回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン（全道8ブロック11市町）
- 9月19日 自民党道支部に腎移植センター設置を要望
- 10月29日 東北ブロック会議に初参加
- 11月1日 「どうじん」7号発行
- 健康改悪にハガキで抗議運動

**トピックス**

- 腎移植を受けた患者同士の夫婦の間に世界初の健康な赤ちゃん誕生（5.13）
- 健康保険法が成立（10.1実施）  
健保本人給付率10割→9割（本則8割）  
高額療養費の高額長期疾病に人工透析・血友病が指定（限度額1万円）
- 道、人工透析と血友病の限度額1万円に◎を適用（10.1）
- 身体障害者福祉法改正（10.1）
- 「北海道腎移植センター」市立札幌病院に開設（11.1）
- 中央社会保険医療協議会が診療報酬改定を答申（3月改定）
- 人工腎臓の時間区分導入（1.31）  
4時間未満 1,300点、4時間以上 1,800点等

●「北海道腎臓バンク」正式発足  
腎移植センターとも提携(5.28)

財団法人「北海道腎臓バンク」（理事長・武井正直北洋相互銀行社長）は、5月28日道知事の設立許可を受け、正式に発足した。同バンクは10万人を目標に腎臓提供者の登録を進める一方、厚生省の事業として札幌に開設予定の「北海道腎移植センター」と提携し、人工透析患者への腎移植を推進したいとしており、広く一般に協力を呼びかけている。腎臓バンクは、賛助会員の年会費（法人2万円、個人1万円）により運営され、これまで集った募金は、3,200万円。主な事業は死後腎臓提供者の登録推進。4月末で3,602人が登録を終えているが、適合性の問題があるため、実際に移植につながるのは5千人の登録者に対し年間1件程度。同バンクは、本年度中に

**患者数の変遷**

**1984**  
—昭和59年度—

- 全国患者総数 59,811人
- 全道患者総数 2,347人
- 全道会員数 1,334人

- ブロック数：13ブロック（網走オホーツク会・中湧別参加）
- 全腎協国会請願署名数：（全道）8,156名
- 事務局移転：札幌市中央区北1条西10丁目  
ダイアパレス北1条605号（12月）

6千人、将来は10万人を目標に登録者を増やしたい考えた。  
（「どうじん」9号より）

●腎提供登録者拡大全道一周キャラバンキャンペーン実施(7.24~27・8.11~13)  
中村事務局長以下二次二次合わせ7人の  
隊員2,000キロ走破！

道腎移植センターと財道腎バンクの開設を記念して、全道民に理解と協力を呼びかけた。結果約200人がドナーに新登録。



中村事務局長と全道一周キャラバンキャンペーン



**一年のあゆみ**

- 6月10日 第7回定期総会
- 7月10日 「どうじん」9号発行
- 7月24日 腎提供登録者拡大全道一周キャラバンキャンペーン隊出発（3泊4日）
- 9月16日 第4回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン
- 12月20日 「どうじん」10号発行

**社会のうごき**

- 3月〜12月 グリコ・森永事件  
道内水稲大豊作
- 11月1日 お札衣がえ（千円・五千円・一万円）聖徳太子↓福沢・新渡戸伊藤博文↓夏目漱石  
レーガン大統領再選  
ロス五輪・冬季サラエボ五輪開催
- 3月10日 青函トンネル本貫通
- 3月11日 ゴルバチョフ政権誕生

**腎提供登録者拡大全道一周キャラバン  
キャンペーン隊員**

- 中村信夫事務局長・鈴木啓三氏・佐藤昇氏
- ・住野健夫氏・岡根徳政氏・千葉重則氏・
- 桜田泰憲氏

**トピックス**

- 「国民年金」「厚生年金」法改正案が成立（昭和61年4月実施）（4.24）
  - ①年金の一元化・基礎年金制度導入
  - ②20歳前障害への基礎年金支給
  - ③事後重症5年制限廃止（昭和60年7月から）
- 厚生省、脳死に関する研究班が判定基準をまとめる（12.6）

**患者数の変遷**

**1985**  
昭和60年度

- 全国患者総数 66,310人
- 全道患者総数 2,771人
- 全道会員数 1,621人

- ブロック数：15ブロック（夕張参加、岩見沢2病院単独で参加）
- 全腎協国会請願署名数：（全道）19,301名

● 初の「腎疾患総合対策」シンポジウム開催（10.27）

テーマを「本道に於ける腎臓移植をどう推進するか」にしぼり、札幌市・北海道教育会館にて5氏のパネラーそれぞれの立場から意見をお聞きした。

- 透析医の立場から渡井幾男先生（北海道透析医会会長・渡井医院院長）
- 移植医の立場から平野哲夫先生（市立札幌病院腎センター）
- 行政機関の立場から厚谷純吉先生（北海道衛生部保健予防課・医師）
- 移植を望む透析患者の立場から岩崎薫氏（道腎協会長）
- 移植された立場から佐藤道美氏（道腎協幹事・室蘭腎友会事務局長）

● 全道一斉腎提供登録街頭キャンペーン・全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン実施（道腎協独自で年2回開催）



腎キャンペーンに参加した釧路の皆さん

**社会のこぼれ**

- 4月1日 「電話」「たばこ」民営化
- 5月12日 三菱南大夕張、ガス爆発
- 8月12日 日航ジャンボ機墜落520人死 亡4人が奇跡の生還
- 11月20日 米ソ、核不戦
- 1月28日 スペースシャトル・チャレンジャー大爆発、7人死亡
- 2月25日 フィリピン、マルコス政権崩壊

**一年のあゆみ**

- 5月1日 「どうじん」11号発行
- 5月25日 専門委員会制発足
- 5月26日 第8回定期総会
- 6月16日 全道一斉腎提供登録街頭キャンペーン
- 9月22日 第5回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン
- 10月27日 初の「腎疾患総合対策」シンポジウム（札幌市）
- 11月1日 道内透析患者の実態調査実施
- 2月25日 医療関係者との懇談会（札幌）
- 3月1日 「どうじん」12号発行
- 3月 知事候補に公開質問状

**トピックス**

- 透析点数2年連続の引き下げ  
4時間未満 1,250点 (←1,300点)  
4時間以上 1,700点 (←1,800点)  
夜間透析加算、食事加算は点数アップ、CAPD加温器給付(4.1)
- 厚生省に「腎不全対策推進会議」が発足、委員に全腎協小林事務局長(6.5)
- 患者運動の全国組織「日本患者・家族団体連絡協議会」(略称・日患連JPC)結成(6.15)
- 厚生省、初の「腎移植推進月間」を設定(10.1~31)

**●道内腎臓病患者実態調査報告  
「どうじん」15号発行**

これは、昭和55年発行「北海道透析白書」での調査結果との比較を交えながら、道内透析患者の置かれている現状を報告したものである。

- ①回答者：1,535人(男838人、女633人、性別無記入64人)道内患者約3,000人中回答率約51%
- ②年齢層：16歳~64歳約87%、65歳以上前回25人、今回67人
- ③透析施設、通院等：通院に往復2時間以上は6.8%と減少。通院交通費に月1万円以上が24.8%、交通費助成を受けていないが50%、各市町村のバス、タクシーチケットの補助等知らずにいる人もいると考えられるが通院交通費助成制度の充実が求められている。
- ④透析による収入の変化で生活が苦しくなったが約38%、何らかの賃金カットがありが約

**患者数の変遷**

**1986**

—昭和61年度—

- 全国患者総数 73,537人
- 全道患者総数 3,130人
- 全道会員数 1,848人

- ブロック数：16ブロック(滝川参加)
- 全腎協国会請願署名数：(全道)18,233名

- 半数。夜間透析の少なさ、受け入れ先の無理解による社会復帰困難の回答は減る傾向にあるが、病気により退職転職した人が約26%。
- また年収100万円以下の方は前回約30%から今回27.7%(426人)で、いまだ生活状態の苦しい人が多くいる。
- その他透析導入前が糖尿病が6.3%あり今後増加が予想される。生きがいが、腎移植、家庭透析、長期透析に伴う合併症、公的制度の受益状況、年金受給に関して等調査報告された。

**●マスコミとの連携による腎提供登録キャンペーン活動さかんに!**

- 北海道新聞が3回にわたり1面を使つての腎提供呼びかけ掲載
- NHK道支局のTVキャンペーン
- STVの腎臓病を考える医療講演会
- 音楽コンサートでのキャンペーン(室蘭)

**一年のあゆみ**

**社会のうごき**

- 5月1日 「どうじん」13号発行
- 5月25日 第9回定期総会
- 6月15日 全道一斉腎提供登録街頭キャンペーン
- 8月10日 「どうじん」14号発行
- 10月5日 第6回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン
- 3月10日 「どうじん」15号発行(道内腎臓病患者実態調査報告)
- 4月26日 チェルノブイリ原発事故
- 7月7日 衆参同日選挙自民圧勝
- 9月6日 土井たか子、社会党委員長に
- 9月8日 梅田義光被告無罪  
円高加速、超低金利へ



**トピックス**

- 臨床工学技士法成立（5.25）  
テクニシャンに国家資格が与えられて透析医療の安全確保へ
- 全腎協、JRなどの運賃割引の国会請願（衆・参採決）（9.2）
- 日医・生命倫理想談会、最終報告で、脳死・臓器移植認める（1.12）
- 診療報酬改定（2.25）  
人工腎臓の水処理加算新設  
移植点数増額

**患者数の変遷**

**1987**  
— 昭和62年度 —

- 全国患者総数 80,553人
- 全道患者総数 3,437人
- 全道会員数 1,975人

- ブロック数：17ブロック（江別参加）
- 会費：道腎協 200円／1カ月に
- 全腎協国会請願署名数：（全道）21,019名
- 北海道腎登録者数：9,395名
- 事務局移転：「ダイアパレス」305号から303号へ

◎道腎協会旗完成

かねてから完成を待たれていた道腎協会旗が第23回幹事会で検討され完成した。全腎協のマークに北海道をデザインしたマークを中心に、上部に「道腎協」、下部にフルネームが入り道腎協の行事あるごとに掲げることとなった。



◎道腎協結成10周年記念誌  
「どうじん」発刊(12.30)  
反響つづく!!

◎道腎協含む5団体、  
道議会へ署名運動展開(2.2)

第23回幹事会決定に基づき、道立江差、羽幌、町立中標津病院に透析施設設置と、JR、航空、有料道路での割引の2点について、署名2万余名を持って内部障害者5団体（人工肛門、心臓病、低肺機能及び道腎協と難病連）は道議会議長に請願書を提出。同時に内部障害者割引問題で、JRほか6社に検討を要請。



藤井道議会議長（右から3番目）に請願する代表者たち

一年のあゆみ

社会のこぼれ

- |       |          |               |        |            |  |             |                  |  |             |                      |                  |             |             |
|-------|----------|---------------|--------|------------|--|-------------|------------------|--|-------------|----------------------|------------------|-------------|-------------|
| 11月6日 | 9月30日    | 7月31日         | 4月1日   | 3月10日      | 2月2日                                       | 1月28日       | 1月10日            | 12月30日                                     | 11月10日      | 10月4日                | 5月31日            | 5月10日       |             |
| 竹下新内閣 | 道産子3横綱時代 | 大乃国・千代の富士・北勝海 | JRスタート | 釧路湿原が国立公園に | 道議会へJR・航空・有料道路割引、道立江差・羽幌・町立中標津病院新設請願署名運動展開 | 「どうじん」19号発行 | 道透析医会に転院問題で要望書提出 | 道議会へJR・航空・有料道路割引、道立江差・羽幌・町立中標津病院新設請願署名運動展開 | 「どうじん」17号発行 | 道腎協10周年記念誌「どうじん」発刊   | 道透析医会に転院問題で要望書提出 | 「どうじん」18号発行 | 「どうじん」16号発行 |
|       |          |               |        |            |  |             |                  |  |             | 第7回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン | 第10回定期総会         |             |             |
|       |          |               |        |            |  |             |                  |  |             | (第10回総会記念特別講演)       |                  |             |             |

**トピックス**

- マル優廃止 (4. 1)
- フィリピン生体腎移植問題で全腎協会長、談話発表 (7. 13)
- 全腎協会員5万人突破 (8月)
- 腎バンク全国17カ所に (登録者総数21万人越える) (11. 6)

**●道腎協結成10周年記念  
第11回定期総会開催(5.22)**

10周年記事業として、臓器移植基金を10万円ずつ、東京女子医大・太田和夫先生と北海道腎バンクに贈呈。また道腎協結成創成時に会の発展に尽くされた方々 (故・留目英生氏ほか12名) と長期にわたり腎臓病の救命と治療に尽力された医師 (北海道透析医会会長・渡井幾男先生ほか49名様) に感謝状と記念品贈呈。

その後、特別記念講演として太田和夫先生による「腎移植の過去・現在・未来」と題する講演が行われた。



総会宣言をする佐藤 昇氏 (室蘭)

**患者数の変遷**

**1988**  
昭和63年度

- 全国患者総数 83, 221人
- 全道患者総数 3, 659人
- 全道会員数 2, 096人

- ブロック数: 19ブロック (浦河、根室参加)
- 全腎協国会請願署名数: (全道) 18, 160名
- 北海道腎登録者数: 10, 107名
- 事務局移転: 札幌市北区北35条西5丁目 AMS南麻生308
- 道腎協企画旅行 (第1回)  
九州の旅、22名参加 (5. 10)  
ハワイの旅、11名参加 (12. 6)

**●「身体障害者旅客運賃割引制度の内部障害者への適応拡大に関する請願書」の道議会での主旨説明(6.29)**

昭和62. 2. 2実施の道議会議長への請願に続き、岩崎会長が道議会 (生活福祉委員会) で請願書の主旨説明を行う。請願は7. 19、道議会本会議で採択された。



J R 運賃割引で主旨説明をする岩崎 薫会長

**社会のあゆみ**

1月7日 昭和から平成へ、昭和天皇崩御  
12月19・24日 十勝岳噴火  
7月20日 新千歳空港開港

3月10日 「どうじん」23号発行  
12月10日 「どうじん」22号発行  
10月30日 医療講演会  
10月29日 第25回ブロック会議開催

8月10日 「どうじん」21号発行  
10月9日 第8回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン (全道400名参加)  
7月19日 J R 運賃割引制度導入の請願道議会で採択

5月22日 道腎協結成記念第11回定期総会、記念特別医療講演「腎移植の過去・現在・未来」東京女子医大・太田和夫先生

5月10日 「どうじん」20号10周年記念号発行

**一年のあゆみ**



**トピックス**

- 血液が不適合の人同士でやりとりする腎臓移植の成功が全国で相次ぐ（朝日新聞）（7.11）
- 厚生省、「移植コーディネーター」を21国立病院に配置（秋）
- 「脳死臨調」設置法が衆議員で可決成立（12.1）
- 腎性貧血に朗報!! エリスロポエチンを中央薬事審議会が製造承認を答申（12.20）
- 死体腎、2病院で同時移植  
市立札幌病院腎移植センターは心臓死患者から取り出した腎臓を他の2人の腎臓病患者に市立札幌病院と札幌北楡病院で同時移植することに成功。心臓死者からの腎移植は道内で9年ぶり3例目（12.27）

◎ JR・航空運賃の内部障害者割引適用!!

長年にわたる運動が実り、JRでは第1種身体障害者（腎機能障害者はこれにあたる）が、介護者とともに乗車する場合、普通・定期・回数乗車券及び普通急行券が介護者とも



JR北海道神木副課長と岩崎会長

**患者数の変遷**

**1989**  
—平成元年度—

- 全国患者総数 88,534人
- 全道患者総数 3,921人
- 全道会員数 2,260人

- ブロック数：20ブロック（千歳参加）
- 全腎協国会請願署名数：（全道）17,215名
- 北海道腎登録者数：10,754名（4月）
- 道腎協企画旅行：沖縄の旅

- 50%割引。単独の場合は100kmを超えて乗車する時50%割引。航空運賃は、国内線に限り満12歳以上の第1種身体障害者が介護者とともに、または単独で利用する場合に、介護者とも普通大人片道運賃の25%が割引。（平成2.2.1より）

◎ 第1回道腎協役員研修会  
全腎協副会長・小関修氏を招いて  
「患者活動について」の2時間の講演



**一年のあゆみ**

- 4月8・9日 第26回ブロック会議
- 5月10日 「どうじん」24号発行
- 5月28日 第12回定期総会・記念講演
- 6月10日 「どうじん」25号発行
- 6月29日 JR北海道本社に役員5名が請願行動
- 9月10日 「どうじん」26号発行
- 9月16・17日 第27回ブロック会議
- 9月17日 第1回役員研修会
- 10月8日 第9回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン
- 12月10日 「どうじん」27号発行
- 2月1日 JR・航空運賃割引適用
- 3月10日 「どうじん」28号発行

**社会のごとき**

- 4月1日 消費税3%スタート
- 6月4日 天安門事件
- 7月23日 参院選で与野党逆転
- 9月29日 道内最古の北炭幌内炭鉱閉山
- 11月9日 ベルリンの壁崩壊
- 2月5日 ゴルバチョフ共産党独裁放棄

### トピックス

- 診療報酬改定、休日透析加算、CAPD大幅に点数加算、老人医療に定額払い制導入 (4.1)
- エリスロポエチン保険適用 (4.20)
- 市立札幌病院で死体腎移植 (8.5)
- 道立羽幌病院に透析施設設置人工透析治療始まる (12.18)
- 運転免許試験場 (道内6カ所) への腎登録カード設置が実現 (1.31)

### 患者数の変遷

# 1990

—平成2年度—

- 全国患者総数 103,296人
- 全道患者総数 4,534人
- 全道会員数 2,419人

- ブロック数：20ブロック
- 会費：全腎協 130円/1カ月 (10月～)
- 全腎協国会請願署名数：(全道) 24,529名
- 北海道腎登録者数：11,479名
- 道腎協企画旅行：四国の旅 (全腎協四国総会参加を兼ねて)

### ◎第13回定期総会(5.27)



総会后、長期透析者の増加に伴い切実な問題になってきている合併症 (アルミニウム骨症、腎性貧血の改善、二次性副甲状腺機能亢進症等) について、腎友会滝川クリニック院長、菅原剛太郎先生による記念講演が行われた。

### ◎有料道路通行料金身体障害者割引制度に対する内部障害者への適用拡大を要望する請願署名運動実施 全道で5,641名の署名(8月)

11月、全腎協による国会請願は不採択となった。

### ◎道腎協、初の文化講演会

「日本人の物差し、外国人の物差し」と題し、国学院女子短期大学、倉島齊先生に日本人と外国人の違いをユーモアたっぷりにお話いただき、楽しい一時を過ごす。

### ◎国際障害者年10周年記念行事にも協力

国際障害者年日本推進協議会と連携し、12月9日を障害者の日に制定し休日とする国会請願に協力。

### 社会のつどき

- 3月2日 札幌冬季ユニバーシアード大会
- 11月20日 サツチャー辞任・メイジャー就任(英)
- 10月3日 ドイツ統一(45年ぶり)
- 8月28日 コンスタンチン君、サハリンからやけどの治療で札幌医大へ。

### 一年のあゆみ

- 4月7日 第28ブロック会議
- 5月10日 「どうじん」29号発行
- 5月27日 第13回定期総会・医療講演
- 6月10日 「どうじん」30号発行
- 9月10日 「どうじん」31号発行
- 10月7日 第10回全国一斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン
- 10月27日 第29回ブロック会議
- 10月28日 文化講演会
- 12月10日 「どうじん」32号発行
- 1月17日 北海道腎バンクへ臓器移植基金募金箱から5万円寄付
- 3月10日 「どうじん」33号発行

**トピックス**

- 富良野協会病院透析施設設置（4月）
- 雲仙普賢岳で大火砕流発生、会員宅に被害（6.3）
- 北海道臓器移植連絡協議会を結成（発起人会に出席～北大、札幌大、旭医をはじめ道内の主な救急医療機関の医師）（7.15）
- 老人保健法「改正」案成立、患者一部負担引き上げ等（9.12）
- 腎移植者の全国組織がスタート（10.26）
- 雲仙普賢岳の災害に際し全国の会員家族から約1,809万円のカンパ集まる（10.31）
- 全腎協、国会請願に合わせて有料道路通行料金身体障害者割引制度に対する内部障害者などへの適用拡大を要望する請願も実施（3.26）

● 第14回定期総会



新役員の紹介

**患者数の変遷**

**1991**  
—平成3年度—

- 全国患者総数 116,303人
- 全道患者総数 5,363人
- 全道会員数 2,544人

- ブロック数：21ブロック（深川参加）
- 会費：全腎協 150円／1カ月（4月～）
- 全腎協国会請願署名数：（全道）23,386名
- 北海道腎登録者数：12,061名
- 全国腎登録者数：331,654名

● 全腎協第22回総会北海道大会  
（平成4年5月開催）実行委員会開催

- 道腎協独自（8.24・25）  
宿泊会場・総会会場の下見等
- 全腎協との第1回実行委員会（11.24）  
具体的な役割分担、総会の概要の説明等



● 会員拡大PR版「どうじん」発行

- 組織強化に向けて道内全透析患者にPR版配布。  
「あなたは20万円払えましたか？」と呼びかけ。

**社会のうごき**

- 3月17日 道央道で186台玉突き事故
- 3月15日 カンボジア国連統治始動
- 2月14日 佐川事件、佐藤前社長逮捕
- 12月21日 ソ連邦消滅、共同体誕生
- 8月2日 湾岸戦争勃発
- 6月15日 ピナトゥポ火山噴火
- 6月3日 雲仙普賢岳で火砕流
- 5月14日 信楽高原鉄道で衝突事故

**一年のあゆみ**

- 4月13～14日 第30回ブロック会議・専門委員会
- 5月10日 「どうじん」34号発行
- 5月10日 「どうじん」臨時号発行（PR版）
- 6月2日 第14回定期総会
- 6月10日 「どうじん」35号発行
- 9月10日 「どうじん」36号発行
- 10月6日 第11回全国一斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン
- 11月9日 第31回ブロック会議
- 12月10日 「どうじん」37号発行
- 3月10日 「どうじん」38号発行（PR版）

**トピックス**

- 診療報酬改定、透析患者の検査料を定額化、検査の減少や合併症の早期発見等に不安増大、外来透析給食費は63点に（4.1）
- 医療法改正案国会審議入り、全腎協反対運動展開（4.9）
- 透析患者の検査料の定額化が一部改善される（合併症の患者などに対応して）（5.28）
- 透析患者へのアルミゲルの投与が「禁忌」となった（特例除く）（6月）
- 社会保険庁、無年金者の一部を救済（3.8）

◎第22回全腎協総会北海道大会開催（5.24）

札幌市教育文化会館にて、全国から1,177名が春の北海道に集う！

午前中は議事、午後からは6分科会に分かれて活発な論議が行なわれた。



**患者数の変遷**

**1992**  
—平成4年度—

- 全国患者総数123,926人
- 全道患者総数 5,514人
- 全道会員数 2,678人

- ブロック数：21ブロック
- 全腎協国会請願署名数：（全道）26,131名
- 北海道腎登録者数：12,777名
- 全国腎登録者数：368,522名

◎会員・家族により資料袋詰め



◎前日の定山溪ホテルでの交流会  
全国より636名出席(5.23)



**社会のつどいき**

- 4月22日 北方領土とビザなし交流
- 6月17日 P K O法で自衛隊カンボジアへ
- 7月 バルセロナ五輪
- 9月12日 毛利さん、宇宙に
- 9月28日 三井芦別鉱閉山
- 11月3日 クリントン、米大統領に
- 1月15日 釧路沖地震

**一年のあゆみ**

- 4月25～26日 第32回ブロック会議
- 5月23日 全腎協総会交流会（定山溪）
- 5月24日 第22回全腎協総会札幌市
- 6月10日 「どうじん」39号発行
- 7月19日 第15回定期総会・医療講演
- 8月10日 「どうじん」40号発行
- 10月4日 第12回全国一斉腎提供登録者拡  
大街頭キャンペーン
- 10月10日 「どうじん」41号発行
- 10月24～25日 第33回ブロック会議
- 2月10日 「どうじん」42号発行
- 3月30日 北海道腎バンクへ臓器移植基金  
募金箱から15万円寄付

**トピックス**

- 室蘭腎友会の活動により教育庁、学校検尿システムの高度化（尿異常発見児の追跡管理）を予算化（4.1）
- 福祉8法の改定により福祉行政の権限が、従来の都道府県から市町村に移行（4.1）
- 香川県患者会の活動により特別養護老人ホームに透析患者が入所。全腎協、要介護透析患者対策の緊急性を訴え厚生省に陳情（6.3）
- 道南西沖地震、道腎協会員への被害はなし（7.12）
- 道立江差病院透析開始（8月）
- 中標津町立病院で透析開始（9.20）
- 厚生大臣は道腎協に対して業績を認定し感謝状（10.21）
- 「11・15街頭大行動」に道難病連各支部・各疾病部会から38名参加、道腎協からは廣岡達夫副会長が参加、健康保険制度（給食・室料・薬剤・治療材料の自己負担導入）改正反対のJPCの署名をたずさえデモを行い厚生省と交渉（11.15）
- JPC、給食費患者負担反対の署名運動（11.16）

**●札幌手稲運転免許試験場で腎登録キャンペーン!!  
8月～11月、第1日曜日**

平野先生（市立札幌病院腎移植センター）、宮崎事務局長（北海道腎バンク）、松浦氏（北海道移植者協議会[キドニー会]）、岩崎会長、堀井事務局長

**患者数の変遷**

**1993**  
平成5年度

- 全国患者総数 134,298人
- 全道患者総数 6,170人
- 全道会員数 2,813人

- ブロック数：21ブロック
- 全腎協国会請願署名数：（全道）26,254名
- 北海道腎登録者数：13,515名
- 全国腎登録者数：414,434名

**●第16回道腎協定期総会(6.6)**



**●腎登録啓発パネル展(10.15～17)  
札幌地下街にて**



**一年のあゆみ**

**社会のうごき**

- 4月24～25日 第34回ブロック会議
- 5月10日 「どうじん」43号発行
- 6月6日 第16回定期総会
- 6月10日 15周年記念シンポジウム
- 6月10日 「どうじん」44号発行
- 8月 札幌手稲運転免許試験場で腎登録キャンペーン月1回開始
- 9月10日 「どうじん」45号発行
- 10月10日 第13回全国一斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン
- 10月15～17日 札幌地下街腎登録啓発パネル展
- 10月30～31日 第35回ブロック会議役員研修会
- 12月10日 「どうじん」46号発行
- 3月10日 「どうじん」47号発行
- 3月10日 「どうじん」臨時号発行
- 3月29日 北海道腎バンクへ臓器移植基金募金箱から10万円寄付
- 5月15日 Jリーグ開幕
- 7月12日 北海道南西沖地震（奥尻）
- 6月9日 皇太子、ご成婚

**トピックス**

- 診療報酬改定、外来透析の診療報酬（処置料と薬剤の一部）が包括化される。HDFが初めて保険収載（4.1）
- 全腎協、健保改悪法案阻止の座り込み～衆議院議員第1議員会館前（6.6）
- 東京都西新宿診療所で透析患者4名劇症肝炎で死亡（平成6.9.5～26）平成7.3.29には院内感染と判明
- 入院給食費の自己負担（1日600円）導入。通院透析時の給食費は現行通り（10.1）
- 有料道路料金、内部障害者も50%割引に（10.1）
- 阪神大震災で、透析患者も建物の倒壊や火災などで20人以上の死者、多数が負傷したり家をなくす。透析を受けられず死亡した患者はいなかったが透析施設の多くが透析不能となり、大阪などの施設が臨時透析受け入れる（1.17）
- 阪神大震災支援募金、道腎協で181万9,436円（3.4）

**患者数の変遷**

**1994**  
—平成6年度—

- 全国患者総数 143,709人
- 全道患者総数 6,557人
- 全道会員数 3,017人

- ブロック数：21ブロック
- 全腎協国会請願署名数：（全道）30,097名
- 北海道腎登録者数：14,364名
- 全国腎登録者数：456,651名

● **第17回定期総会『室蘭大会』**  
約130名参加、  
室蘭市障害者福祉センターにて



ちょっと深呼吸



歓迎のあいさつをする佐藤利國室蘭地方腎友会会長

● **総会前日、交流会**  
佐藤文俊社中の演奏



佐藤文俊社中による三味線の演奏も

**一年のあゆみ**

**社会のつづき**

- 4月23日～24日 第36回ブロック会議
- 5月10日 「どうじん」48号発行
- 6月4日 総会記念交流会
- 6月5日 第17回総会（室蘭）・医療講演
- 6月10日 「どうじん」49号発行
- 9月10日 「どうじん」50号発行
- 9月11日 第14回全道一斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン
- 10月15～16日 第37回ブロック会議
- 10月15～16日 札幌地下街腎登録啓発パネル展
- 12月10日 「どうじん」51号発行
- 3月10日 「どうじん」52号発行
- 3月30日 北海道腎バンクへ臓器移植基金募金箱から68,218円寄付
- 10月4日 北海道東方沖地震M8.1
- 1月17日 阪神大震災、死者5,502人
- 3月20日 地下鉄「サリン」事件  
平成のコメ騒動



**トピックス**

- 新しいネットワーク「社団法人日本腎臓移植ネットワーク」稼動（4月）
- 「日本腎臓移植ネットワーク」東北北海道ブロックセンター発足（7.15）
- 災害時の透析確保に向けて～全腎協、岩手でシンポジウム開催（9.17）
- 全腎協、透析医療費の定額制撤廃を透析医会、厚生省等に要望（9月）
- 全腎協、災害対策マニュアルの作成と防災の手引き作成、全国に配布（11月）
- 米国、ニューヨークタイムズ、死亡率が日本、欧州の倍である事実をふれ、米国の透析を批判（12.4）
- 政府の障害者対策推進本部は、2002年度までに障害者施策を整備する「障害者プランナー・マライゼーション7カ年戦略」を策定（12.18）

●**「愛は地球を救う、&腎登録キャンペーン**  
道腎協と札幌腎友会共催  
STV24時間チャリティー(8.27)



札幌の事務局のある喫茶クインテス前で

**患者数の変遷**

**1995**  
—平成7年度—

- 全国患者総数154,413人
- 全道患者総数 7,105人
- 全道会員数 3,183人

- ブロック数：21ブロック
- 全腎協国会請願署名数：（全道）32,344名
- 北海道腎登録者数：14,930名
- 全国腎登録者数：485,631名
- 道腎協企画旅行  
伊豆大島・箱根、横浜と古都鎌倉の旅（6.14）



●**第18回定期総会**  
『釧路大会』  
136名参加、  
釧路市障害学習センター



道腎協副会長  
上田弘氏による乾杯

●**前日交流会、  
乾杯！**

**一年のあゆみ**

**社会のうごき**

- |          |                                     |
|----------|-------------------------------------|
| 2月10日    | 豊浜トンネル崩落事故                          |
| 4月9日     | 堀達也氏、北海道知事に                         |
| 3月10日    | 「どうじん」57号発行（PR版）                    |
| 12月10日   | 「どうじん」56号発行                         |
| 10月21日   | 第39回ブロック会議役員研修会                     |
| 9月10日    | 大街頭キャンペーン                           |
| 9月10日    | 「どうじん」55号発行                         |
| 9月10日    | 第15回全道一斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン            |
| 9月7〜10日  | 札幌地下街、腎登録啓発パネル展示（80名の腎登録者を得る）       |
| 8月24日    | 入院給食費自己負担の医療助成について、道知事、道議会議長あてに陳情行動 |
| 7月30日    | 医療講演―難連全道集会（札幌）                     |
| 6月10日    | 「どうじん」54号発行                         |
| 6月4日     | 医療講演                                |
| 6月3日     | 第18回定期総会（釧路）                        |
| 6月3日     | 総会記念交流会                             |
| 5月10日    | 「どうじん」53号発行                         |
| 4月20〜21日 | 第38回ブロック会議                          |



**トピックス**

- 診療報酬改定、透析の時間区分に「5時間」が復活（4.1）
- 透析アミロイド症の原因のβ<sub>2</sub>ミクログロブリンを除去する吸着型血浄化器「リクセル」が保険適用（6.1）
- 北九州で重度心身障害者医療助成制度<sup>◎</sup>に所得制限導入。所得制限額は扶養家族なしの場合本人所得4,524,000円、これによる本人負担額は透析では最高1万円、他は保険本人1割負担（7.1）
- 臓器提供意思表示カード配布開始（厚生省・日本臓器移植ネットワーク作成）（7月）・入院給食費1日600円から760円に（10.1）
- 全腎協、社団法人に（9.26）
- 福岡県、北九州市腎友会で通院介護支援事業開始（10.1）
- 「介護保険法」案反対でJPCは患者家族集会開く（11.10）

**患者数の変遷**

**1996**  
—平成8年度—

- 全国患者総数167,192人
- 全道患者総数 7,585人
- 全道会員数 3,393人

- ブロック数：21ブロック
- 全腎協国会請願署名数：（全道）34,030名
- 北海道腎登録者数：15,399名
- 全国腎登録者数：512,140名

◎第19回定期総会『函館大会』  
150名参加、湯の川温泉花びしホテル



◎道議会議長に請願(10.1)

入院給食費一部負担の無料化を求める請願署名全道で4万7千人越える。



札幌の6名が代表して道議会に請願



臓器提供意思表示カード

7月

全国でO-157集団感染

**社会のつどひ**

- 4月20～21日 第40回ブロック会議
- 5月10日 「どうじん」58号発行
- 5月25日 総会記念交流会
- 5月26日 第19回定期総会（函館）、医療講演
- 6月10日 「どうじん」59号発行
- 8月4日 医療講演―難連全道集会（北見）
- 9月8日 第16回全道一斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン
- 9月10日 「どうじん」60号発行
- 9月15日 全腎協シンポジウム開催（札幌）
- 10月1日 入院給食費の医療助成を求める請願署名、道議会議長に提出
- 10月26～27日 第41回ブロック会議、役員研修会
- 12月10日 「どうじん」61号発行
- 3月10日 「どうじん」62号発行
- 3月27日 北海道腎バンクへ臓器移植基金募金箱から7万円寄付

**一年のあゆみ**

### トピックス

- 道立羽幌病院が夜間透析開始 (4, 1)
- 臓器移植法案成立、脳死移植に厳しい制約 (6, 17)
- 最長透析は30年に(日本透析医学会発表) (7月)
- 公衆衛生審議会成人病難病対策専門委員会は報告書で治療研究事業(難病の医療費公費負担制度)に患者負担の導入を提案、重症度基準の導入も検討課題としている事をJPC、全難連に要旨説明 (7, 16)
- 医療保険制度改革協議会は「21世紀の国民医療～良質な医療と皆保険制度確保への指針」をまとめた 医療機関の機能分担・大病院の原則紹介制・入院期間の短縮・薬価基準の廃止・保険給付基準額制度の導入・定額払い制の拡大・高齢者医療保険制度の創設等 (8, 29)
- 健康保険法・老人保健法施行 保険本人2割の自己負担・高齢者通院1回に500円月4回負担等 (9, 1)
- 全腎協1996年度透析患者実態調査集約 一高齢者・長期透析者の増加、要通院介助者は12.5%で家族に依存、生活できない低年金額等 (9, 6)
- 臓器移植法施行「日本腎臓移植ネットワーク」は「日本臓器移植ネットワーク」に組織替え (10, 16)
- 介護保険法案成立 (12, 9)

### ●第20回定期総会『札幌大会』 約220名参加、ホテルユニオン



### 患者数の変遷

# 1997

—平成9年度—

- 全国患者総数 167,192人
- 全道患者総数 8,096人
- 全道会員数 3,774人

- ブロック数: 21ブロック
- 全腎協会請願署名数: (全道) 38,156名
- 北海道腎登録者数: 15,510名
- 全国腎登録者数: 529,920名
- 全道献腎移植数: 5件
- 全国献腎移植数: 175件



前日交流会 (定山溪ホテル鹿の湯にて)

### ●全国一斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン

臓器移植法施行を受け、全道でも5千枚の臓器提供意思表示カード配布(10.5)

腎提供は従来からの北海道腎臓バンクへの登録との2本立てに。心停止後の腎臓移植に関しては腎臓移植法があるため、家族の同意があれば移植できる事には変わりはない。

### 一年のあゆみ

- 4月19日 第42回ブロック会議
- 5月10日 「どうじん」63号発行
- 5月24日 総会交流会
- 5月25日 第20回定期総会(札幌) 記念講演
- 6月10日 「どうじん」64号発行
- 9月10日 「どうじん」65号発行
- 10月5日 第17回全国一斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン
- 10月18日 第43回ブロック会議
- 10月19日 役員研修会
- 12月10日 「どうじん」66号発行
- 3月10日 「どうじん」67号発行
- 3月 北海道腎臓バンクへ臓器移植基金募金箱から51,000円寄付

### 社会のこぼれ

- 4月1日 消費税5%に
- 4月23日 ベルギー公邸人質事件・ベルギー政府武装グループを制圧
- 5月8日 アイヌ新法成立
- 7月1日 香港、中国へ返還
- 8月31日 ダイアナ王妃(英) 事故死
- 11月17日 拓銀、道内業務北洋銀行に譲渡
- 2月7日 長野五輪開幕 日本「金」5個

**トピックス**

- 家庭透析に保険適用 (4.1)
- 川野訴訟、長野県の川野さん透析をしながら元のタクシー運転業務に復職する事等で会社側と和解成立 (7.6)
- 大阪の看護師2名臓器提供意思表示カード普及のため自転車で日本縦断中、宗谷岬到着 (7.21)
- 北海道でも難病患者 (今まで全額公費負担だった特定疾患) に一部自己負担導入 道内の自己負担対象患者は69,000名と推測される (8.1)
- NPO法 (特定非営利活動促進法) 施行 ボランティア、社会貢献活動を行う非営利活動団体に法人格の手続き、制約が簡素化 (12.1)
- 運転免許証用ドナーシール配布開始 (1.10)
- イタリアで臓器提供に「沈黙の同意」原則 法案可決、18歳以上の成人に死後の臓器提供の意思表示を求め、意思表示がなければ同意したとみなす原則 (2.2)
- 臓器移植法施行後、初の脳死移植 (2.28)

**患者数の変遷**

**1998**  
—平成10年度—

- 全国患者総数 186,251人
- 全道患者総数 8,903人
- 全道会員数 4,042人

- 地域腎友会数：21
- 全腎協国会請願署名数：(全道) 43,979名
- 北海道腎登録者数：15,884名
- 事務局移転：札幌市北区北17条西2丁目2-38  
サザンアベニュー北大101
- 全道献腎移植数：2件
- 全国献腎移植数：197件 (内、脳死2)

●旭川「かがやき工房」(難病連旭川支部)発足(4月)

「パソコンで社会的自立」へと、旭川地方腎友会の会員を含む難病患者中心に全国初の「障害者地域共同作業所」。

●「さわやか釧路」自立事業センター発足(6.21)

難病連釧路支部と釧路地方腎友会共同で。

●第21回定期総会『十勝大会』開催  
約210名参加、音更町文化センター



全道から総会に参加の皆さん

●道腎協役員研修会で講演会開催(10.25)

「通院送迎ボランティア活動について」  
講師：全腎協常務理事・全腎協事務局長  
小林 孟史氏

●岩崎会長が厚生大臣より腎不全対策功勞者として感謝状を贈呈される(8.24)

**社会のつどい**

- 1月1日 ユーロ誕生、欧州新通貨始動
- 12月20日 エア・ドゥー就航
- 12月6日 コンサドレー監督に岡田氏
- 10月4日 和歌山毒カレー事件
- 5月27日 若貴、史上初兄弟横綱

- 3月 北海道腎バンク臓器移植基金募金箱から32,010円寄付
- 12月10日 「どうじん」71号発行
- 10月25日 役員研修会
- 10月24、25日 第45回北海道ブロック会議
- 9月10日 「どうじん」70号発行
- 9月10日 第18回全道一斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン
- 8月2日 医療講演—難病連全道集会(登別)
- 6月10日 「どうじん」69号発行
- 5月24日 第21回定期総会(十勝) 医療講演

- 4月18、19日 第44回北海道ブロック会議
- 5月10日 「どうじん」68号(議案書)発行

**一年のあゆみ**

**トピックス**

- JPC「がんばれ難病患者日本一周激励マラソン」ボランティアによる難病患者に対する福祉施策の充実を全国に訴える。稚内宗谷岬から出発。旭川「かがやき工房」でホームページ作成（7.25）
- 年金制度「改正」関連法案衆議院可決成立  
厚生年金の老齢年金支給開始年齢65歳へ引き上げと支給額の引き下げ中心の改悪（3.28）

**●釧路・通院介護支援センター「さわやか通院介護」開設(6.1)**

「さわやか釧路」共同作業所と並行し要介護の患者さんの通院送迎ボランティア始まる。

**●北海道知事に要望書提出(9.9)**

- ①入院給食費の自己負担がなくなるよう更生医療施設の拡大を。
- ②要介護透析患者対策の充実を。
- ③通院交通費助成の充実を。
- ④透析施設地域偏在化の解消を。

**●第1回全国臓器移植推進全国大会開催  
札幌コンサートホールキタラ(10.19)**



**患者数の変遷**

**1999**  
平成11年度

- 全国患者総数 197,213人
- 全道患者総数 9,519人
- 全道会員数 4,198人
- 地域腎友会数：21
- 全腎協国会請願署名数：（全道）40,371名
- 北海道腎登録者数：15,939名
- 全道献腎移植数：3件
- 全国献腎移植数：148件（内、脳死8）

**●有珠山大噴火、透析施設被災(3.31)**

伊達市・虻田町・洞爺村等の透析患者、転院や避難生活余儀なくされる。伊達地方腎友会天沼会長夫妻は伊達市や虻田町へ伊達日赤病院泌尿器科部長坪俊輔先生のご協力も得て透析患者の避難場所の環境整備等の要請に奔走。

**●第22回定期総会『札幌大会』開催  
約155名参加、ホテルユニオン**



**社会のうごき**

7月23日 全日空機乗っ取り男が機長刺殺  
9月30日 東海村核燃料施設で臨界事故  
10月12日 世界人口60億人  
10月20日 道庁談合疑惑公取委が検査  
3月31日 有珠山噴火

3月31日 有珠山噴火災害義援金募金開始  
3月 北海道腎バンク臓器移植基金募金箱から78,705円寄付  
2月10日 「どうじん」76号発行  
3月10日 「どうじん」77号（PR版）発行  
11月21日 道議会請願  
10月23日 第49回北海道ブロック会議  
10月19日 第1回臓器移植推進全国大会  
9月12日 第19回全道一斉腎提供登録者拡大キャンペーン  
9月10日 「どうじん」75号発行  
9月9日 北海道知事に更生医療等4項目の要望書提出

**一年のあゆみ**

4月17日 第46回北海道ブロック会議  
5月10日 「どうじん」73号（議案書）発行  
6月6日 第22回定期総会（札幌）  
6月10日 医療講演  
6月10日 「どうじん」74号発行  
8月1日 医療講演―難連全道集会（札幌）  
9月9日 北海道知事に更生医療等4項目の要望書提出  
9月10日 「どうじん」75号発行  
9月12日 第19回全道一斉腎提供登録者拡大キャンペーン

**トピックス**

- 診療報酬改定、外来透析患者検査料とダイアライザーの価格が引き下げに（4.1）
- 介護保険実施（4.1）  
65歳以上が対象 糖尿病性腎症・閉塞性動脈硬化症等15の特定疾病は40～64歳までの人も受給の対象に
- 神奈川エボ訴訟始まる（4月）
- 国民健康保険も海外療養費支給へ

**●北海道は市町村への医療費補助率を3%削減(4.1)**

北海道は重度心身障害者・乳幼児・老人・母子家庭の4事業の市町村への医療費補助率を3%削減。5年後には50%に削減、平成13年からは所得制限導入も。(現行60%と66.7%)

**●道議会請願(11.21)**

「道の重度心身障害者医療費助成事業の市町村への補助率引き下げ及び所得制限導入に反対する」請願署名、全道で26,882名。

**●有珠山噴火被災者に全国から総計15,940,621円の義援募金(4月)**

室蘭・伊達両地方腎友会では被災した会員に義援金を配布。その後、被災会員が出た時のためにと7,810,905円を道腎協で管理して欲しいと申し出があり平成13年度に「有珠山義援金基金」設立。また、その中より道腎協から全腎協に災害基金設立（H13年度）時に3,810,905円寄付。

油井全腎協会長、佐藤北海道ブロック担当理事がお見舞いに。

**患者数の変遷**

**2000**  
—平成12年度—

- 全国患者総数206,134人
- 全道患者総数 9,891人
- 全道会員数 4,660人

- 地域腎友会数：21
- 全腎協会会請願署名数：（全道）44,256名
- 北海道腎登録者数：15,971名
- 全道献腎移植数：4件（内、脳死2）
- 全国献腎移植数：126件（内、脳死10、脳死臍腎同時3）

● 鈴木道腎協副会長も第1次の義援募金を届けお見舞いに。

**●第23回定期総会『小樽大会』開催  
約220名参加、小樽市国際ホテル**

鈴木啓三新会長に。岩崎薫会長、相談役に。



**●「サポート室蘭」発足(5.18)**

室蘭地方腎友会が要介護透析患者の通院介護支援事業を開始。

**●「たいせつ旭川」発足(8.20)**

旭川地方腎友会が通院介護支援事業を開始。

**社会のいづき**

**一年のあゆみ**

- |            |            |        |              |               |                             |             |                                  |             |           |                 |              |             |                  |               |
|------------|------------|--------|--------------|---------------|-----------------------------|-------------|----------------------------------|-------------|-----------|-----------------|--------------|-------------|------------------|---------------|
| 3月28日      | 1月20日      | 9月15日  | 7月8日         | 4月2日          | 3月                          | 12月10日      | 11月21日                           | 9月10日       | 9月10日     | 8月6日            | 5月21日        | 6月10日       | 5月10日            | 4月5～16日       |
| 京都議定書から米離脱 | 米プッシュ大統領就任 | 本「金」5個 | やわらちゃん他女性大活躍 | 小淵首相倒れ森連立内閣発足 | 北海道腎バンク臓器移植基金募金箱から79、115円寄付 | 「どうじん」81号発行 | 市町村への医療費補助率引き下げ・所得制限導入反対請願道議会に提出 | 「どうじん」80号発行 | 大街頭キャンペーン | 医療講演―難連全道集会（函館） | 第23回定期総会（小樽） | 「どうじん」79号発行 | 「どうじん」78号（議案書）発行 | 第48回北海道ブロック会議 |

**トピックス**

- 全腎協災害見舞金基金設置 (4.1)
- 全腎協結成30周年・法人設立5周年記念全国大会開催 (5.20)  
会員10万人を超える
- 第13回世界移植者スポーツ大会  
兵庫県・神戸市で開催 (8.25)
- 臓器移植推進連絡会が国会請願「15歳未満の子供に臓器移植を」(10.16)
- 小泉政権下 聖域なき構造改革  
厚生労働省「医療制度改革試案」発表 厳しい構造改革案 (9.25)  
政府・与党社会保障改革協議会「医療制度改革大綱」発表 (11.29)  
保険給付見直し自己負担3割・高齢者医療70歳以上定率1割負担等改悪案
- 全腎協は平成14年度診療報酬改定案(外来透析食事加算廃止・透析時間区分廃止)に反対し厚生労働省前で座り込み (2.20)  
中央社会保険医療協議会委員・国会議員等に全国の透析患者会から葉書・ファクスで要請

◎北海道医療給付事業に所得制限導入(重度心身障害者医療(マル障)・母子家庭等医療・乳幼児医療・老人医療)(10.1)

所得制限でマル障適用外になると、透析は1カ月1施設に1万円、他科での診療には保険による自己負担分を支払う事に。

道内各地の地域腎友会はそれぞれ市町村に所得制限導入反対の請願書・要望書を提出。道内市町村58%導入へ。

**患者数の変遷**

**2001**  
平成13年度

- 全国患者総数219,183人
- 全道患者総数 10,561人
- 全道会員数 4,660人
- 地域腎友会数：21
- 全腎協国会請願署名数：(全道) 44,824名
- 北海道腎登録者数：16,031名
- 全道献腎移植数：3件
- 全国献腎移植数：16件 (内、膝腎同時1、脳死6、脳死膝腎同時3)

◎初の道との意見交換会実施(2.12)

道腎協独自の「腎疾患対策の早期確立」に対する要望書について、道関係部署と会談。



左から澤内事務局長、佐藤昌夫副会長、佐藤利國全腎協理事、堀井会長、川村副会長

◎第24回定期総会『札幌大会』開催  
約128名参加、ホテルユニオン

堀井和彦新会長に。鈴木啓三会長、相談役に。

**社会のつどい**

- 1月20日 太平洋炭鉱閉山
- 12月1日 雅子様が女子を出産
- 9月22日 日本で狂牛病感染乳牛を確認
- 9月11日 貿易センター、ペンタゴン
- 6月2日 札幌ドームオープン
- 4月26日 小泉内閣誕生
- 3月 北海道腎バンク臓器移植基金募金箱から41,046円寄付
- 12月10日 第51回北海道ブロック会議
- 10月27日 「どうじん」86号発行
- 10月1日 重度心身障害者医療費助成制度(マル障)に所得制限導入
- 9月10日 「どうじん」85号発行
- 9月9日 第21回全道一斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン
- 8月5日 医療講演―難連全道集会(札幌)
- 6月10日 第24回定期総会(札幌)
- 6月10日 「どうじん」84号発行
- 5月10日 「どうじん」83号(議案書)発行
- 4月21〜22日 第50回北海道ブロック会議

**一年のあゆみ**



### トピックス

- 診療報酬改定 (4.1)
  - \* 透析技術料透析時間区分廃止  
一律 1,960点に  
(改定前) 4時間未満 1,630点  
4時間以上5時間未満 2,110点  
5時間以上 2,210点
  - \* 外来透析食事加算 (63点) 廃止
  - \* 慢性維持透析患者外来医学管理料  
2,670点 (←2,800点)
- 診療報酬改定後全腎協実態調査  
患者負担増加、診療の質低下
- 社日本臓器移植ネットワーク組織  
再編 全国8ブロックを3箇所の支部に  
東日本支部 (北海道・東北・関東甲信越)  
中日本支部 (東北北陸)  
西日本支部 (近畿・中国四国・九州・沖縄)  
(7.1)
- 医療制度「改革」関連法成立 (7.26)  
平成15年4月から  
健康保険本人3割自己負担に
- 独立行政法人国立病院機構法成立  
144の国立病院・療養所の独立会計化促進  
(12.13)
- 神奈川EPO訴訟勝訴 (2.26)  
Ht 30%を越える患者へのエリスロポエチン  
製剤の投与は適法かつ相当と判決  
患者のQOL高める方向に

### 患者数の変遷

# 2002

平成14年度

- 全国患者総数 229,583人
- 全道患者総数 11,131人
- 全道会員数 4,666人

- 地域腎友会数: 26
- 全腎協国会請願署名数: (全道) 44,344名
- 北海道腎登録者数: 16,057名
- 全道献腎移植数: 0件
- 全国献腎移植数: 118件 (内、脳死6、脳死膝腎同時2)



決算報告をする  
村本徳雄会計



活動報告をする  
澤内繁雄事務局長

### ●道腎協緊急アンケート(診療報酬の影響)

4月からの診療報酬改定により、道内の透析施設の対応の変化を緊急アンケート。

外来透析の食事をやめた施設も多く、弁当持参や食事の自己負担額は無料から1,100円と幅が出ている。透析時間については、4月から4時間以内透析に変えた施設もある。検査料の引き下げによるとみられる心電図や胸部レントゲン撮影の月1回から2カ月に1回の減少等の報告。

### ●第25回定期総会『札幌大会』開催 約169名参加、ホテルユニオン

道腎協青年部発足。

### ●北海道透析患者実態調査報告書発行

結成25周年記念として発行。10年ごとに調査を実施。

### ●北海道の市町村における重度心身障害者 医療費助成(マル障)所得制限導入状況 (1.31)

- 導入している ~130市町村
  - 導入していない ~82市町村
- 各地域腎友会では、市町村長・市町村議会に対し要望書、請願書等で所得制限導入に反対。

### 社会のつぎ

### 一年のあゆみ

- 1月20日 横綱貴乃花が引退
- 10月8日 ノーベル賞に小柴・田中両氏
- 9月17日 朝、拉致の5人帰国
- 7月9日 プロ野球日本ハム札幌移転決定
- 5月6日 日韓共催でサッカーW杯開催
- 4月13日 第52回北海道ブロック会議
- 5月10日 「どうじん」88号(議案書)発行
- 5月19日 第25回定期総会(札幌)医療講演
- 6月10日 道腎協青年部発足
- 8月4日 「どうじん」89号発行
- 9月10日 医療講演「難連全道集会(釧路)」
- 9月22日 「どうじん」90号発行
- 9月22日 第22回全道二斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン
- 10月26日 第53回北海道ブロック会議
- 12月10日 「どうじん」91号発行
- 3月10日 「どうじん」92号(P.R版)発行
- 3月10日 北海道透析患者実態調査報告書発行
- 3月 北海道腎バンク臓器移植基金募金箱から35、100円寄付



**トピックス**

- 社会保険本人および家族の医療費3割自己負担に(4.1)  
70歳以上(原則1割)と3歳未満児(2割)を除くすべての健康保険の患者負担が3割
- 障害者「支援費制度」開始(4.1)
- 新リン吸着剤が保険適用に(4.1)  
カルシウム・アルミニウムを含まない塩酸セベラマー 製品名「レナジェル錠」「フォスブロック錠」
- NPO法改正施行(5.1)  
NPO法人(特定非営利活動法人)申請簡素化、認定基準緩和等患者組織のNPO化進む

● 有珠山噴火災害で被災した洞爺協会病院再オープン(5月)

● JR北海道に「身体障害者への旅客運賃割引制度の適用拡大に関する要望書」提出(10.23)

● 全腎協青年交流集会 in 北海道  
赤井川キロロリゾートに全国から151名の青年患者集う!(8.30~31)

腎協青年交流集会in北海道 - 未来は自分達で創り出  
社団法人全国腎臓病協議会・北海道腎臓病患者連絡協議会



**患者数の変遷**

**2003**  
—平成15年度—

- 全国患者総数237,710人
- 全道患者総数 11,072人
- 全道会員数 4,544人

- 地域腎友会数: 26
- 全腎協国会請願署名数: (全道) 55,133名
- 北海道腎登録者数: 16,079名
- 全道献腎移植数: 1件
- 全国献腎移植数: 154件(内、臓腎同時1、脳死3、脳死臓腎同時3)

● 道との意見交換会開催(12.16)

道からマル障負担導入の説明一切なし。

● 北海道重度心身障害者医療給付事業(マル障)見直し反対要望行動展開

平成16年10月から原則1割自己負担導入と発表。

- \* 道腎協臨時ブロック会議開催(1.10)  
12月19日に道関係者来局しマル障1割負担導入説明を受け、重大さから緊急に開催
- \* 知事・道議会各派に要望書提出(1.29)
- \* 道議会にマル障見直し反対請願署名提出。  
署名数5,738名(3.10)
- \* 各地域腎友会から会長名で知事へ要望書提出
- \* 各地域腎友会で市町村へ要望書提出
- \* 各会員から知事へハガキで実情を訴え要望
- \* 関係障害者団体と協議、合同で道に反対要望

● 第26回定期総会『苦小牧大会』開催  
約133名参加、苦小牧プリンスホテル

堀井和彦会長から川村隆志新会長に。  
道腎協青年部発足。

**社会のつぎ**

9月15日 阪神18年ぶりセ・リーグ優勝

4月24日 オウム松本被告死刑求刑

3月 北海道腎バンク臓器移植基金募金箱から23,020円寄付

3月10日 「どうじん」97号(P.R版)発行

3月10日 重度心身障害者医療費給付事業(マル障)見直し反対請願署名、道議会に提出

知事に提出

1月29日 重度心身障害者医療費給付事業(マル障)見直し反対要望書、

12月10日 「どうじん」96号発行

災害見舞金持参と激励

11月29日 鶴川・台風10号による災害へ

10月25~26日 第55回北海道ブロック会議

9月28日 大街頭キャンペーン

9月10日 「どうじん」95号発行

第23回全道一斉腎提供登録者拡大

8月30~31日 全腎協青年交流会IN北海道

6月10日 「どうじん」94号発行

5月25日 第26回定期総会(苦小牧)

医療講演

4月12~13日 第54回北海道ブロック会議

5月10日 「どうじん」93号(議案書)発行

**一年のあゆみ**

**トピックス**

- 診療報酬改定 (4.1)
  - \* 慢性維持透析患者外来医学管理料引き下げ 2,460点 (←2,670点)
  - \* ダイアライザー価格1割以上の引き下げ
- 年金改革法成立 強行採決 (6.5)
- 脳死移植30例目 (7.5)
- 全腎協が全会員に災害手帳配布 (1月)
- 障害者医療助成の改悪・後退、全国で進む北海道をはじめ、島根県・青森県等10以上 (2月)

**患者数の変遷**

**2004**  
平成16年度

- 全国患者総数248,166人
- 全道患者総数 12,085人
- 全道会員数 4,628人

- 地域腎友会数：27 (伊達、静内、地域腎友会として独立)
- 全腎協国会請願署名数：(全道) 46,760名
- 北海道腎登録者数：16,097名
- 全道献腎移植数：8件
- 全国献腎移植数：166件 (内、脳死8、脳死隣腎同時4)

◎2回目の「重度心身障害者医療給付事業」見直しに反対する請願署名道議会に提出 全道で30,074名(6.15)

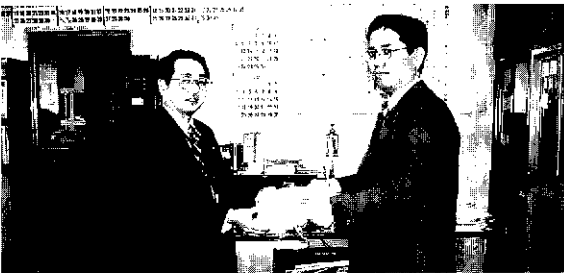
\* 道では負担軽減のために検討委員会設置  
道知事と川村会長・難病連代表小田氏・医療助成を考える連絡会代表小谷氏、負担軽減措置について直接面談 (7.26)

◎院外処方薬局の更生医療指定未整備とマル障負担導入について、道知事に要望書と道議会請願署名時の紹介議員に陳情書提出

\* 全道212市町村の約93%が導入  
\* 道はマル障負担導入に対するフォローアップ施策として、更生医療機関の拡大と活用による患者負担軽減と従来の道の腎機能障害者交通費助成の拡充を挙げるが不十分

◎道腎協、重度心身障害者医療給付事業(マル障)見直しに関わる影響(平成16年11・12月)調査実施(道腎協全会員対象:回収率62.1%苦小牧・旭川はマル障負担導入10月見送りのため除く)

70%の方が医療費自己負担、更生医療を受けている方は29.5%で更生医療に関しての周知が徹底されていない。また、交通費が2万円/月かかっている方は6.1%いて、公共機関で通院困難のためにタクシー利用と推測され、多額な交通費が生活費を圧迫していると考えられる。



◎北海道重度心身障害者医療給付事業(マル障)に原則1割負担導入(10.1)

- 住民税課税世帯 通院 12,000円/月上限  
入院 40,200円/月上限
- 住民税非課税世帯は初診時一部負担金のみ

◎道への質問状と知事への要望書提出(2.28)

◎第27回定期総会『札幌大会』開催 約131名参加、ホテルユニオン

◎「どうじん」第100号発行

**一年のあゆみ**

**社会のつぎ**

- 4月10日 「どうじん」臨時号発行  
「マル障継続審議に」
- 4月10日 第56回北海道ブロック会議
- 5月10日 「どうじん」98号(議案書)発行
- 5月30日 第27回定期総会(札幌) 医療講演
- 6月10日 「どうじん」99号発行
- 6月15日 道議会請願
- 8月8日 医療講演―難病連全道集会(小樽)
- 9月10日 「どうじん」100号記念特集号発行
- 9月10日 院外調剤薬局の更生医療指定に関する要望書、道知事に提出
- 9月26日 第21回全道一斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン
- 10月16日 第57回北海道ブロック会議
- 12月10日 「どうじん」101号発行
- 3月10日 「どうじん」102号(P.R版)発行
- 3月 北海道腎バンク臓器移植基金募金箱から25,397円寄付
- 8月22日 駒大苦小牧高夏の甲子園優勝
- 8月13日 アテネ五輪開幕日本メダル最多
- 10月23日 新潟中越地震透析患者も被災

**トピックス**

- 特別障害給付金制度創設 (4. 1)  
一部の無年金障害者に福祉的措置  
○ 障害基礎年金1級に該当する方  
月額5万円  
○ 障害基礎年金2級に該当する方  
月額4万円
- 日本難病・疾病団体協議会 (JPA) 結成  
全国難病団体連絡協議会 (全難連) と日本難病・家族団体協議会 (JPC) の統一組織
- 障害者自立支援法可決 (10. 24)  
更生医療・育成医療・精神科通院医療を1本化、障害者の公費医療に原則1割の自己負担
- 政府・与党が医療制度構造改革大綱発表 (12. 1)

**●道腎協、障害者自立支援法案反対運動を展開(平成17年2月～9月)**

- 本道選出の国会議員と道議会議員に同法案に反対する要望書提出。
- 衆参両院厚生労働委員に要望書送付。
- 同法案反対抗議厚生労働省前座り込み・デモ行進等に川村会長他役員参加。
- 他障害者団体と連携。
- 地元選挙区の衆議院候補に対し同法案に対する要望と見解についてのお願いを地域腎友会に送付。
- 全会員に同法案反対要望書 (ハガキ) 提出要請等。



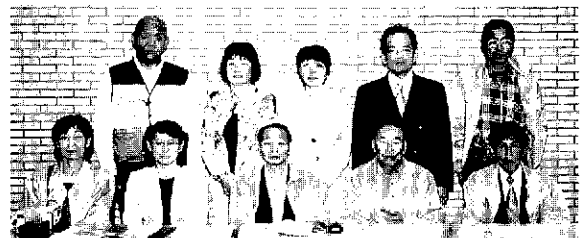
厚生労働省前での川村会長

**患者数の変遷**

**2005**  
平成17年度

- 全国患者総数257,765人
- 全道患者総数 12,622人
- 全道会員数 4,443人
- 地域腎友会数：28
- 全腎協国会請願署名数：(全道) 43,775名
- 北海道腎登録者数：16,110名
- 全道献腎移植数：8件 (内、脳死2、脳死隣腎同時1)
- 全国献腎移植数：175件 (内、脳死7、脳死隣腎同時5)

**●第28回定期総会『旭川大会』開催  
約140名参加、旭川市大雪クリスタルホール**



**●道との意見交換会(2.9)**



**社会のつどい**

2月23日 トリノ五輪荒川「金」  
11月 耐震偽装多数発覚  
8月20日 駒大苫小牧高夏の甲子園連覇  
4月25日 尼崎でJR脱線事故

3月 北海道腎バンク臓器移植基金募金箱から22、550円寄付  
3月10日 「どうじん」107号(PR版)発行  
2月14日 運賃割引拡大の要望書をJR北海道に提出  
12月10日 「どうじん」106号発行  
10月15～16日 第59回北海道ブロック会議  
10月10日 「どうじん」臨時号発行  
9月25日 第25回全道・斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン  
9月10日 「どうじん」105号発行  
8月10日 医療講演―難連全道集会(札幌)

**一年のあゆみ**

4月16～17日 第58回北海道ブロック会議  
5月10日 「どうじん」103号(議案書)発行  
5月29日 第28回定期総会(旭川)医療講演  
6月10日 「どうじん」104号発行  
6月16日 障害者自立支援法案反対国会前座り込み行動参加  
8月10日 医療講演―難連全道集会(札幌)

**トピックス**

- 障害者自立支援法施行(4.1)  
自立支援医療(更生医療)  
\*市町村民税非課税世帯にも負担金  
\*所得税課税世帯は1万円/月  
高所得課税世帯2万円/月  
(透析患者の場合は長期高額療養費制度との関係で、自立支援医療との制度的意味がなくなる)  
\*入院の場合、従来は支給されていた入院時給食費が自己負担に
- 診療報酬改定(4.1)  
\*エリスロポエチン製剤が人工腎臓技術料に包括化  
2,250点(←1,960点)  
\*人工腎臓に係る夜間及び休日加算  
300点(←500点)  
当初、廃止の方向。全腎協・都道府県腎協の反対で存続  
\*慢性維持透析患者外来医学管理料(検査料)  
2,305点(←2,460点)  
\*ダイアライザーの区分実施
- 全腎協エリスロポエチン製剤包括化実態調査  
平成18年2~8月、対象:全国の腎友会役員380名、影響を受けた患者が約1割存在しエポ使用量減少、ヘマトクリット・ヘモグロビンは低下傾向で推移、しかし全体の平均では顕著な悪化みられず、今後一般会員対象にまた専門的総合的に経緯をみる必要あり
- 健康保険の高額療養費制度見直しにより特定疾病自己負担が透析も上位所得者月2万円に(10.1)
- 政府管掌健康保険の被保険者証に臓器提供意思表示欄の記載が始まる(1月)
- 臓器提供意思登録がインターネットで可能に(3.5)

**患者数の変遷**

**2006**  
平成18年度

- 全国患者総数26,4473人
- 全道患者総数 12,817人
- 全道会員数 4,172人

- 地域腎友会数:28
- 全腎協国会請願署名数:(全道)39,405名
- 北海道腎登録者数:15,673名(脱会者を整理)
- 全道献腎移植数:5件(内、脳死1)
- 全国献腎移植数:188件(内、脳死9、脳死隣腎同時9)

●道との意見交換会開催(12.19)

●岩崎薫道腎協元会長ご逝去(7.11)

昭和55年から平成12年まで、道腎協会長としてご尽力いただき、全腎協副会長・北海道難病連代表理事も務められました。



●夕張市立病院透析室廃止(3.13)

夕張市・道への要望実らず、透析患者、千歳・栗山・岩見沢に転院。

●自立支援法施行により更生医療が自立支援医療に(4.1)

平成16年10月の北海道の重度心身障害者医療費助成制度の一部自己負担導入に続き、本道の透析患者にますます医療費の負担増。

●機関紙「どうじん」、108号からA4版に紙面充実めざす。

●第29回定期総会『札幌大会』  
参加約124名、ホテルユニオン  
堀井和彦事務局長相談役に。

一年のあゆみ

社会のトピックス

- 4月15~16日 第60回北海道ブロック会議
- 5月10日 「どうじん」108号(議案書)発行
- 5月28日 A4版に紙面拡大
- 5月28日 第29回定期総会(札幌)医療講演
- 8月10日 医療講演|難連全道集会(帯広)
- 9月10日 「どうじん」110号発行
- 9月24日 第26回全道一斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン
- 10月14~15日 第61回北海道ブロック会議
- 12月10日 「どうじん」111号発行
- 1月31日 夕張市立病院透析室存続の要望書を道知事に提出
- 2月19日 夕張市立病院透析室存続の要望書を道議会各会派に提出
- 3月10日 「どうじん」112号(PR版)発行
- 3月 北海道腎バンク臓器移植基金募金箱から50、607円寄付
- 6月10日 夕張市財政破綻発表
- 7月17日 ジャワ島地震・津波6千人死亡
- 10月26日 北海道日本ハム、日本一
- 11月7日 佐呂間で竜巻9人死亡
- 2月 社保庁ずさん、5、000万件消えた年金問題発覚

**トピックス**

- 厚生労働省、慢性腎臓病（CKD）研究対策に平成19年度予算3億2,500万円計上、国民的課題としてCKDを重視、全腎協の長年の国会請願の成果、厚生労働省「腎疾患対策指針検討会」に全腎協からも委員を派遣
- 全腎協 透析を休止・中止する施設及び夜間透析を廃止・休止する施設調査実施（回収率80%、37都道府県患者会）  
平成18年4月の診療報酬改定（夜間・休日加算の減少）の影響が懸念される  
全国で61施設が「医師不足」「経済的理由」で透析治療の縮小（5月）
- 全腎協と日本透析医学会合同「通院困難な患者への対応及び長期入院患者の実態調査」（5月）  
576施設・透析患者数5万6,347人（透析医学会に所属する医師のいる施設の55%）281施設で通院送迎、3カ月以上の入院患者2605人中一般病床62%、医療療養病床37%、介護療養病床は1%、平成18年4月から透析患者は医療区分2に該当し180日超入院でも入院基本料は減額されず、1箇所長期入院が可能
- Ca値の上昇しない二次性副甲状腺機能亢進症治療薬シナカルセト塩酸塩（レグパラ錠）保険適用（12.14）

●**第30回定期総会『札幌大会』**  
約150名参加、ホテルユニオン

●**30周年記念医療講演会**  
「透析で長生きする秘訣」

日本透析医学会 会長  
衆済会増子クリニック院長  
山崎 親雄先生



**患者数の変遷**

**2007**  
平成19年度

- 地域腎友会数：26（夕張、千歳閉会）
- 全腎協国会請願署名数：（全道）00,000名
- 北海道腎登録者数：15,679名
- 全道献腎移植数：9件（内、脳死肺腎同時1）12月現在
- 全国献腎移植数：124件（内、脳死13、脳死肺腎同時5）12月現在

●**道との意見交換会(12.18)**



●**平成20年4月から後期高齢者制度はじまる**

透析患者等65歳以上74歳までの特定の障がい者は任意加入。しかし、道では後期高齢者医療制度に加入しないと重度心身障害者医療助成制度（マル障）は受けられない事に。

道腎協ではマル障適用に関して、高橋はるみ道知事に要望書提出。

●**北海道の地域医療が危ない!!**

医師、スタッフ不足で透析時間短縮の施設や、透析閉鎖の施設が。道腎協でも、地域腎友会とともに対応急ぐ。

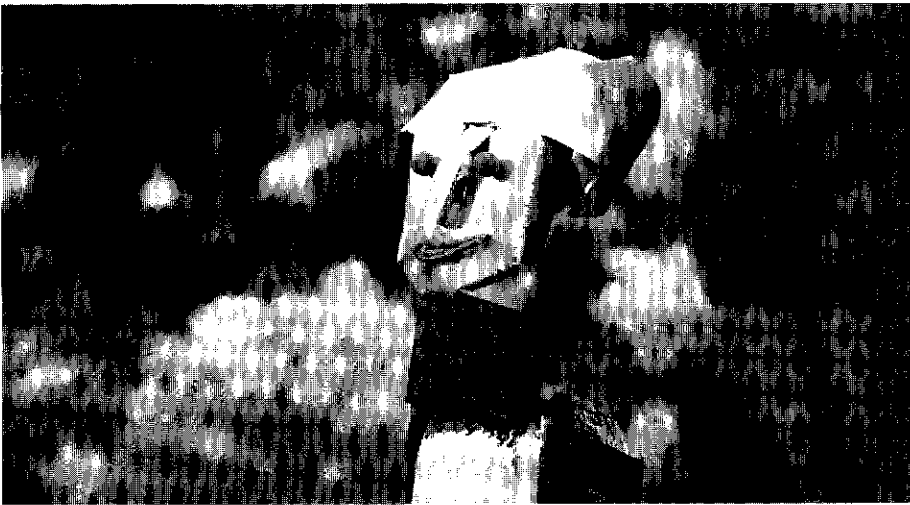
**社会のこぼれ**

- 1月8日 法案衆院通過
- 12月1日 コンサドレーJ1昇格
- 9月12日 安倍首相、突然の辞任
- 7月29日 参院選、自民大敗、衆参与野党
- 7月16日 中越沖地震 震度6強

- 2月4日 「重度心身障害者医療費助成制
- 12月18日 道との意見交換会
- 12月10日 「どうじん」117号発行
- 10月13日 第63回北海道ブロック会議
- 9月23日 第27回全道一斉腎提供登録者拡大街頭キャンペーン
- 9月10日 「どうじん」116号発行
- 8月19日 市民シンポジウム「ストップ・ザ慢性腎臓病！」開催（札幌）
- 8月5日 医療講演「難連全道集会（札幌）」
- 6月10日 「どうじん」115号発行
- 5月27日 第30回定期総会（札幌）
- 4月14日 第62回北海道ブロック会議
- 4月14日 第62回北海道ブロック会議
- 5月26日 結成30周年記念交流会（定山溪）

**一年のあゆみ**

# 地域腎友会活動





# 旭川地方腎友会

【設立】昭和58年5月24日  
 【所在地】旭川市宮前通東4155-30 旭川市障害者福祉センター「おびった」3階  
 【電話番号】0166-33-9083  
 【会員数】377名（平成18年9月現在）

旭川地方腎友会は、昭和62年（1987年）に活動目標、規約の整備、役員と役員の業務分担を定め故柳本一氏を会長として本格的にスタートしました。

当時の旭川市内の各病院は病院患者会の結成には好意的で、特に石田病院（現北彩都病院）は昭和43年（1968年）に病院長の指導で患者会がすでに設立していました。また、どこの透析病院も同じように開院後まもなく患者会を発足し現在に至っております。

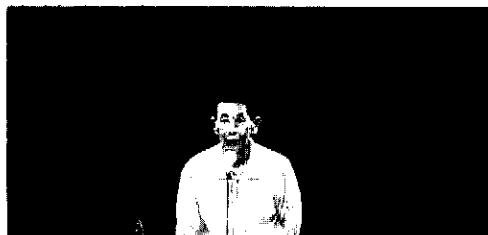
昭和60年頃から、石田病院患者会の故松山会長が、旭川の患者会を道腎協下部組織となるべく、地方患者会の結成を求めて各病院を回りました。その際故岩崎道腎協会会長も、わざわざ旭川まで来られ各病院長に挨拶され環境作りに努力していただきました。松山氏は道腎協設立にも尽力した方で、また、1ブロック1病院の時代に石田病院の患者会会長としても大変尽力されました。その当時の透析病院として石田病院のほか、増田クリニック、旭川日赤、道北病院、だてクリニックが加わり5病院まとまって道腎協下部組織として行動することになり現在に至ります。

現在（平成18年）旭川市内の透析施設は15施設で患者数もおおよそ1,000人を超えております。最近の旭川地方腎友会では、会の活動や各施設の活動報告を伝える機関誌「きよくじんほう」を年2回発行しています。また医療講演会を開き会員へ最新の医療情報を伝えることも毎年続けております。

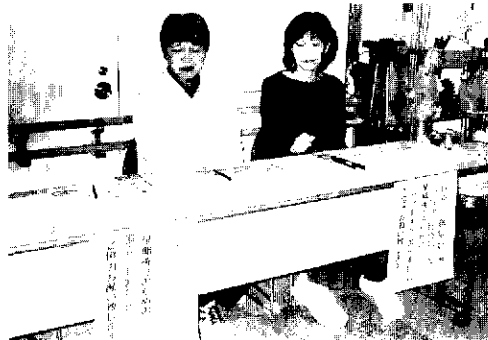


道腎協総会旭川大会（平成17年）

## 旭川地方腎友会定期総会



道腎協総会交流会 青柳旭川地方腎友会会長



街頭署名活動



全道一斉腎提供者  
 拡大街頭キャンペーン啓発横断幕



料理教室（平成18年）

## 主な活動

（毎年同じような活動を行っております）

- 平成18・4 総会
- 7 役員研修会「ピアカウンセリング入門」(ビデオ鑑賞)
- 8 機関誌「きよくじんほう17号」の発行
- 9 全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン
- 11 医療講演会「透析患者のための料理教室」
- 12 国会講願署名活動
- 平成19・1 機関誌「きよくじんほう18号」の発行

# 岩見沢腎友会

【設 立】昭和60年5月1日

【所 在 地】岩見沢市  
吉野 美津留 方

【電話番号】

【会 員 数】39名

4月に総会を行い、腎友会会員、道・全腎協会員の入会呼びかけを行っています。

医療講演会、病院側との懇談会、お花見、岩見沢クリニックとの懇談会、新年会の行事をしています。

道腎協ブロック会議、難病連全道大会に出席、街頭キャンペーン、署名活動、2カ月おきに、腎友会だより発行とそれぞれの行事は定着してきました。

まだ、新しい事には、手をつける余裕はありませんが、腎友会を継続維持しながら、少しずつ進んでいきます。

お互いが、病人だからこそ腎友会があり、また、道腎協、全腎協に一人でも多く参加してもらい、共に患者の声を届けていけるよう、活動していきます。

## 《岩見沢クリニック患者会》

岩見沢クリニック患者会は、クリニック開院の翌年平成4年7月9日に、病院の透析室で千葉院長はじめスタッフ出席のもと、岩見沢クリニック患者会として会員30名で設立されました。転院した方や亡くなった方もいて当時の会員は6名で、現在の会員は42名です。

会の目的は、患者同士の交流と親睦、医師及びスタッフとの意思の疎通を図る事などです。そのために次のような行事をしてきました。

- ① 野外レクリエーション
- ② クリスマスパーティ
- ③ 勉強会
- ④ 一泊旅行

ここ何年かは会の活動も停滞していますが、一泊旅行だけは毎年近郊の温泉にしております。今後の課題は、会員をいかにして増やしていくか、また、役員のなり手がいないため役員改選が出来ないことです。



青年部、小田君。我が腎友会のホープです



新年会、健康ランドにて乾杯！ 食べて、飲んで、歌ってお風呂に入ります



お花見、花より団子！ おいしいお弁当を食べて、おしゃべり、お風呂でゆっくりしました



腎提供者拡大街頭キャンペーン 黄色のジャンパーとのぼりが目立ち、人が寄ってきます

## 主な活動

昭和61

以降、  
岩見沢市立腎友会総会

平成元・10・8

まで、活動

平成13・9・14

休止状態であった腎友会を  
再び設立する。

# 浦河地区腎友会

【設 立】昭和63年 4月  
 【所 在 地】浦河郡浦河町  
 小野寺 契悦 方  
 【電話番号】  
 【会 員 数】62名

浦河地区腎友会について、紹介いたします。

当腎友会は、昭和63年に浦河赤十字病院に透析施設が開設されることに成り、それを機に苫小牧腎友会に所属していた31名が独立する形で結成されました。また、同時に道腎協にも加盟して居ります。翌年の平成元年には2部制が実施され、平成7年には会員の陳情によって透析室が新しく開設されて居ります。

現在、浦河町・様似町・えりも町・新ひだか町（三石地区・静内地区）の4町2地区より71名（会員62名）の患者が透析に通っています。

この10年の間には、役員の手配や転院等が相次ぎ役員不在や改選が余儀なく繰り返され、運営上支障を来す場面も在りました。しかし、会員の協力の下、平成18年度からは会長を始めとする役員を一新し、運営に努力する方針です。今後は、透析施設スタッフの協力を仰ぎつつ会員の一人一人が患者会に参加できる組織づくりを目指したいと思います。



平成16年 4月 アエルにて親睦会（スタッフと共に）



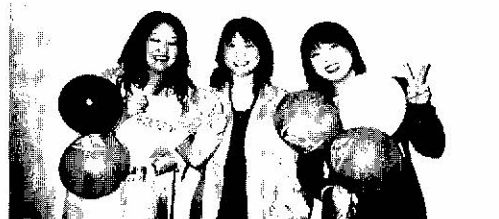
平成18年 4月 アエルにて親睦会（スタッフと共に）



平成18年11月 腎提供者拡大キャンペーン（署名活動）



平成18年11月 腎提供者拡大キャンペーン（署名活動）



平成18年11月 腎提供者拡大キャンペーン（強力3美女）



平成18年11月 浦河健康まつり（腎友会コーナー）

## 主な活動

- 毎年の活動
- ・総会
  - ・親睦会（1泊2日）
  - ・腎提供者拡大街頭キャンペーン
- その他の活動
- ・役員会（年数回）
  - ・懇談会（担当医師と役員）

# 江別腎臓病患者会

【設 立】 昭和62年11月  
 【所 在 地】 江別市野幌代々木町81-6  
 溪和会江別病院透析室内  
 【電話番号】 011-382-1111  
 【会 員 数】 84名（溪和会74名 さくら会10名）

江別市は人口123,000人の小都市で、街の中央部には石狩川が流れ、夕張川と千歳川が合流している地域です。又、レンガの生産は歴史も古く、生産量の多い街であることから、市街にはレンガ造りの学校の校舎など、種々の建造物が数多くあり、周辺の田園風景とともに情緒豊かな景観のよい街です。この様な環境の中で、私達は「江別腎臓病患者会」として地域活動をしております。

昭和62年11月に溪和会江別病院開院と同時に透析施設も設けられました。それまでは近郊で透析施設のあった札幌、岩見沢などの病院へ通院するしか手段がなく、大変難儀されていたようです。

江別に初めて透析施設が設けられたのに伴い、江別市及び当別町、新篠津村、南幌町、長沼町などに在住の透析患者の方々が、札幌などの病院から徐々に転院してきたことで、患者有志数人が集まり患者会の立ち上げをし、江別腎臓病患者会江別ブロックとして独自の活動を始めました。

その後、急激に透析患者も増えてきたため、独自に昭和63年8月に江別ブロックを引き継ぐ形で「溪和会江別病院腎臓病患者会」を設立し道腎協に加入。総会と年1、2回程度の日帰り旅行など患者同士の親睦を深める為の活動を開始する。平成2年11月、活動の範囲を広げる為、名称を「江別腎臓病患者会」と改め道腎協に加入変更。その後、さくら会江別泌尿器科クリニック、江別市立病院にも透析施設が設けられ、現在は3施設にて「江別腎臓病患者会」を構成。患者会の意義をもっと多くの方々に理解していただけるように役員一同頑張っております。



## 主な活動

1. 組織活動
  - (1) 年1回の定期総会開催
  - (2) 行政並びに各施設への陳情請願活動
  - (3) 医療制度などについての行政との勉強会など
  - (4) 通院送迎ボランティアの運営（あすなろ会）
  - (5) 年1、2回程度の会員相互の親睦会（日帰り旅行など）
  - (6) 当会の「20周年記念事業」の企画・準備（平成19年度）
2. 上部組織活動への協力
  - (1) 腎提供者拡大街頭キャンペーン
  - (2) 国会請願署名運動
  - (3) 道腎協などの定期総会並びに諸々の会合への参加

# 小樽後志地方腎友会

【設 立】昭和56年 4月

【所 在 地】小樽市  
北 征 子 方

【電話番号】

【会 員 数】251名

小樽後志地方は最初、市立小樽第二病院・うの外科クリニック・朝里病院・小樽北生病院、余市の田中内科医院・倶知安厚生病院の6カ所が開院されていました。

当会の道腎協への加入は昭和54年7月うの外科クリニックの患者14名が札幌ブロックの一部として加入したのが始まりです。

その後、55年4月市立小樽第二病院に患者会が設立され同時に22名の参加があり小樽ブロックの基礎が出来上がり札幌ブロックからも独立しては、と言う意見もあり昭和56年4月に小樽後志地方腎友会となり余市・倶知安の患者も加入してきました。

それからは今は亡き小樽北生病院の工藤豊さんの指導のもと現在の事務局になりました。

その後元会長の首藤一子さんを中心に患者会として資金つくりや交流などいろいろ活動・運動をし、4代目会長北征子の時代は国の情勢も変わり、更生医療が自立支援医療となり原則1割の自己負担が導入されました。

さらにきびしい時代になっていきますが、全腎協、道腎協と連携しこれ以上福祉の後退にならないよう組織を守って頑張っていきたいと思えます。



小樽後志地方腎友会25周年記念の集い



小樽後志地方腎友会創立25周年記念  
平成6年9月3日 於小樽ニュー三幸

## 主な活動

- 平成13・9 20周年祝賀会
- 平成18・9 25周年記念の集い
- 毎年の活動
- ・ 毎月1回 幹事会
- ・ 4月 定期総会
- ・ 9月 全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン
- ・ 1月〜2月頃 新年会
- ・ 秋には日帰り旅行、又は一泊旅行
- 医療講演

# オホーツク腎友会

【設 立】昭和60年 1月28日

【所 在 地】網走市

村田 豊 方

【電話番号】

【会 員 数】83名

昭和60年1月28日 石田病院網走分院の患者25名により設立総会を開催し設立しました。当初は少額な予算で活動も思うように出来ず、財源確保に重点を置き、赤い羽根共同募金の分配金を要請し、更に、花火販売などを行いました。昭和63年5月より網走厚生病院の患者も加わり2施設になり、全腎協、道腎協に加入し医療、福祉制度の充実に向け「国会請願署名募金活動」を行いました。

平成5年10月、石田病院の廃院で1施設だけの会員となりましたが平成9年7月に近郊の小清水町赤十字病院での透析施設が新設され、2施設となったものの平成16年4月には赤十字病院が会員30名となったことから分離、独立しました。

現在、当施設の全患者は約100名余り、その内、会員数83名(80%)で100%の会員にすべき鋭意、努力しております。最近では自主財源での物品斡旋、花火販売等も軌道に乗り花見会、旅行会、観楓会、道東6地区学習交流会の参加並びに、1泊での新年交礼会等の事業を行い、又、事務的には「事務局たより」の発刊、長期透析患者表彰、更には、会員と病院との要望、要求の調整を行う「病院との懇談会」などを実施しております。

平成14年には病院の移設改築に伴う「要望書」を会員一丸となり作成し、80%以上の要望を取り入れられた透析施設で平成18年1月より快適な透析を受けています。

当会は1施設だけの会員であり病院と患者との問題も色々あり、他地方腎友会との情報交換を密にし、より良い方向に持って行こうと考えています。

今後としては更なる快適透析の確保と医療、福祉を中心とする社会保障制度の後退を阻止すべく「国会請願署名募金活動」など全腎協、道腎協と共に会員一同頑張って行こうと考えています。



旅行会 (知床岬)



広島県吉田総合病院 (透析) 親善交流会



「ふれ愛2006網走」ドナー登録並びに署名活動



道東6地区学習交流会出席時



旅行会 ウトロ (観光船乗船)

|        |    |                     |
|--------|----|---------------------|
| 昭和60・4 | 発行 | 会報「流水」創刊以後、年2回      |
| 昭和61・6 | 発行 | 赤い羽根共同募金分配金決定       |
| 平成2・5  | 発行 | 通院交通費助成要望、支給        |
| 平成8・3  | 発行 | 10周年記念会誌「十年の歩み」     |
| 平成9・7  | 発行 | 道東6地区学習交流会 (網走)     |
| 平成12・9 | 開催 | 道東6地区学習交流会 (網走)     |
| 平成13・9 | 開催 | 病院移転改築に伴う先進地視察      |
| 平成18・1 | 開催 | 及び会員要望アンケート調査       |
| 平成18・3 | 開催 | 病院移転改築オープン          |
| 平成18・3 | 開催 | 設立20周年記念事業 (記念品の配付) |

## 主な活動



# 北見地方腎友会

【設立】昭和52年11月

【所在地】北見市

浅見 恭行 方

【電話番号】

【会員数】105名

北見地方腎友会も来年で30周年を迎える事となります。先輩の方々が大変御苦労なされた後、今日に至って我々にとっては良い環境で透析が行なわれております。昭和60年に会名を変更して北見地方腎友会が出来てからの活動はめざましく、いろんな事にチャレンジしてきました。今はその組織を維持して行くのが大変です。医療が進み透析機械が良くなり我々の命も長期となり、15年～30年生き、介護が必要となり自由に自分の体を動かす事も出来ず、これは仕方なしと自分を納得させ、気力をふりしぼり生活しなければなりません。現状を留めておく事、行政に対し道に対し、一人ひとりが協力し合い活動に努力しなければと、皆さんが思っていれば少しは光が見えてくるものと信じます。

活動と言っても長期にわたり、次第に参加者が減り新会員加入がとくに大変です。先輩の方々の心を受け継いで一年一年頑張っていくと思いつつ皆様のご協力をお願い致します。



平成17年9月 全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン



平成18年6月18日 春の親睦交流会（パークゴルフ大会）



平成18年9月2～3日 北見市ふれ合い広場にて



平成18年10月21日 第27回道東地区腎友会 学習交流会 於ニュー阿寒ホテルシャングリラ

| 年月   | 行事  |
|------|---|
| 昭和49 | 11月より道立北見病院にて透析開始                                     |
| 昭和50 | 2月より北見石田病院（現在北斗病院）にて透析開始                              |
| 昭和52 | 秋より患者会は道立北見病院と石田病院にて結成され活動開始                          |
| 昭和56 | 北見ブロックとして道立北見病院石田病院が活動開始                              |
| 昭和58 | 1月より北見地方腎臓病患者連絡協議会として発足し統括される（北見地方腎友会）                |
| 昭和60 | 石田病院・道立北見病院・千葉クリニクにて北見を中心とした3施設で「北見地方腎友会」という組織発足し活動開始 |
| 平成18 | 4月より北見市のハイヤーチケットが15枚増え、45枚に                           |
| 平成18 | 現在7施設の会員によって組織されている（患者数465名、会員数105名）                  |
| 年間行事 |   |
| 1月   | カレンダーリサイクル市参加   |
| 4月   | 総会  |
| 6月   | 春の親睦交流会   |
| 8月   | 北海道難病連大会  |
| 8月   | 難病連北見支部交流会  |
| 9月   | 北見市ふれあい広場参加   |
| 9月   | 全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン                                    |
| 10月  | 北見市健康まつり参加  |
| 10月  | 道東地区腎友会学習交流会  |

## 主な活動

# 釧路地方腎友会

**【設 立】** 昭和52年11月26日  
**【所 在 地】** 釧路市川北町4-17  
 釧路市身体障害者福祉センター内  
**【電話番号】** 0154-23-6687 (FAX 兼)  
**【会 員 数】** 390名

釧路地方で最初に人工透析が行われたのは、昭和42年釧路日赤病院が初めてでした。その後、昭和52年11月26日16名で釧路地方腎友会は発足、初代会長は早坂要氏でした。当時の市内の透析施設は、市立釧路総合病院、釧路日赤病院、釧路労災病院の3施設で透析患者が37名でした。会活動の主なもの、新年会等の親睦会、食事指導講習会、病院に対しての要望等で、その後、昭和52年に釧路市へ「通院交通費助成」の陳情行動を行い、議会で採択されたのを機会に各市町村に対しても「通院交通費助成」の要請行動を行いました。昭和53年からは機関誌「腎友」を発行（現「たんちょう」）。10月1日に釧路地方腎友会、第1回総会が開催されました。以後毎年5月に総会が開催され、その他では日帰り旅行、各種学習会、新年会、道東地区学習交流会への参加等、会員の親睦交流会を開催すると共に国会請願署名募金運動、全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン、各医療制度改革及び福祉年金等に対する政策改悪反対運動、道、各市町村に対する各種要望等の請願要望行動を行っております。釧路地方腎友会は釧路市内8施設、管内2施設の10施設で患者数約640名会員数390名の組織で会活動を行っております。



14年度道東6地区交流会  
 平成14年度道東6地区交流会（平成14年10月5日、あかん遊久の里 鶴雅）



腎提供者拡大街頭キャンペーン（平成17年9月25日、ジャスコ釧路店）



釧路市健康まつり（平成17年10月2日、釧路市国際交流センター）



釧路地方腎友会30周年記念式典（平成18年11月26日、釧路シーサイドホテル）

## 主 な 活 動

|         |  |
|---------|--|
| 昭和52・4  | 市へ「通院交通費助成」の要望<br>議会採択                 |
| 昭和53・10 | 機関誌「腎友」（現たんちょう）<br>1号発行                |
| 昭和57・4  | 釧路会地域内で初の夜間透析開<br>始（林田クリニック）           |
| 昭和58・1  | 根室市立病院透析開始                             |
| 昭和59・5  | ●適用拡大で15市町村に陳情書<br>提出                  |
| 昭和61・11 | 釧路地方腎友会10周年記念式典<br>実施                  |
| 昭和63・10 | 中標津町長へ透析施設開設の要<br>望書提出                 |
| 平成2・4   | 市、身障者福祉センター内に事<br>務所開設                 |
| 平成5・9   | 中標津町立病院で透析開始                           |
| 平成8・11  | 釧路地方腎友会20周年記念式典<br>実施                  |
| 平成13・10 | ●の所得制限導入反対等1市11<br>町に対して請願行動実施         |
| 平成15・6  | 弟子屈町摩周厚生病院透析開始                         |
| 平成16・6  | 釧路各市町村へ●見直し反対請<br>願行動実施                |
| 平成17・3  | 更生医療の改悪に反対、地元選<br>出国會議員2名に対して要望書<br>提出 |
| 平成18・11 | 釧路地方腎友会30周年記念式典<br>実施                  |

# 札幌腎臓病患者友の会

【設立】昭和49年7月14日（148名）  
 【所在地】札幌市北区北17条西2丁目 2-38-301  
 【電話番号】011-707-6789  
 【会員数】1,370名

昭和49年7月に設立総会が開かれ、10施設148人の会員でスタートしました。

当時、人工透析は週2回、1回5～6時間が一般的で、医療の施設間格差が大きく、その情報交換や福祉制度などを会員に知らせるのが主な活動でした。

その後、全腎協の協力で札幌腎友会を中心に道腎協を設立し、医療保険制度や福祉制度を守る活動や国会請願署名募金活動に取り組み、街頭での腎提供者拡大街頭キャンペーンなどを実施しています。他にも炊事遠足・ボウリング大会などの親睦交流活動にも力をいれ活動の輪を作り、機関紙「生きる仲間」の発行は、全会員をつなぐ重要な活動として取り組んでおります。

また、札幌市への請願や要望などで、福祉タクシー利用券枚数増や自動車燃料助成券の導入などを実現しました。また、北海道のマル障制度改正では札幌市独自の限度額が制定され、私たち透析患者も自己負担が軽減されています。

私たち札幌腎友会は力を結集して、透析患者を見捨てない社会を目指し、活動を続けて行きたいと思っております。



腎提供者拡大街頭キャンペーン



平成16年度 炊事遠足



平成17年度 ボウリング大会



平成17年度 結成30周年記念の集い

## 主な活動

|         |                          |
|---------|--------------------------|
| 昭和49・7  | 札幌腎友会設立総会                |
| 昭和60・10 | 機関紙「生きる仲間」創刊             |
| 昭和63・10 | 10周年記念誌発行                |
| 昭和63・10 | 札幌腎友会会旗・シンボルマーク作成        |
| 平成4・5   | 全腎協北海道大会に全面協力            |
| 平成6・12  | 20周年記念誌発行                |
| 平成7・8   | STV・24時間テレビチャリティーに参加     |
| 平成8・9   | 福祉タクシー利用券の拡充を求める請願       |
| 平成9・4   | 福祉タクシー利用券年間48枚から60枚に増える  |
| 平成12・6  | 組織強化検討委員会発足              |
| 平成12・11 | 札幌市にマル障所得制限導入反対の要望書提出    |
| 平成12・12 | 正月飾り独自販売                 |
| 平成13・5  | 「生きる仲間」臨時号発行（以後随時）       |
| 平成15・4  | 自動車燃料助成券導入               |
| 平成16・1  | マル障制度見直し反対の道議会請願署名運動等展開  |
| 平成16・7  | 札幌4地区に於いてマル障・更生医療制度説明会開催 |
| 平成17・3  | 結成30周年記念誌発行              |
| 平成17・10 | 札幌腎友会青年部設立               |

# 静内腎友会

【設立】平成3年4月 日高腎友会（8名）

【所在地】日高郡新ひだか町  
橋本 和宏 方

【電話番号】

【会員数】17名（平成18年10月1日現在）

静内町に透析医療機関である静仁会静内病院が平成2年10月6日開院され2名の患者で透析医療が始まり、札幌・苫小牧・浦河等から、次々と患者が戻って来て患者会を作ろうと言うことになり、平成3年4月患者8名で旧日高腎友会・現静内腎臓病患者友の会（静内腎友会）が結成され、初代会長に佐藤章氏、副会長・会計に山口勉氏、監査に佐藤ミサヲ氏を選任してスタートしました。

当初は、まず活動資金を作る事から始め、しずない桜祭、秋祭、各自治会の盆踊りでの出展でタコ焼き、ツブ焼き、牛乳販売と患者が交代で販売に専念し資金確保に成功しました。

活動に付いては、福祉タクシー初乗り無料、静内温泉入浴割引（年24枚）、町内バス無料化を陳情し取り入れられました。

また緊急時の透析医療対策に付いて静内町と病院との話し合いで対策は確立しております。

静仁会静内病院の更生医療の指定を受ける事務の関係は、2年がかりで、平成10年12月に更生医療指定病院になりました。

会員相互の親睦としては、新年会・花見・温泉食事会温泉旅行等で交流しております。



平成10年6月21日 静内温泉キャンプ場花見



平成13年9月9日 病院祭での出店



平成16年10月20日 医療講演会



平成17年11月29日 台風10号被災患者に見舞金を届ける道腎協川村会長

## 主な活動

平成3・4

日高腎友会設立総会

平成4・5

福祉タクシー初乗り無料化陳情

平成6・1

登別温泉で新年会10名参加

平成6・4

福祉タクシー、町内バス無料化、静内温泉割引になる。

平成7・6

緊急災害問題、透析時の災害（地震）対策静内町、病院の対応や

平成8・8

緊急連絡網の整備を確認。

平成9・6

日高腎友会から静内腎友会に名称変更する。

平成10・10

医療講演会「透析の仕組み及び透析食のあり方」

平成12・8

秋の交流会十勝温泉、池田ワイン工場22名参加。

平成13・7

静内福祉トピアに協賛して出店「揚げタコ焼き、ししゃも揚げ、いも餅」の販売。

平成14・3

静内腎友会10周年記念誌「10年のあゆみ」発行。

平成15・1

全腎協佐藤利國理事（室蘭）道腎協山口信子副会長（苫小牧）が来町透析患者の食事について病院に要請。

平成17・9

川村隆志道腎協会長台風10号被災者に見舞い金届ける。

平成18・9

障害者自立支援法案に対する9区衆議院議員選挙立候補者へ見解について回答を求めた。

# 腎友会滝川クリニック透析者の会

【設 立】昭和58年7月3日

腎友会滝川クリニック透析者の会は、昭和58年(1983年)2月に、設立世話人会が構成され、初代会長の馬飼野秋雄氏を中心に、病院スタッフの力添えを頂き、準備を進め、昭和58年7月3日に、滝川市文化センターにおいて、会員57名を以って、設立総会を開催しました。

当時は、腎臓病に対する、社会的認知度が低く、大変な苦労と努力を強いられましたようです。名称も「滝川クリニック腎友会」であり、病院内に事務所を、置いてありました。

会の目的は、全ての腎臓病患者相互の経験交流・勉強会・患者間交流・他の施設との交流を掲げ活動をしています。

歴代の会長は、初代は、馬飼野秋雄氏、2代目は、樋都勝司氏、3代目は、土角福寿氏、4代目は、宇野峰治氏、現在は、5代目の川口松男氏です。

病院長が、平成17年に交代されるまでは、菅原剛太郎院長の下、会の運営に当たり、研修や交流会を、スタッフの方々とも、ご協力をいただきながら、年間事業を取り進めてきました。事業としては、春、秋の研修会。菅原剛太郎院長による、腎臓病全般に亘る講演、雨竜沼登山、ボウリング大会など会員交流会。平成17年に、病院長の交代により、会の運営は、患者のみとなりました。以前の事業を継続しながら、新たに工夫をして、会員相互の交流を中心に、活動に取り組んでいます。

※腎友会滝川クリニック透析者の会は平成19年10月31日を以って閉会しました。

温泉 昼食  
交流会



パークゴルフ  
大会



パークゴルフ  
大会



健康まつり  
ドナーカードを配布  
腎パンフ説明



健康まつり  
参加



サクランボ狩



総会



総会・研修会



ボウリング大会

## 主な活動

1. 総会と研修会  
腎臓病に関する研修
2. 春から夏にかけての、レクリエーション  
平成18年は、増毛町サクランボ狩、留萌市温泉で交流会
3. パークゴルフ大会
4. 滝川市健康祭りに参加  
ドナーカードの配布、腎バンクの説明
5. 紅葉と温泉の日帰り旅行  
富良野、チーズ工房・ワイン工場見学、温泉にて昼食交流会
6. ボウリング大会及び新年会

# 伊達地方腎友会

**【設 立】** 平成10年5月17日  
**【所 在 地】** 有珠群壮警町  
 川本 充 方  
**【電話番号】**  
**【会 員 数】** 72名 (平成18年10月末現在)

私たち透析患者の心の支えとして室蘭地方腎友会が、昭和51年12月に旧新日鉄病院の透析患者の有志により結成されてから約30年になります。

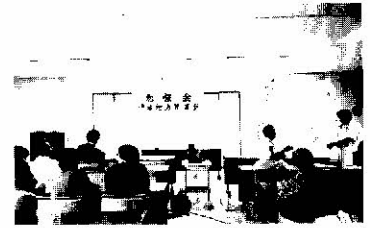
この30年を振り返ってみますと、「透析元年より金の切れ目が命の切れ目」と言われた時代がありました。

当時は、室蘭地方腎友会に透析患者が個々に所属しておりましたが、昭和61年8月に透析患者有志の方々が、地元で組織の必要性を感じて病院側と話し合いを行ない、「伊達赤十字病院透析患者会設立準備会」が設けられました。

昭和61年8月3日に、室蘭地方腎友会と共に活動する、「伊達赤十字病院透析患者会」が設立の運びとなりました。

その後平成10年5月17日に、地方分権により中央から地方の時代にと移り、それと共に「伊達赤十字病院透析患者会」を「伊達地方腎友会」と改称して、社会の貢献も果たしながら運営してまいりました。

現在の会員数は72名で、協調性と結束力により今日に至っております。



## 主 な 活 動

- 昭和61・8 伊達赤十字病院透析患者会設立
- 昭和61・9 旅行会 (室蘭水族館・虎杖浜温泉) 〓 40名
- 昭和62・5 観桜会 (登別市・成田庭園) 〓 参加者21名
- 昭和63・10 全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン (伊達市・伊達農協前) 〓 参加者9名
- 平成2・9 旅行会 (登別マリンパークニラス・白老ポロト湖) 〓 参加者26名
- 平成3・3 定期総会および観桜会 (伊達市・有珠善光寺)
- 平成3・10 全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン (伊達市・伊達農協前) 〓 参加者8名
- 平成4・5 全腎協定期総会 (札幌市) 〓 参加者10名
- 平成4・11 伊達市長に陳情請願 (透析患者における福祉タクシー制度の利用について)  
(※タクシー利用券とガソリン券の選択が可能になる。)
- 平成10・5 伊達地方腎友会に名称変更



# 道南腎友会

【設 立】昭和52年 9月18日

【所 在 地】函館市

筒井 紀昭 方

【電話番号】

【会 員 数】220名

昭和52年には、市内に透析施設が5施設で行われていた。腎臓病患者の活動は、それぞれの施設で独自の活動をしており、情報交換の機会もなく道腎協・全腎協という全国組織があることも、知られていなかった。

この頃『腎移植に関する映画と講演会』を医師会が主催した際に道南地区の情報や医療についての連絡が必要との提案がされ、昭和52年 9月18日に市体育館で協議会の設立総会が開催され、ここに道南腎臓病患者連絡協議会が誕生した。

現在は、道腎協とともに、福祉制度や医療制度の向上と市町村への助成や助言などをしてもらうための働きかけを行っている。

施設内腎友会や道腎協と全腎協とを結ぶ役目もしている。

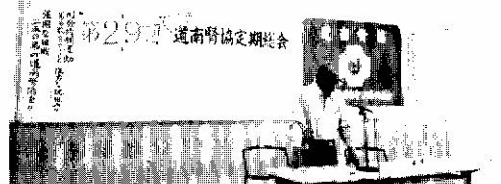
今後の会員数の減少に歯止めをどうするかが、大きな課題です。



平成10年第21回道南腎協総会（左田中会長 / 右桑島議長）



平成13年第25回道南腎協総会（道腎協会長 川村隆志氏）



平成18年第29回道南腎協総会（桑島会長あ いさつ）



第1回医療費の説明会 平成16年8月22日 健保センター



第20回腎提供者拡大街頭キャンペーン 平成12年 9月24日



第24回腎提供者拡大街頭キャンペーン 平成16年 9月12日

|                |   |
|----------------|---|
| 平成19・6         | 会名称変更<br>道南腎友会とする                                 |
| 平成17・5         | 事務局⇨函館市的場町19番6号<br>筒井紀昭宅<br>変更<br>番2 東谷美紀子宅<br>変更 |
| 平成14・5         | 事務局⇨七飯町字上軍川579<br>変更<br>渡部泌尿器科透析室内<br>立           |
| 昭和52・9         | 道南腎臓病患者連絡協議会を設<br>立<br>事務局⇨函館市深堀町36番9号            |
| 平成18・10        | 道南腎協だより第8号発行                                      |
| 平成18・9         | 地域生活新事業の説明会（福祉<br>センター）                           |
| 平成18・5         | 医療講演（五稜郭循環器科泌尿<br>器科 看護師 前川主任）                    |
| 平成17・5         | 医療講演（函館五稜郭病院透析<br>科長 鈴木勝雄先生）                      |
| 平成16・8         | 医療費の説明会（健保センタ<br>ー）                               |
| 昭和54・9⇨平成18・10 | 第1回⇨第26回腎提供者拡大街<br>頭キャンペーン実施する                    |

## 主な活動

# 十勝地方腎友会

【設 立】昭和47年5月

【所 在 地】帯広市

小笠原 和枝 方

【電話番号】

【会 員 数】360名（平成18年6月11日現在）

昭和47年5月帯広協栄病院で初めて透析治療が開始され、まもなく同病院内に「帯広人工腎臓友の会」が発足し、会長に八代氏が就任したそうです。（当時の患者数名で発足）

その後昭和51年11月「帯広クリニック」が開院し昭和52年10月クリニックの患者が中心となり「帯広腎友会」が発足、昭和54年11月「帯広クリニック腎友会」に改名し、花見やソフトボール大会等を実施していたそうです。

昭和56年「十勝腎友会」に改名

昭和57年から休会状態で活動停止

昭和59年6月新倉氏が会長に就任し会の再興と会員の拡大を目指した。昭和60年会員数6施設64名となる。平成6年4月規約改正により「十勝地方腎友会」と改名、鈴木氏が会長に就任。（平成8年度会員数241名）

平成11年規約大改正、会長に兼山氏が就任し、低迷しつつあった腎友会の活性化を図り会員の拡大と会員相互の親睦に務められました。その結果平成11年、会員数359名をかかえる大きな患者会となる事ができ、現在に至っています。

近年の度々の医療制度の改正、診療報酬の改定等で患者の自己負担が増え、医療の質の低下が懸念されます。今後も継続してこの会を守り続ける事が私達自身を守る事だと思えます。



平成13年新  
年会



9月腎提供  
者拡大街頭  
キャンペー  
ン



パークゴル  
フの後の焼  
肉交流会で  
す



春のレクリ  
エーション  
阿寒日帰り  
の旅



医療講演  
会

## 主 な 活 動

1年間の主な活動（4月～翌3月まで）

- ・ 定期総会（毎年4月実施）
- ・ 医療講演会の実施
- ・ 機関紙、花時計の発行（年2回）
- ・ レクリエーション
- ・ 会員相互の親睦交流を目的として春・秋の年2回実施
- ・ 市・町村行政機関への要望・請願の活動
- ・ 各施設の会員拡大のための活動
- ・ 腎提供者拡大街頭キャンペーン
- ・ 社会への啓蒙活動としてドナーカードの記入携帯を呼びかけ、合わせて血圧測定等も実施
- ・ 国会請願署名・募金の活動
- ・ しめ飾り販売活動
- ・ 新年会の実施
- ・ 十勝管内患者数の調査
- ・ 年に6回程度の三役会議・幹事会の実施
- ・ 全腎協・道腎協活動への協力

# 苫小牧腎友会

【設立】昭和50年1月

【所在地】苫小牧市

菊地 秀明 方

【電話番号】

【会員数】220名

昭和50年（1975年）1月に市立病院、千秋医院の患者が親睦、情報交換の場として会を立ち上げ、最初は14名で「つくし会」としてスタートしました。

道腎協設立前の事でもあり、全腎協に特例として加盟いたしました。

その2年後の道腎協の発足に伴い1ブロックとして加入しました。

その後平成5年に現在の苫小牧腎友会に改称しております。

現在は、日高管内、苫小牧市内、白老から220名の会員が苫小牧市内7施設と門別1施設の8施設で会を構成し活動を行っております。

発足当時の先輩達の活動は、透析液・ダイアライザーも現在と違い大変な事が数多くあったものと思います。そんな厳しい透析環境の中でも会を中心とした活動があっただけで現在の私達の透析環境があるのだと思うと、先輩達には感謝の気持ちで一杯です。

しかし、設立当時から築き上げてきたものが、昨年の医療制度改革関連法案が成立して私達の今までの生活が根底から覆されるような負担が押し寄せています。こんな厳しい状況のなかでも7月9日にはバスで仁木町にさくらんぼ狩を行ない、9月24日に腎提供者拡大街頭キャンペーン、10月29日に医療研修会を行ないました。幹事会も月に1回開催して、会の問題点、各病院の事務処理などを行って幹事間の連絡を密にしております。又、去年から新たな取組みとして、①ボランティア協議会へ加入し、色々な団体、個人と交流し透析をより多くの人に理解して頂くように活動しております。②機関紙「つくし」は会と会員を結ぶ絆であり、情報源として最も重要と考え内容を豊富にして読んでも楽しめるものにしていきます。③本年2月に会員の要望を聞く為にアンケート調査を行ないました。透析の長期化、高齢化などで活動できない方々は、何を腎友会に求めているのかを調べて今後の方向性を探りたいと思います。非会員にも実施の予定です。

今後も会員の為になる事を着実に実行し会員増にもつなげたいと思います。



平成18年9月 腎提供者拡大街頭キャンペーンにて



平成18年9月 市立病院に自動販売機設置



平成18年10月 医療研修会にて

## 主な活動

|          |                                 |
|----------|---------------------------------|
| 平成13・10  | 苫小牧市へマル障所得制限導入<br>反対要請を行ない採択される |
| 平成15・2   | 緊急災害時の為にマイカルテを<br>会員に配布         |
| 平成15・5   | 苫小牧で第26回道腎協定期総会<br>開催           |
| 平成16     | 苫小牧腎友会結成30周年・記念<br>誌を発行         |
| 平成16     | 苫小牧市にマル障見直し反対の<br>要望書・署名を提出     |
| 平成18・7   | 苫小牧ボランティア連絡協議会<br>に入会を承認される     |
| 平成18・7   | 苫小牧市立病院新築移転に伴う<br>今後の体制への要望書    |
| 平成18・9   | 苫小牧市立病院に自動販売機1<br>台設置           |
| 平成18・9   | ボランティア協議会で腎友会を<br>紹介            |
| 平成18・11  | 苫小牧東オータリークラブで臓<br>器移植の現状を紹介     |
| その他毎年の活動 |                                 |
| 2月       | 総会・新年会                          |
| 7月       | さくらんぼ狩                          |
| 9月       | 腎提供者拡大街頭キャンペーン                  |
| 10月      | 医療研修会                           |

# 根室腎友会

【設 立】昭和63年6月19日

【所 在 地】根室市

岡田 均 方

【電話番号】

【会 員 数】21名



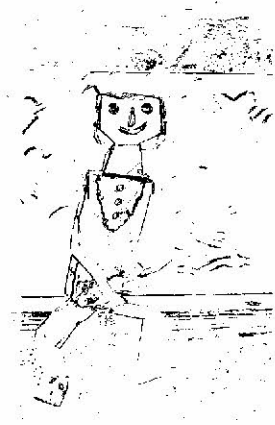
根室腎友会 石田廣治会長

平成15年4月1日臨時総会において、10数年間に渡る根室地方腎友会を発展的に解散とし、新たに根室腎友会として発足しました。

平成14年10月から現在まで、市内唯一の透析施設である市立根室病院と、「透析医療の質の向上」を中心に何度も会議を持ち、また要請文を提出するなど活動を継続しています。

また、重度心身障害者医療費助成（マル障）に原則1割負担が導入された平成16年には、10月導入前の7月に根室市役所福祉課と数度の話し合いを持ち市長には、要望書を提出しました。会員さんには、8月にマル障改定後の負担軽減のため、更生医療制度利用の手続きを早期に済ませる様、案内を送付しました。

平成17年の新年総会においては、各種報告書類をビニールファイルを新調し、会員に配布いたしました。



## 主 な 活 動

|      |     |                   |
|------|-----|-------------------|
| 昭和63 | ・6  | 釧路地方腎友会より独立       |
| 平成14 | ・10 | 市立根室病院と数度の会議      |
| 平成15 | ・4  | 新たに根室腎友会として発足     |
| 平成16 | ・2  | 新年総会              |
| 平成16 | ・7  | 市役所福祉課訪問（マル障について） |
| 平成17 | ・2  | 市長に要望書提出          |
| 平成17 | ・13 | 新年総会              |
| 平成18 | ・6  | 親睦会               |
| 平成18 | ・13 | 市立根室病院に要請文提出      |

# 深川腎友会

【設立】平成元年7月16日  
 【所在地】深川市5条6番10号  
 深川市立総合病院透析室内  
 【電話番号】0164-22-1101  
 【会員数】14名



サクランボ狩り 深川 (川幡果実園)

深川腎友会は、昭和63年12月深川市立病院に透析室が開設され、これを機会に、平成元年7月会員数21名で結成されました。

当時は深川に透析できる施設がなく、多くの患者は滝川、旭川と通院を余儀なくされ大変でした。

昭和60年10月、深川在住者を中心に“腎臓病患者と家族の会”を結成、何度となく陳情し、やっと深川市立病院に開設されたものです。

現在、患者数は70名前後、高齢者が多くなっておりませんが、毎年多数の患者、家族、スタッフでサクランボ狩り、新年会など親睦を深めております。



平成2年12月 忘年会

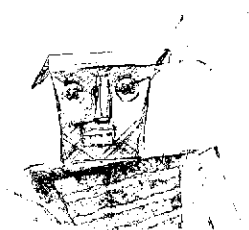


平成3年5月 日帰り温泉旅行

## 高砂温泉

### 主な活動

- 平成元・2 透析者の会設立発起人会
- 平成元・7 深川腎友会結成
- 平成元・12 第1回深川腎友会忘年会
- 平成2・4 平成2年度深川腎友会総会  
以後、毎年総会を開き、決算報告、活動計画、役員を決める。
- 独自活動として、サクランボ狩り、日帰り温泉旅行、新年会など
- 平成17・6 深川市立病院新築、透析室増床となる



# 室蘭地方腎友会

【設 立】 昭和51年12月  
 【所 在 地】 室蘭市東町2丁目1-6  
 室蘭市障害者福祉総合センター内  
 【電話番号】 0143-45-6849 (FAX)0143-45-6849  
 【会 員 数】 250名

室蘭市に於ける透析第1号は、昭和47年10月、新日鉄病院外科で行われた。当時は透析に対する認識も浅く、各病院の腎不全患者は死を待つ諦めの日々を過ごしていた。また、設備も整わず透析スタッフの方々の御苦勞は大変であったと思う。

その後、腎不全患者が生きるため透析を受けたいとの願いと、年々増加する患者の設備拡充と共に、昭和51年9月には既に患者20数名以上になった。

この時期、各都市の透析患者間の情報と札幌の腎臓病患者友の会より、道腎臓病患者の組織作りに関するアンケート調査依頼等もあり、私達グループの関心も高まり、先輩、滝沢英郎氏のご指導で、組織作りの下準備が進められた。

その後、沢山クリニックの開院が伝えられ、患者が分れる前には是非、室蘭腎友会を結成しようとのことから、昭和51年11月、新日鉄病院にて、患者20数名の出席のもと懇談会がもたれ、全員一致で組織作りが決定された。昭和51年12月12日、新日鉄病院での結成総会により、室蘭腎友会初代会長五百鳥制也氏を推薦、規約の承認並びに役員を選出が行われた。

12月15日、沢山クリニックの開院と共に総会の決定により室蘭腎友会事務局は沢山クリニックに設置された。



平成13年9月9日 第13回障害者ふれあいまつり

定期総会



平成14年5月 第24回室蘭地方腎友会定期総会



平成17年6月 施設合同春のレクリエーション



平成15年3月 勉強会(車椅子の介助方法を学ぶ)



平成18年10月15日  
 室蘭地方腎友会結成30周年記念祝賀会開催(一層の結束新たに誓う!)

平成18年10月15日  
 30周年記念祝賀会  
 来賓として栗原全腎協副会長来蘭。  
 (白鳥大橋を背景に) 向かって右側



## 主な活動

1. 上部組織活動及び他団体への協力
  - (1) 国会請願署名活動
  - (2) 全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン
  - (3) 北海道難病連への参加協力(全道集会)
2. 組織活動
  - (1) 行政並びに各施設への陳情請願活動
  - (2) 医療講演会及び勉強会の開催
  - (3) 財政活動及び地域社会の開催
  - (4) 一般市民への啓蒙活動
  - (5) 施設合同レクリエーション
  - (6) 機関紙発行・事務局ニュース



# 紋別地方腎友会

【設 立】昭和57年5月1日（6名）

【所 在 地】紋別郡遠軽町  
高田 光一 方

【電話番号】

【会 員 数】30名

紋別地方では、昭和57年2月から上湧別町の曾我病院で4名の透析患者さんにより透析が始められました。

それまで一番近い透析施設は、北見市内の道立北見病院と石田病院（現在の北斗病院）の2カ所しかなく、透析を受けるため北見市まで長時間かけて通っていたとの事でした。

遠距離や交通の便が悪く通院できない患者さんたちは、入院を余儀なくされていました。

私たち透析患者は「自宅により近い所に透析施設がある」ことを切望していました。

現在は、曾我病院（上湧別町・昭和57年2月開設）、遠軽厚生病院（遠軽町・平成4年4月開設）、曾我クリニック（紋別市・平成4年11月開設）、道立紋別病院（紋別市・平成6年11月開設）、雄武町国保病院（雄武町・平成15年4月開設）と、紋別地方の透析施設は5カ所となり、通院にかかる時間が少なくなり大変楽になりました。

紋別地方腎友会の前身は、昭和57年5月に結成された曾我病院腎友会で、「患者会相互の親睦を深める」ため、昭和57・58年度は道立北見病院と北見市の石田病院と共に北見地方腎臓病患者連絡協議会として一緒に活動を行っていたそうです。昭和60年度には紋別ブロックとして独立し、道腎協の地域腎友会として承認され紋別地方腎友会と名称を改め現在に至っています。しかし、平成元年から4年程、当時の会長と事務局長が体調を崩し、またその間、事務局の後継者ができず休会状態を余儀なくされました。そして、平成4年には遠軽厚生病院、曾我クリニックと相次いで透析が始まり、透析患者・会員が分散していきました。分散していった会員の方々から腎友会の再開の呼びかけがあり、平成5年から腎友会として活動を再開することができました。

活動としては、主に道腎協・全腎協の活動に協力する事を中心にしております。

透析施設が遠軽町・上湧別町・紋別市と分散している中で、未加入の患者さんに腎友会活動内容を理解して戴くのは大変難しい事もあります。役員後継者がなかなかいないという問題もあります。しかし、これからも私たち患者会は、安心して透析生活を送れるよう、社会保障・福祉制度が後退する事のないように、会員のみならず全患者と活動を行わなければならないと思います。



腎友会初期 滝上町濁川公園にて



故井上茂氏

紋別地方腎友会の事務局長として会活動にご尽力され、また昭和55年から平成16年まで道腎協幹事としてご活躍されました。平成16年7月25日（享年52歳）にご逝去されました。

## 主な活動

|        |                           |
|--------|---------------------------|
| 昭和57・5 | 会員6名で曾我病院腎友会設立            |
| 昭和60・4 | 紋別ブロック（曾我病院腎友会）として道腎協に承認  |
| 昭和63・4 | 名称を曾我病院腎友会から紋別地方腎友会に改める   |
| 平成5・4  | 三病院で紋別地方腎友会として活動を再開       |
| 平成13   | 紋別保健所遠軽支所管内、難病患者と家族の交流会開催 |

# 夕張腎臓病友の会

【設 立】昭和57年  
 【所 在 地】夕張市沼の沢353番地  
 【電話番号】0123-57-2523  
 【会 員 数】18名  
 平成19年3月閉会



昭和57年、患者5名で始めた施設も、現在患者数30名、会員数18名となりました。

私たちの会の1年間の活動も、新年会に始まり、花見、研修旅行などをおこなっております。17年度の花見は市内の野球場（ドンペーズ）奥の桜の木の下で焼肉を囲みました。

研修旅行は長沼温泉へ行ってきました。9月の腎提供者拡大街頭キャンペーンは、天候にも恵まれ、病院スタッフの応援をいただき無事終わりました。平成18年の花見は雨の中会員さん宅で焼肉を囲み談笑しました。研修旅行は、10月15日に夕張を10時に出発し、秋晴れのもと快適なドライブを楽しみ、美唄のゆーりん館に行き温泉に入って来ました。このような活動を通し、会員相互の親睦と病院スタッフとの交流をもっともっと深めて行きたいと思っております。



## 主な活動

- (平成17年から)
- 平成17・5 花見会（夕張ドンペーズ球場奥）（会員・家族・病院スタッフ計11名）
- 平成17・9 全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン（石炭の歴史村）（会員・家族・病院スタッフ計11名）
- 平成17・10 研修旅行（長沼温泉）（会員7名）
- 平成18・5 花見会（雨天のため会員宅で焼肉会）（会員・家族・スタッフ計10名）
- 平成18・10 研修旅行（美唄ゆーりん館）（会員・家族10名）

※夕張市は財政再建団体になり、平成19年4月より透析施設が閉院。夕張腎臓病友の会も閉会しました。

# 留萌地方水無人腎友会

**【設 立】** 昭和51年10月1日  
**【所 在 地】** 留萌市東雲町2丁目16番  
 留萌市立病院透析室内  
**【電話番号】** 0164-49-1011  
**【会 員 数】** 43名（他羽幌支部37名）

道腎協が創立30周年を迎えられ、歴代会長を始めとする役員の皆様の苦勞は大変だったと思われます。私たち水無人腎友会も昭和51年に発足し、昭和52年10月に道腎協、全腎協に加盟しました。私たちの先輩の人達が築きあげた会を大切に患者が住みやすい場所にしていきたいと思います。

会の今の悩みはどの地域腎友会も同じだと思いますが透析患者は増えているが入会者が少ない事です。いかに入会者を増やすか、役員、会員でがんばっています。

今後も私たち地域腎友会は全腎協、道腎協と協力して住みやすい安心して生活のできる、又透析のできる環境を作っていきたいと思ひます。



平成10年2月新年会



平成11年7月腎友会旅行（小樽、朝里）



平成12年1月新年会



平成14年7月腎友会旅行（富良野）



平成15年4月腎友会総会



平成17年10月腎友会提供者拡大街頭キャンペーン（市立病院内）



平成17年10月災害時の離脱訓練



平成18年9月腎友会旅行（夕張）



平成18年10月腎友会提供者拡大街頭キャンペーン（留萌ふれあい広場）

| 年次      | 主な活動                                |
|---------|-------------------------------------|
| 平成18・11 | 留萌市立総合病院透析開始                        |
| 平成18・10 | 留萌地方水無人腎友会発足                        |
| 平成17・10 | 道腎協・全腎協に加盟                          |
| 平成17・10 | 透析室、新館に移動する                         |
| 平成17・7  | 留萌市中心身障害者福祉団体連絡協議会に加盟               |
| 平成17・7  | 留萌市社会福祉協議会に加盟                       |
| 平成17・7  | 夜間透析開始                              |
| 平成17・5  | 透析室の体制改善を要望する                       |
| 平成17・5  | 道立羽幌病院透析科早期実現に関する意見書を道知事・道議会議長に提出する |
| 平成17・5  | 道立羽幌病院人工透析開始                        |
| 平成17・7  | 臨床工士が常勤となる                          |
| 平成17・7  | 透析医師2名常勤                            |
| 平成17・7  | 留萌市立病院東雲町に移転                        |
| 平成17・7  | 透析患者の軽度な運動について教育実施（料理のバランスについても）    |
| 平成17・7  | 新病院セントラル・クリニック開業（腎友会会員に5名）          |
| 平成17・7  | 新羽幌病院開始（透析ベッド数10台）                  |
| 平成17・7  | 会長・事務局長と羽幌支部役員と支部の現状を協議する           |
| 平成17・10 | 透析中の患者の離脱訓練（災害時）                    |
| 平成17・10 | 市立病院フェスティバル時に腎提供者拡大街頭キャンペーン実施       |
| 平成18・10 | 留萌ふれあい広場時に腎提供者拡大街頭キャンペーン実施          |
| 平成18・11 | リンについて教育実施及び調理実習                    |

## 主な活動

# 稚内地方腎友会

【設 立】 昭和55年4月1日(12名)  
 【所 在 地】 稚内市中央4丁目11番6号  
 市立病院透析室内  
 【電話番号】 0162-32-8134  
 【会 員 数】 40名

当腎友会は昭和55年4月に発足したそうです。会員数も増え、年数回のレク等を行っています。地理的に不便な所なので、行動の不自由さはありますが、皆楽しんでやっています。

昔は透析施設もなく、夜汽車で旭川まで透析に行ったと聞いています。今は透析センターが平成17年4月に新築されベッド数も大幅に増えましたが、患者も増えて来ています。組織運営の苦勞も多数ありますが、ガンバッテいきます。



調理実習



調理実習



浜頓別ウイング



難病連道北大会



天塩川温泉にて

## 主な活動

- ・ 新年会
- ・ 定例総会
- ・ 月1回の役員会
- ・ 年1〜2回のレクリエーション
- ・ 国会請願署名運動
- ・ 難病連合同クリスマスパーティー

# 士別腎友会

【設 立】

【所 在 地】 士別市東山町3029番地 1  
市立士別総合病院 透析室内

【電話番号】 0165-23-2166

【会 員 数】



役員会員での道腎協総会参加

士別腎友会を立ち上げて5年が経ちました。

現在の前身の患者会が、役員不在で自然消滅してしまい、現在の患者会をもう一度立ち上げる為に、初代会長、事務局長だった方へ相談し色々な方のご協力で、もう一度立ち上げる事が出来たことを今も心に刻み患者会活動をしています。

現在もまだまだ至らない事もありますが、小さな患者会の特権でもありますが、会員さん一人ひとりの顔がわかる役員と会員さんが身近に感じてもらえていると思っています。

当初は、役員、会長含め5名で始まった患者会ですが、現在は、幹事さん含め7名の役員で活動しています。

とは言え、会員が増えているとは言えないのですが、患者さんの高齢化と医療費負担などで減少しているのは確かです。

ただ毎年1～2人の加入の方がいますが、減少と同じなので会員拡大には中々ならないのが、会の悩みでもあります。

小さな患者会なので活動としては、特別な活動は行っていませんが、交流を主に「新年会」「夏レク」「臓器移植キャンペーン」など、特に臓器移植キャンペーンは10月に行っている「腎提供者拡大街頭キャンペーン」を士別腎友会では、士別社会福祉協議会様の協力で7月に行われる福祉行事の「ふれあい広場」の開催に合わせて、臓器移植の推進を理解してもらう為にブースを作ってもらい広場内での臓器移植キャンペーンを毎年行っています。市民の方へ少しでも臓器移植の理解の推進になるように活動しています。

毎年道腎協青年部員にボランティア参加してもらい士別腎友会役員も大変助かり感謝しています。若い青年部員と毎年話をする事も楽しみにしているようです。

これからも益々患者会を続けて行く事が、大変とは思いますが会員さん一人ひとりに理解してもらい会員さんと患者さんの会話を大切にして新規の患者さんへ理解してもらい会員拡大への一歩にと思っています。



臓器移植キャンペーン

# 三笠腎友会

【設 立】平成14年2月24日

【所 在 地】三笠市幌内町  
佐藤 勝利 方

【電話番号】

【会 員 数】16名

平成14年2月24日に設立5年とまだ歩み始めた所です。設立に際し道腎協の当時の副会長で川村現会長と当時の佐藤副会長の御指導をいただき設立した次第です。設立当初は40数名にたった会員数は現在16名と、まことに残念な状態にあります。私たちも会員の勧誘の努力はしているつもりですが難しい問題です。第一に会に対する理解が得づらい事です。必ず云う事は、「なにをしてくれる。」と云う事です。会の上旨を説明するのですが、現在の状況が良い方向へ向くとは思われないと云う返事が返って来ます。又、これには当市の財政状況にもあります。財政再建団体入りも心配される状況にあり、会に対する補助や障害者や老人の各補助金が切られています。その様な状況のなか、私たちになにが出来のらうと暗中模索しております。しかしながら私たち少数と云え心強い仲間がいます。その仲間と力を合わせ一歩ずつでも前進の努力をしたいと思ひます。今後も各地域腎友会を見習い、御指導いただきながらすすんでいきたいと思ひます。よろしく御願ひいたします。



平成14年6月16日 三笠クロホード公園パークゴルフ交流会



平成14年10月13日 支笏湖へ交流会



平成15年6月22日 三笠クロホード公園チャンチャン焼で交流会



平成15年7月11日 三笠腎友会日帰り温泉旅行新篠津タップの湯へ



平成18年10月29日 三笠腎友会日帰り温泉旅行三笠市桂沢ホテルへ

- |                       |                        |                                 |             |                 |           |              |
|-----------------------|------------------------|---------------------------------|-------------|-----------------|-----------|--------------|
| 平成18・3・23             | 平成15・11・30             | 平成14・6・16                       | 平成14・2・24   | 平成14・2・18、19、20 | 平成14・2・3  | 平成13・12・16   |
| 三笠腎友会会計監査杉本氏<br>国会請願へ | 三笠市立病院沢岡先生、看護師による講演会開催 | 三笠クロホード公園外でパークゴルフ大会及びチャンチャン焼交流会 | 三笠腎友会設立総会開催 | 三笠腎友会設立総会開催     | 腎友会発起人会開催 | 道腎協による 設立の指導 |

## 主な活動

# 富良野腎友会

【設 立】

【所 在 地】 富良野市幸町13-1  
富良野協会病院透析室内

【電話番号】 0167-23-2181

【会 員 数】 HD (血液透析) 65名 CAPD 10名

富良野協会病院は昭和15年8月17日設立と同時に各科の診療を行っている中に、平成4年4月3日透析室が開設されて医師及びスタッフ6名で治療を行っていた。

(富良野協会病院透析室開設10周年記念誌より)

その頃私は、CAPDをやって居りHD室があるのは知っていました。CAPDをやっている方々、又ナースの方々に色々お話を聞いて自宅で毎日CAPDと仲良く、月1回の外来受診し前向に考え日々過ごしているとき、導入後4年6カ月を過ぎた頃に、腹膜炎を起して処置後、HDに導入。初めて入った時は別世界の様でした。仲間やナースに色々教えて頂き頑張っている中、体調の変調その他の症状に苦しみ悩んだ時には先生やナースにはげまされ、勇気づけられてある程度の状況に戻り、週3回のHDも日に寄っては楽しみに変わって来た様な気持ちで頑張っていました。ある日、HDの患者が自宅に遊びに来て、色々なお話の中で腎友会の話になり、「会の役員が2人も亡くなり、現役員では無理なので内容を御理解の上、役員になって協力してほしい」との事で、私も状況内容承知の上を受けて平成15年4月より会の代表として又その後スタッフにも恵まれて、私の希望とする各ポストカラーを出してやって下さいとお願いし、会には少々問題はありますが仲良く輪をもって腎友会のために頑張っています。



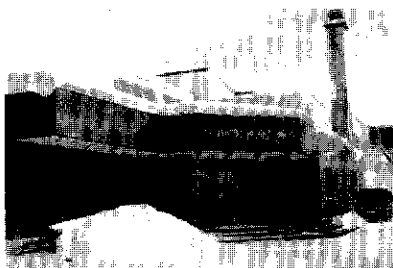
平成14年10月20日 赤平エルク高原温泉  
会食と温泉



平成15年1月26日 中富良野山荘にて

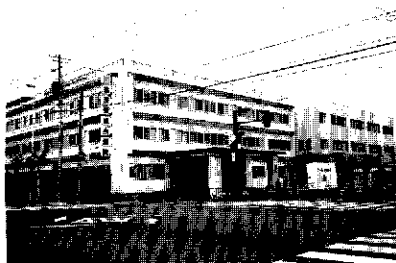


平成15年6月15日 桂木公園パークゴルフ



平成15年6月15日  
ハイランドふらの

富良野協会病院  
昭和15年8月17日  
設立



## 主な活動

富良野腎友会は年3回(春の旅)(秋の旅)新年会と(春の旅)は雪融けと共に青葉芽はえる5月〜6月頃に近場の温泉でのんびり過ごせる所を選び精神的にも体力的に無理の無い程度で1日楽しんで来ます。

(秋の旅)は紅葉の季節に入る所に外でのパークゴルフ、中で温泉と、少々の散歩を入れて内外の秋のパノラマを1日楽しんで来ます。

(新年会)は外も雪であまり見る事が出来ませんので、時間を多く取り温泉につかるため、昼寝と共に1日ゆっくり、精神的体力的にもいやしの一時として楽しんで来ます。



# 小清水腎友会

【設 立】平成15年5月25日

【所 在 地】斜里郡清里町  
金野 正夫 方

【電話番号】

【会 員 数】33名

オホーツク腎友会から独立し、小清水町長並びに福祉課の全面協力とご支援を受け、平成15年5月25日に小清水赤十字病院2階講堂に於いて患者15名と福祉課長の出席で設立総会を開き、会員35名でスタートしました。

初代会長は、佐伯英春氏で、会費は年間7,200円です。

手持ちゼロからのスタートでしたので、まずは、活動資金確保に重点を置き、設立総会の席上で福祉課長に助成金をお願いをし、同年12月腎友会補助金交付の申請書を小清水町へ提出し、同年12月小清水町より補助金交付決定に至りました。同年6月会独自で花火を仕入れて、販売、又、患者さんの自己管理の手助けとして「だしわりしょうゆ、他の販売(年間通し)」を実施し貴重な財源確保として軌道に乗りました。

国会請願署名募金活動、腎提供者拡大街頭キャンペーンなどの活動、道東地区学習交流会(平成16年より参加)などの対外活動、ふれあい広場(斜里・小清水)への参加、小清水町故郷祭りへの参加などの地域活動、観楓会、新年会など患者間の親睦交流、会員拡大に力を入れ、平成17年は一時、会員が40名程に増えましたが、現在は33名です。



平成17年1月 新年会(川湯)



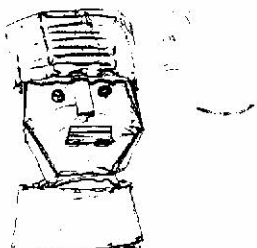
平成17年 12月忘年会



平成18年8月 腎提供者拡大街頭キャンペーン(故郷祭)

## 主 な 活 動

- 平成15・6 会員情報紙「事務局だより」年3〜4回発行。
- 平成15・6 花火販売活動及びだし割りしょうゆ、他の販売開始
- 平成15・8 腎提供者拡大街頭キャンペーン実施。
- 平成15・8 小清水町ふるさと祭りへ参加
- 平成15・8 小清水町ふれあい広場へ参加
- 平成15・11 国会請願署名募金活動実施
- 平成15・12 小清水町より、腎友会補助金交付(翌年より6月に交付)
- 平成16・1 親睦行事「新年会」
- 平成16・9 道東地区学修交流会へ参加
- 平成17・8 斜里町ふれあい広場へ参加



# 名寄市立病院腎友会

【設 立】平成16年10月22日  
 【所 在 地】名寄市西7条南7丁目  
 名寄市立病院透析室内  
 【電話番号】01654-3-2538  
 【会 員 数】46名（平成18年10月）



平成18年5月 花見

平成16年10月22日に名寄市日進のサンピラーホテルに於いて55人以上の参加者で設立総会を開き、48人の会員でスタートしました。初代会長は大久保光正氏で会費は月額500円です。まだまだ発足したばかりで現在は道腎協や全腎協と共に福祉制度改悪に反対する運動や国会請願署名運動等の活動と名寄腎友会独自の活動として新年会、春は花見などの会員相互の親睦交流を図り、また、会員の拡大に取り組んでおります。私たちが今の医療や福祉が後退しないように活動を続けてまいります。

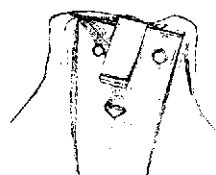
## 第3回名寄市立病院腎友会総会



平成18年10月 総会

|            |        |        |            |         |        |        |         |         |
|------------|--------|--------|------------|---------|--------|--------|---------|---------|
| 平成18・10    | 平成18・5 | 平成18・1 | 平成17・10    | 平成17・10 | 平成17・5 | 平成17・1 | 平成16・12 | 平成16・10 |
| 第3回名寄腎友会総会 | 花見     | 新年会    | 第2回名寄腎友会総会 | 道腎協総会出席 | 花見     | 新年会    | 忘年会     | 名寄腎友会発足 |

### 主な活動



# 千歳腎友会

【設 立】昭和63年10月1日

当初、昭和63年9月まで千歳市内に透析施設がなく、札幌、苫小牧などで患者個々に各自の施設の患者会に入っており、時々千歳市在住の患者で会合を持っていました。

当時、市に対し市立病院に透析施設を作ってくれる様に陳情していましたが、実現しませんでした。しかし、市議会議員の方の紹介により、白衛隊札幌地区病院にいらっしゃった井川欣一先生と出会い、千歳に透析施設として「井川医院」が昭和63年10月1日に開院の運びとなりました。現在は、(医) 社団欣生会「井川医院」「ありかど医院」「千歳市立病院」の3施設で透析がされています。

腎友会としてはサクランボ狩り、観楓会、花見、腎提供者拡大キャンペーン等々、患者相互の親睦に重点を置いてきました。平成9年からは、キンピール千歳工場において開催されていた「キリンフェスティバル」(平成16年からは「キンピール祭り」)で、市立札幌病院腎移植科の平野哲夫先生、臓器移植ネットワーク、北海道腎臓バンク、苫小牧腎友会、道腎協とともに、腎提供者拡大キャンペーンを行ってきました。

また、千歳腎友会の請願により、市から通院費として往復タクシー代の60%が支給されるようになりました。平成17年4月からは市の制度が変更され、透析患者を含む重度障害者に年間2万円分の福祉サービス利用券(市内のタクシー・路線バス・公衆浴場等で使用可)が支給されています。



腎提供者拡大キャンペーン



左側が江島氏

千歳腎友会設立当時から、千歳腎友会の活動にご尽力された江島寛さんは、平成18年8月24日にご逝去されました。また道腎協の幹事として、平成5年から18年までご活躍されました。ありがとうございます。

## 主な活動

|           |   |
|-----------|---|
| 平成元・7・13  | サクランボ狩り                                   |
| 平成元・10・8  | 腎提供者拡大街頭キャンペーン                            |
| 平成元・11・16 | 観楓会                                       |
| 平成2・11・24 | 観楓会                                       |
| 平成3・6・2   | 植樹祭                                       |
| 平成3・7・28  | サクランボ狩り                                   |
| 平成3・11・9  | 観楓会                                       |
| 平成4・12・5  | 忘年会                                       |
| 平成5・1・3   | 新年会                                       |
| 平成5・4・18  | 旅行会                                       |
| 平成5・5・22  | お花見                                       |
| 平成5・7・18  | サクランボ狩り                                   |
| 平成6・7・24  | サクランボ狩り                                   |
| 平成6・9・11  | 腎提供者拡大街頭キャンペーン                            |
| 平成6・11・5  | 観楓会                                       |
| 平成7・1・21  | 新年会                                       |
| 平成8・1・19  | 新年会                                       |
| 平成8・5・25  | お花見                                       |
| 平成8・7・21  | イチゴ狩り                                     |
| 平成9・17    | 腎提供者拡大街頭キャンペーン(キンピール千歳工場「キリンフェスティバル」において) |

※現在、千歳腎友会は休会しています。

# 医療講演の歴史



# 医療講演の歴史

昭和56(1981)年5月24日

旭川

第4回定期総会(旭川大会)講演

「腎不全を考える集い」

石田病院 院長 石田 初一 先生  
増田クリニック 院長 増田 雄 先生

昭和57(1982)年5月30日

札幌市教育文化会館

第5回定期総会特別記念講演

「腎移植について(過去・現在・未来)」

日鋼記念病院 院長 西村 昭男 先生

「死体腎移植の経験」

日鋼記念病院 副院長 安田 隆義 先生

「米国よりの移送腎(U.S腎)の移植経験」

米国・加州大 助教授 岩城 裕 先生



昭和60(1985)年5月26日

北海道クリスチャンセンター

第8回定期総会講演

「ここまで来た臓器移植」

札幌北楡病院 院長 川村 明夫 先生



昭和60(1985)年10月27日

ホテルユニオン

「腎疾患総合対策」シンポジウム

～「本道の腎臓移植をどう推進するか」～

発言者

渡井 幾男 先生 北海道透析医会会長、  
渡井医院院長、道腎バ  
ンク学術委員

平野 哲夫 先生 市立札幌病院、腎臓移  
植センター、腎臓バン  
ク広報委員、医師

佐々木 豊 氏 北海道議会議員、元議  
長（渡島管内選出、道  
議23年）（紙上参加）

厚谷 純吉 先生 北海道衛生部保健予防  
課長、医師

岩崎 薫 氏 北海道腎臓病患者連絡  
協議会会長、(財)北海道  
難病連代表理事、透析  
9年

佐藤 道美 氏 道腎協幹事、室蘭地方  
腎友会事務局長（昭和  
56年10月透析に入る。  
昭和58年9月移植。ド  
ナーは実兄）

中村 信夫 氏 総合司会、道腎協事務  
局長



昭和61(1986)年5月27日

ホテルユニオン

第9回定期総会講演

「腎不全医療—過去・現在・未来」

市立札幌病院主任医長 片岡 是充 先生





昭和62(1987)年11月10日

ホテルユニオン

第10回定期総会講演

「長期透析による合併症について」

河口内科クリニック

院長 河口 道夫 先生



昭和63(1988)年5月22日

道庁別館地下ホール

第11回(10周年)定期総会記念特別講演

「腎移植の過去・現在・未来」

東京女子医科大学教授 太田 和夫 先生



昭和63(1988)年10月30日

ホテルユニオン

役員研修会(医療講演)

「長期透析における骨の合併症

CAPDの現状と今後の展望」

札幌北クリニック 院長 今 忠正 先生



平成 1 (1989) 年 5 月 28 日

北農健保会館

第12回定期総会講演

「リンと高脂血症の食事療法について」

札幌透析栄養士研究会

会長 佐藤 妙子 先生



平成 2 (1990) 年 5 月 27 日

北農健保会館

第13回定期総会講演

「長期透析患者の合併症について」

腎友会滝川クリニック院長

菅原剛太郎 先生



平成 2 (1990) 年 10 月 28 日

北農健保会館

役員研修会 (文化講演会)

「日本人の物差し、外国人の物差し」

国学院女子短期大学 倉島 齊 先生



平成 3 (1991) 年 6 月 2 日

北農健保会館

第14回定期総会講演

「腎移植の現況と今後の展望」

市立札幌病院腎移植科 平野 哲夫 先生



平成 3 (1991) 年 11 月 10 日

北農健保会館

役員研修会

「社会福祉 8 法改正と

今後MSWに求められるもの」

北成病院MSW 大聖由利子 先生



平成 4 (1992) 年 7 月 19 日

ホテルユニオン

第15回定期総会講演

「CAPDの現況と今後の展望」

岩見沢市立総合病院

副院長 大平 整爾 先生



平成5(1993)年6月6日

ホテルユニオン

第16回定期総会15周年記念シンポジウム

「腎臓病を考える集い」

シンポジスト紹介

○糖尿病と腎臓病

戸沢 修平 先生 札幌社会保険総合病院

○腎登録啓発運動

月居 占彦 氏 札幌スノーライオンズクラブ会長

○ここまでの腎移植

平野 哲夫 先生 市立札幌病院腎移植センター

○腎移植体験者として

松浦 信博 氏 北海道移植者協議会会長

司 会

堀井 和彦 氏 道腎協事務局長



平成5(1993)年8月1日

ホテルユニオン

難病連全道集会

「二次性副甲状腺（上皮小体）機能亢進症」

札幌北楡病院 久木田和丘先生



平成 6 (1994) 年 6 月 5 日

室蘭市障害福祉総合センター

第17回定期総会室蘭大会講演  
「透析の合併症としての循環器障害」  
医療法人社団新日鉄室蘭総合病院  
透析科長 山口 康一 先生

透析の合併症としての循環器障害について  
師 新日鉄総合病院 透析科長 山口 康一 先生



平成 6 (1994) 年 7 月 30 日

難病連全道集会 (旭川) 分科会  
「透析と手根管症候群について」  
医療法人 患生会 吉田整形外科病院  
吉田 英次 先生



平成 7 (1995) 年 7 月 30 日

ホテルユニオン

難病連全道集会 (札幌) 分科会  
「HDF (血液透析濾過) について」  
市立札幌病院腎センター副院長  
城下 弘一 先生



平成 8 (1996) 年 5 月 26 日

函館花びしホテル

第19回定期総会函館大会講演

「透析医療の現況と緊急災害の対策について」

平田病院 院長 平田 輝夫 先生



平成 8 (1996) 年 8 月 4 日

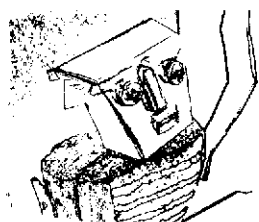
北見市民会館

難病連全道集会（札幌）分科会

「透析における糖尿病の治療と管理」

市立札幌病院腎臓内科

副院長 深沢佐和子 先生





平成8(1996)年9月15日

札幌市社会福祉総合センター

全腎協シンポジウム

「地域で安心して生きるために」

—透析患者の介護を考える—

在原 園子 氏 札幌ホームヘルパーの集  
い 優 (ほのか) の会代  
表

川島 亮平 氏 特別養護老人ホーム か  
りぷ・あつべつ副施設長

原 智子 氏 在宅介護支援センター  
コミュニティホーム白石  
所長

向谷地生良 氏 浦河赤十字病院 医療ソ  
ーシャルワーカー

(50音順)



平成9(1997)年5月25日

ホテルユニオン

第20回定期総会記念医療講演

「透析で長生きする秘訣」

北海道透析医会 会長

札幌北クリニック 院長 今 忠正 先生



平成10(1998)年5月25日

音更文化センター

第21回定期総会十勝大会講演

「動いて食べることの大切さ」

前北海道透析医会 会長

渡井医院 院長 渡井 幾男 先生



平成10(1998)年8月2日

登別市

北海道難病連全道集会（室蘭）分科会

「長期透析による合併症（四肢、腰等）と

リハビリテーションの応用」

日鋼記念病院リハビリテーションセンター

センター長 前田 守 先生



平成10(1998)年10月25日

北海道難病センター

役員研修会特別講演

「通院送迎ボランティア活動について」

(社)全腎協常務理事

全腎協事務局長 小林 孟史 氏



平成11(1999)年6月6日

ホテルユニオン

第22回定期総会講演

「透析患者の循環器合併症」

札幌医科大学

第2内科助手 滝沢 英毅 先生



平成11(1999)年8月1日

かでの2・7

北海道難病連全道集会（札幌）分科会

「透析患者の高脂血症と栄養のバランス」

透析食栄養士研究会 会長

札幌北クリニック栄養科 科長

佐藤 妙子 先生



平成11(1999)年10月24日

北海道難病センター

役員研修会

「介護保険元年

～介護保険制度とケアプランの作成」

札幌市東区クラーク病院在宅介護支援センター

所長 宮川 亮一 先生

(ソーシャルワーカー・介護支援専門員)



平成12(2000)年8月6日

北海道教育大学函館校

北海道難病連全道集会（函館）分科会  
「透析患者の食事について」  
五稜郭病院 管理栄養士 石津 順子 先生



平成13(2001)年6月10日

ホテルユニオン

第24回定期総会講演  
「脳死移植について」  
市立札幌病院 腎移植科  
部長 平野 哲夫 先生



平成13(2001)年8月5日

ホテルユニオン

北海道難病連全道集会（札幌）分科会  
「糖尿病と透析の自己管理について」  
光星泌尿器科医院 院長 上戸 文彦 先生



平成14(2002)年5月19日

ホテルユニオン

第25回定期総会記念講演

「透析医療の進歩と展望」

日本透析医学会 理事長

北海道透析療法学会 会長

大平 整爾 先生  
札幌北クリニック所属



平成14(2002)年8月4日

釧路市プラザさいわい

北海道難病連全道集会（釧路）分科会

「最近の透析技術」

釧路泌尿器科クリニック 臨床工学士

室長 大澤 貞利 先生



平成14(2002)年9月15日

旭川市大雪クリスタルホール

第21回腎不全対策を語るつどい

主催 (社)全国腎臓病協議会

生活習慣病と腎臓病—その予防と治療—

講演

「生活習慣病と腎障害」

平山 智也 先生 旭川医科大学第一内  
科助手

「障害者の予防と進展阻止

—生活習慣病との関連から—」

山地 泉 先生 旭川赤十字病院 腎  
臓内科部長

「生活習慣病の食生活管理」

佐々木智子 先生 旭川赤十字病院管理  
栄養士

司会

菊地健次郎 先生 旭川医科大学内科学  
第一講座教授



平成15(2003)年5月25日

苫小牧プリンスホテル

第26回定期総会苫小牧大会講演

「透析医療—基本とその活用について」

医療法人王子総合病院 循環器科

医長 高木 陽一 先生





平成15(2003)年8月3日

かでのる2・7

北海道難病連創立30周年全道集会（札幌）

分科会

「腎移植の現実」

岡本医院 医師

北海道移植者協議会 会長

松浦 信博 先生



平成16(2004)年5月30日

ホテルユニオン

第27回定期総会講演

「透析患者の心臓のはなし」

～よりよい生活を送るために～

医療法人社団北海道恵愛会 札幌南一条病院

院長 工藤 靖夫 先生



平成16(2004)年8月8日

小樽市民センター

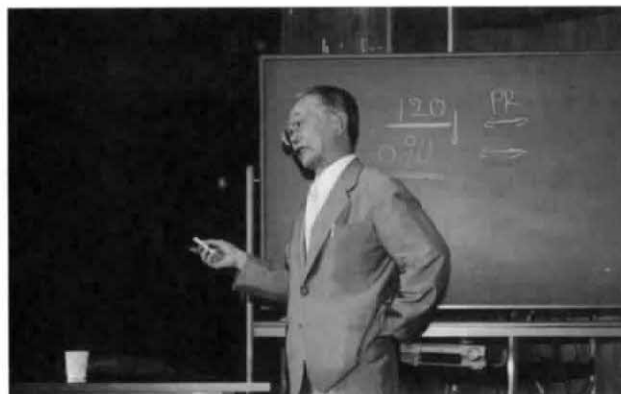
北海道難病連全道集会（札幌）分科会

「透析医療における社会的要因

—ある視点から—

小樽リハビリテーションクリニック

院長 河口 道夫 先生



平成17(2005)年5月29日

旭川市大雪クリスタルホール

第28回定期総会旭川大会講演

「腎臓移植のQ&A」

市立旭川病院泌尿器科

診療部長 金川 匡一 先生



平成17(2005)年8月7日

札幌市男女共同参画センター

北海道難病連全道集会（札幌）分科会

「透析患者の災害対策」

～自分の身は自分で守る～

札幌北クリニック 院長 大平 整爾 先生



平成18(2006)年5月28日

ホテルユニオン

第29回定期総会講演

「副甲状腺機能亢進症について」

札幌北クリニック 院長 大平 整爾 先生



平成18(2006)年8月6日

とかちプラザ

北海道難病連全道集会（帯広）分科会

「透析による合併症」

帯広東内科循環器科クリニック

院長 西谷 隆宏 先生



平成19(2007)年5月27日

ホテルユニオン

第30回定期総会記念講演

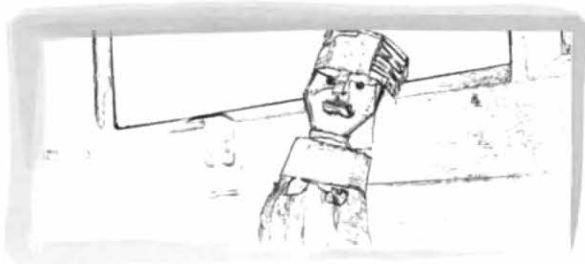
「透析で長生きする秘訣」

～自己管理について～

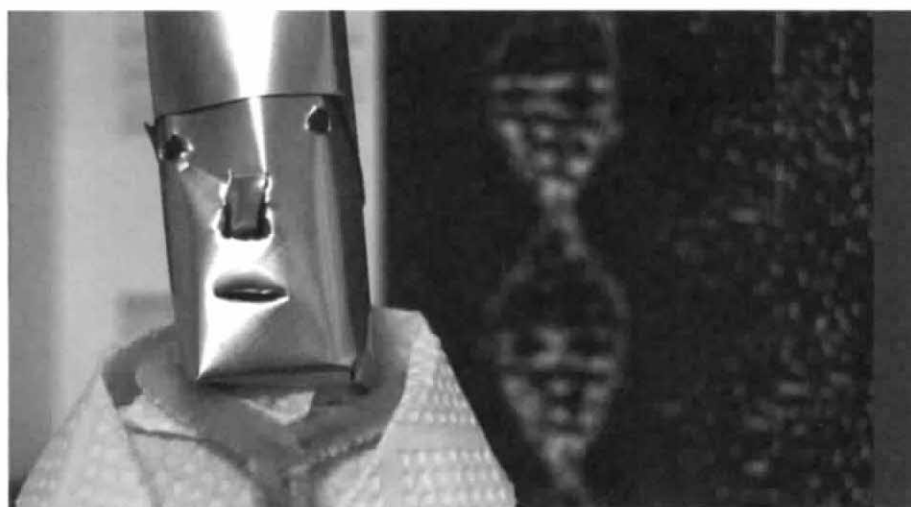
日本透析医会 会長

衆済会 増子クリニック 院長

山崎 親雄 先生

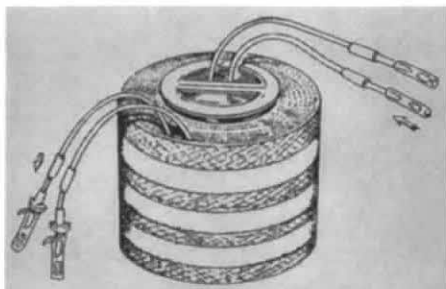


# 透析器の歴史



# 人工腎臓の歴史

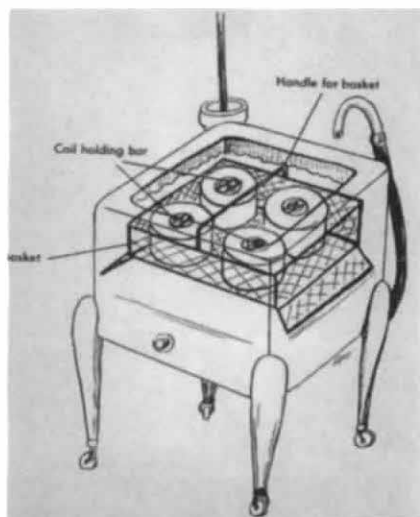
## コイル型



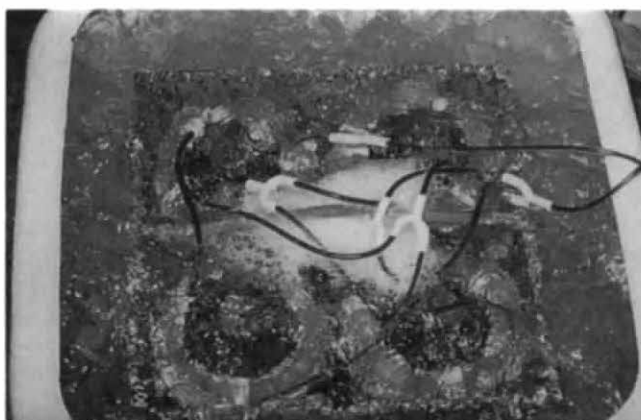
▲コイル型人工腎臓（S40年頃～53年頃使用）



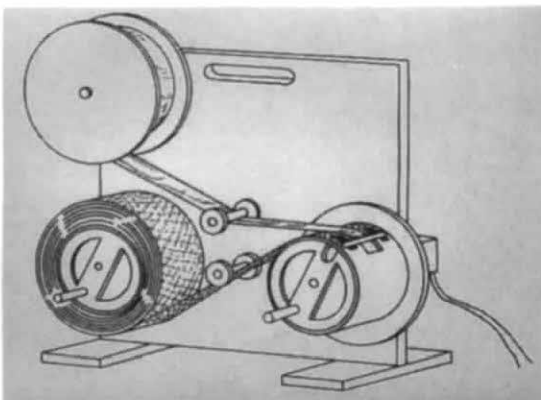
▲コイル型で透析中



▲洗濯機でコイルを使用する図解



▲洗濯機で使用中

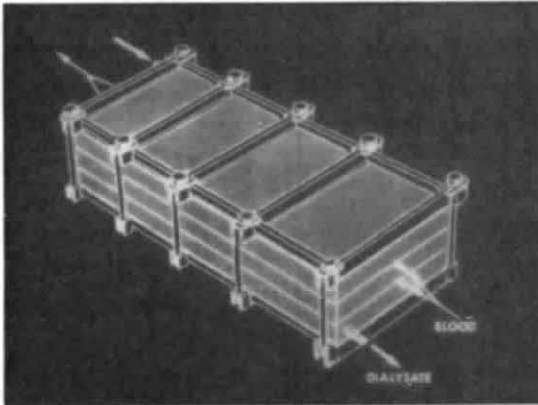


▲コイル型人工腎臓を家庭で造る機械（今先生の開発によるもの）



▲コイル型での透析状態

# キール型



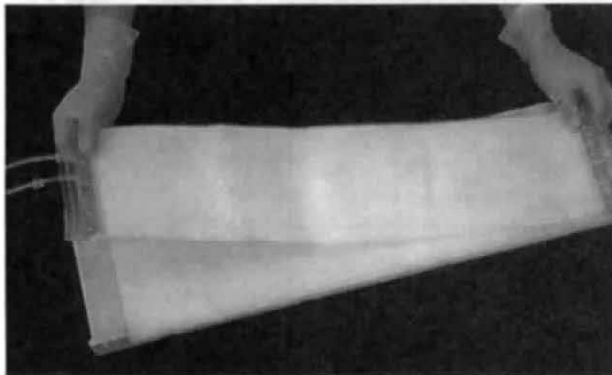
▲キール型人工腎臓（S44年頃～47年頃使用）



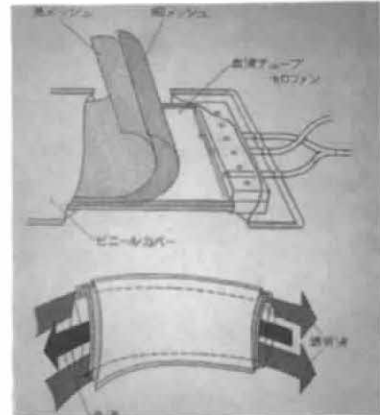
▲キール型での透析状態



▼エンベロープキルニ・封筒型人工腎臓



▼キール型のデイスポラザブルのダイアラライザー



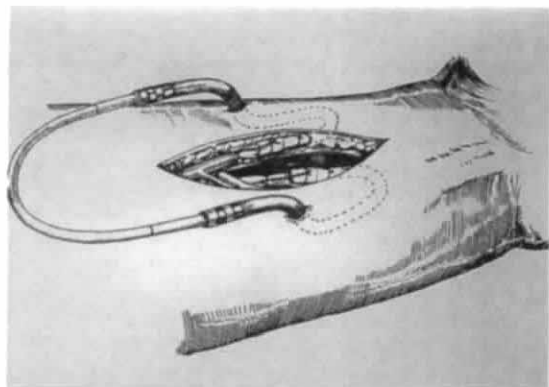
▲今先生と医療機器メーカー共同開発のバック型人工腎臓（S47年）



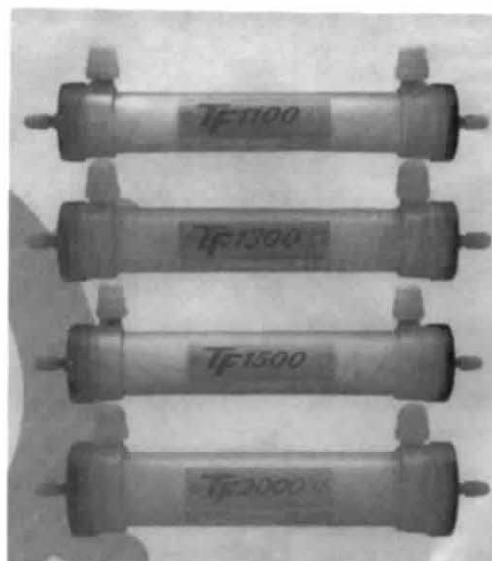
▼写真上を5層に重ねて組み立てる所



▼透析液を流す所



▲外シャントの図解



▲ホロファイバー型ダイアライザー



▲腹膜透析のマッシュルームカテーテル

ホロファイバー型

※資料

道腎協第20回総会記念医療講演「透析で長生きする秘訣」

(講師 札幌北クリニック 今忠正先生)の中から掲載させて頂きました。



## 人工透析とは .....

腎臓は腰のやや上、背中側に左右1つずつあり、大量の血流が流れ込んで、身体の老廃物や余分な水分を尿として排出する臓器です。また、体液の電解質（ナトリウムやカリウムなど）を調整し、造血ホルモン・血圧調整ホルモン・Ca体内吸収のためのホルモンを作っている大切な臓器です。

腎臓病は全身的な免疫反応や細菌感染、代謝異常、高血圧などにより、腎臓の組織が冒される病気で、慢性糸球体腎炎や糖尿病性腎症、腎硬化症などたくさんの疾患があります。

腎臓病が悪化して腎臓の働きが弱くなると、腎不全といわれる状態になり、全身に症状が現れます。このような状態を尿毒症といい尿毒症症状が強くなると、透析をしなければ生きていくことが出来なくなります。

血液透析は、人工腎臓という装置に血液を送り、主に、血液中の老廃物・余分な水分を取り除き、血液の電解質の調整をする療法です。人工腎臓は腎臓の働きの一部を代行する対症療法に過ぎませんので、不十分なところは食事のコントロールや薬による治療で補う必要があります。

人工腎臓は、透析液（ナトリウム、カリウム、カルシウムなどの電解質が溶け込んでいます。）を製造し供給する透析液供給装置と透析装置（ダイアライザー、患者用モニター〔監視装置〕）で構成されています。

透析液供給装置は普通、水道水から透析液用純水を作るための水処理装置とともに、透析室近くの機械室に置かれ、各患者のベッドの脇に置かれている透析装置と透析液用の配管で連結されています。

血液透析を行うには、比較的大量の血液を人工腎臓に送る必要があります。そのため、通常前腕の動脈と静脈を皮下で結合し内シャントというものを作り、静脈に流れる血液量を増やします。内シャントを作ることは透析をするためには最も重要な準備です。

体内に蓄積された毒素がどれだけ取れるかということ「透析量」と一般にいいますが、この透析量が多いことが「よい透析」といわれます。

人工透析は通常週3回4時間で週12時間行っていますが、毎日24時間働いている人間本来の腎臓には到底追いつかないものなのです。

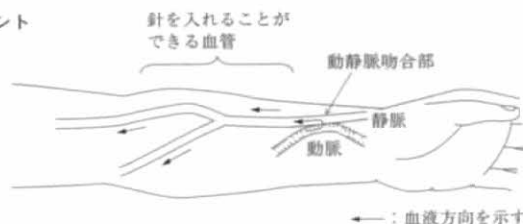
血液透析の模式図



ダイアライザーの構造



内シャント



私もひとこと



私もひとこと



河野 正子  
(釧路地方腎友会)  
(透析歴15年)

我が身は病に侵されていても心まで病にならない、との思いで15年！。自分の出来ることは

何んでもやって行こうと決めました。そのために、よく食べ、よくしゃべり、よく笑い、感謝の心を忘れず、自分らしく輝き生きぬいてまいります。



原田 淳也  
(浦河地区腎友会)  
(透析歴9年・78歳)

透析は痛いですがね。札幌の専門の先生がそう言うのですから無痛は無理のようですね。

透析を受ける人は「一生懸命我慢するから痛くなくやってね」、穿刺する人は「なるべく痛くなくやるから許してね」、の心でやれば痛みは少し薄くなると思います。それから、器械が発達し、仲間と仲良くしたいと願っています。



前田 勸児  
(深川腎友会)

透析を始めて8年目です。毎年行う腎友会の1月の新年会、7月のサクランボ狩りの行事に

参加し、仲間・病院のスタッフと交流を深めながら会うことを楽しみとしています。透析で生き抜く上でのことを多くの仲間から学ぶことができました。これからも多くの仲間の皆さんと頑張りたいと思います。



佐藤 清  
(岩見沢腎友会)

“新緑の季節” 5月になると、目に入る景色は緑一色となってきました。我が家では、

3月にサルビア、ペコニア、ペチュニアなどの草花のたねを撒き5月に大きく育った苗を庭に移植します。夏から秋にかけ花咲くことを楽しみにし、また家庭菜園でもスイカ、トマト、ゴーヤなどを植え付けし、秋に収穫出来ることを今から楽しみにしています。



森 静恵  
(腎友会滝川クリニック透析者の会)

透析に入ってからあつという間に4年、看護師さんの熱い気持ちにささえられた今日、感謝でいっ

ばいです。週3回家を出るのがつらい、笑顔が消えたある日、何十年もしている人が多くいるとの事、私も頑張られるかなーと、今は仕事と思っに行きます。スタッフの顔を見るとほっとする今日此頃です。



竹山 克朗  
(小樽後志地方腎友会)  
(70歳)

私が透析を始めた31年前、生存率が2年目で80%、5年で20%という厳しさでした。でも先生

生の言う事を良く守っている人は元気に暮らしているようです。どうしたら長生きできるか、今後は連絡網や意見交換を密にし、その為にも腎友会は患者全員加入を原則とした会にしたいものです。ね。



**上井 光子**  
(富良野腎友会)

私はCAPD  
(2年半)から  
始まって今18年  
目です。4、5  
年は、血管のト  
ラブルで、先生

やナースの人達に心配して頂きました。でも  
病気ですから気にしてもしかたなく、毎日を  
楽しく、おいしく食事を食べ、自分の足でど  
こにでも出る事にしました。患者同士で話し  
をするように、自分だけと悩まないように、  
何んでも話し合っている一日であるように心  
がけています。

一つでも良い事が有りますようにと。



**森川 潤一**  
(三笠腎友会)  
(透析歴1年6カ月)

今まで経験し  
たことのない人  
工透析を受ける  
ことになったと  
きには、大変不  
安でした。しか

し、透析センターでの担当の医師や看護師さ  
んとの温かい触れあいや、透析歴の長い仲間  
のアドバイスをお聞きしたり「ぜんじんきよ  
う」の会報での知識を得て、快適な透析生活  
を送れるよう頑張っています。また、透析日  
以外の日に長く続けているマスコミの仕事が  
出来ることに喜びを感じています。



**合田 晃**  
(室蘭地方腎友会)

透析導入時、  
厳しい食事制  
限、透析中・後  
の不均衡症候  
群、頭痛、吐き  
気など大変苦し

い時代の透析でした。その後、メーカーのた  
ゆまぬ努力により、ダイアライザーの開発、  
透析療法改善などで、なんとか良好な透析  
ライフに近づけるようになりました。  
現在、透析生活24年目、家族の支えにより、  
いま、生きていることに感謝したいと思いま  
す。



**福田 茂哉**  
(稚内地方腎友会)

透析に入って  
6月で丸々6年  
が過ぎようとし  
ています。  
透析に入った  
頃は、何故俺が

こんな病気になったんだろうと、落ち込み、  
家にももり気味になりました。その後、家族  
の励ましがあり腎友会にも入会し、次第に外  
にも出る様になりました。今は週3回の透析  
をしておりませんが、趣味の釣りや、町内会活  
動に頑張っています。



**片桐 俊子**  
(札幌腎臓病患者友の会)

先日、以前同  
僚だったS先生  
が遊びに来てく  
れた。彼女は今  
年3月、中学校  
の家庭科教師を

退職した。彼女が言うには、大根一本あれば、  
葉とひき肉と生姜を炒め味噌でからめ、大根  
井ができ、皮は金平そして大根の煮物と三品  
できる。少しばかりのお金でも手間さえかけ  
れば、食卓は豊かになり会話も弾むことを知  
ってもらいたかったと熱く語った。

初めそっぽを向いていたつっぱり集団も、  
そのおいしさを味わってからは、目付きが変  
わったそうだ。生きた食育とは正にこのこ  
と、心をも育てるものと大いに感激した。  
私も透析患者にとって、カリウム・リン  
を気にしながら食べることは、喜びであると  
共に闘いでもある。

データを考慮し、よりおいしく食べたいの  
が真情。人生は一度つきり、一食一食を大切  
にすれば、自ずと心も満ちてくるはず。



**大野 武昭**  
(札幌腎臓病患者友の会)

”元気の出る透  
析室”  
現職中、健康  
の見本の様に自  
信を持ち各種会  
合や、趣味の詩

吟、弓道等で生き甲斐を感じていた自分が、よもや透析が現実になろうとは思ってもよらないものでした。

シャント手術を受け透析が現実になった時、障害者手帳をもらい腎友会の会員として「生きる仲間」「どうじん」「ぜんじんきょう」の機関紙を手にして透析歴20年30年以上の方が各団体の役員として活躍している姿に敬服していました。透析1、2年目は、透析中、足がイライラしてスタッフの皆さんにお世話になったものです。先生方やスタッフの個々に合った治療のお陰で今年で6年目、当初の体調の悪さは今ではすっかり治まり、退職後委嘱された更生保護の仕事も15年、詩吟歴20年、忙しい中にも生き甲斐を感じている。その元気の源は、透析室に入ってから「おはようございます。」の声に明るい挨拶が響く透析室のせいと思う。



原 晶子  
(夕張腎臓病友の会)

は、快適な透析時間を過ごすために必要なのは、自分との心の葛藤だと思えます。一日一日を大切に生きる喜びをわかちあいたいと思っています。

透析を始めたときから体重増加、リンの数値とのたたかいでした。5年が過ぎて思うこと



石川 義雄  
(土別腎友会)  
(透析歴3年)

私も不安の中で。だんだん自分が分からなくなり、本当にどうなるかと大変な思いをしました。

今は、先生・スタッフさんの指導のもとに自己管理を大切にして良い状態で透析を受けています。

一日でも長く快適な透析が出来ることを願っています。

私は、約3年前から血液透析を受けておりまして。一回目は、初めての経験で身



土田 祐子  
(腎友会岩見沢クリニック患者会)  
(透析歴6年)

野球観戦、庭の土起こし、道の駅スタンプラリー、温泉…今年のG・Wの過ごし方です。

初対面の方には「若いのに透析だなんて」とびつくりされたりしますが、透析をしながらでもやれることって結構あるんじゃないかなと思っています。今後ハメをはずさぬ程度に楽しみたいと思います。



佐藤 勢津子  
(旭川地方腎友会)

「あと、何年？」と思うこともあるが、健康と寿命は一致しないそうだから、与えられたこの人生、のんびり、ゆっくり、大丈夫さと小声で言いながら、もう少し楽しみたいと思っている。

透析を始めて22年が過ぎた。透析はすっかり日常のものとなり当たり前のもとなつてい



梅原 孝之  
(旭川地方腎友会)

このたび道腎協が設立して30周年とのことで、その内の10年余りを透析者として共に歩

んできました。ここ数年は地域患者会活動に加え、道腎協青年部としての活動にも参加しております。今後もより活発な各活動を通して、一人の透析者としてアグレッシブな生活を送りたいと考えております。



**小笠原 和枝**  
(十勝地方腎友会)

平成5年1月  
腹膜透析を導入  
し、平成14年1  
月血液透析に移  
行して今年で15  
年目になりました

す。まさか自分がこの様な大病を患うとは思  
いもしませんでした。しかし病気をした事で  
得たものは多く、腎友会の活動を通して「人」  
として随分と成長させて頂いた様に思いま  
す。今後も明るく、楽しくをモットーに！



**松岡 スイ子**  
(江別腎臓病患者会)

病気になる、  
それも身体障害  
者一級の手帳が  
渡されました。  
こんなものいら  
ないから、健康

な体がほしいと泣いた日、あれから13年にな  
ります。それから夫が倒れて私は、お願いだ  
から、私よりも先に天国に行かないでと、又  
泣きました。長い人生に別れ話もありました  
が、別れずに本当によかった。透析日は色々  
と大変ですが、不自由だとは思いません。



**筒井 紀昭**  
(道南腎友会)  
(透析歴9年)

透析は、水分  
・塩分の食事管  
理が必要です。  
もちろん自己管  
理が大きな要因  
です。

当初の頃は、妻も食事ノイローゼになり、悩  
みました。栄養士さんから、再三にわたり食  
事管理の栄養指導を受けました。

妻は、毎食ごと食品交換表を片手にし、夕  
ンパク○○g・カリウム○○g・リン○○g  
・食塩○○gと計算し、私ひとりの食事のた  
めに作りますが、なかなか一人前の料理は出  
来なく2割はオーバーしています。妻の献身  
的な行動に感謝し、「ありがとう。」と、声に  
して毎食を頂いております。

透析も9年で血液検査値も標準値で心胸比  
49%です。病院中で模範患者といわれるよう  
努力したい。これも妻の協力があれば、この  
と、自分一人では出来ません。

また、「生きた健康器具」と、妻と話して  
いる小柴犬と雑種小形犬2匹の朝夕の散歩に  
よる1時間の運動をしています。

この状態の体調を維持しながら、地域の患  
者会に貢献し、人のためにお役にたつように  
していこうと思えます。



**寺本 光司**  
(苫小牧腎友会)

9年前透析を  
受け始めたころ  
スタッフの方よ  
り患者会のある  
事を説明されま  
した。色々は無

知と不安の中で気持ちが明るくなりました。  
諸先輩の方々のご苦労と努力があったおかげ  
で、「今」安心して透析を受ける事が出来て  
います。本当に有り難いことです。これから  
も安心して透析生活を送って行きたいもので  
す。



**乾 道子**  
(十勝地方腎友会)

今年透析25年  
目、娘が小学校  
5年生でした。  
でも今は3歳の  
孫の祖母にもな  
れ、主人も定年

退職を迎え、それでもまだまだ元気で長生き  
しようと思っています。透析歴の若い皆さん  
は、医療も増々進歩し希望も持てます。せつ  
かく生かされた生命、精神的に負けないで楽  
しみを見つけ、がんばりましょう。





**天沼 忠**  
(伊達地方腎友会)  
(透析歴31年3カ月)

「透析室の格差」  
病院は誰の為にあるのか。患者の為、自分の為、仲間の為

にあります。私は、病院と色々と、話し合いをしてきました。患者は、いつもいかに平常心に近い状態で、透析を受けることができるかが大事です。各病院の幹事さん、何も言えないで我慢をしている人もいます。助けてあげてください。



**川崎 純子**  
(名寄市立病院腎友会)

16年目の透析中です。  
透析は自分との戦いです。  
自分の身を守るのには自分自身

です。  
気持で負けては駄目。  
透析で生き抜く上でのことを多くの仲間から学ぶことができました。  
私は前向きに戦い続けて行きます。



**石田 恵美子**  
(留萌地方水無人腎友会)

「透析10年をふりかえり」  
透析生活もこの秋で10年になります。  
とても辛い日

もあります。血圧が下がり足もつり・・・でも仲間と会って話し看護師さん等に励まされ心が安らぎます。何か元気をもらって帰ってきます。  
本日に透析は自分自身との戦いの日々です。でも毎日元気ががんばりたいと思います。



**浅見 恭行**  
(北見地方腎友会)

道腎協30周年の節目の年に運営委員を任せられ、身の引き締まる思いです。  
私が透析を始め

て8年目、16歳になった息子をバイクにのせてのツーリングやキャンプに釣りなどアウトドアを楽しみむ今日この頃、後何年つきあってくれるかな。孫と遊べる日まで頑張るぞ！。まずは水分、食事管理の徹底を！



**前田 慶子**  
(オホーツク腎友会)

私は思う。  
透析は、人が思う程大変では無いと云う事。  
日々の自己管理等々、人知れ

ず苦労は有るけれど、自分の努力次第で、幾らでもコントロールでき、頑張り甲斐の有る病だからです。  
多くの人々の努力の上に、今の私が有り、生き生かされて居る事に感謝し、これからも頑張っ行ってこうと思っています。



**上條 富明**  
(釧路地方腎友会)  
(透析歴10年・65歳)

透析生活10年「なんで自分だけが」なんて悩むことも少なくなりました。元来読書が好きでこ

のころは藤沢周平に凝っている。文庫本60冊、ひと通り読んだものが本棚に並んでいるが、今はその中から読みたいものを再読している。一回目とは又ちがった感動や共鳴を憶えるさわやかな文体が好きだ。



# 資料編



# 年度別役員名簿

## 昭和52・53年度

|          |         |         |          |           |          |          |          |          |          |          |         |          |           |          |         |           |          |          |         |           |           |          |
|----------|---------|---------|----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|-----------|----------|---------|-----------|----------|----------|---------|-----------|-----------|----------|
| 加賀健一(鉏路) | 早坂要(鉏路) | 谷沢忠(北見) | 石川后郎(北見) | 清水新太郎(留萌) | 吉田一郎(留萌) | 土江太朗(室蘭) | 高木昭蔵(室蘭) | 釣巻卓郎(道南) | 田中竜一(道南) | 武田誠剛(札幌) | 藤田勉(札幌) | 留田英生(札幌) | 増田康彦(苫小牧) | 菊地憲二(室蘭) | 赤松明(札幌) | 宮嶋真理子(札幌) | 鈴木啓三(札幌) | 古賀貞二(札幌) | 阿部隆(札幌) | 廣岡達夫(苫小牧) | 五百島制也(室蘭) | 細川哲夫(札幌) |
|----------|---------|---------|----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|-----------|----------|---------|-----------|----------|----------|---------|-----------|-----------|----------|

### 會計監査

|          |         |           |          |          |          |
|----------|---------|-----------|----------|----------|----------|
| 梅津政一(帯広) | 八代洗(帯広) | 玉根靖子(苫小牧) | 西本昇(苫小牧) | 西嶋重夫(札幌) | 大西政弘(札幌) |
|----------|---------|-----------|----------|----------|----------|

## 昭和53年度

### 【全腎協派遣役員】

|            |
|------------|
| 幹事 阿部隆(札幌) |
|------------|

## 昭和54年度

|           |          |         |           |          |         |          |          |         |               |             |                |                |               |               |            |
|-----------|----------|---------|-----------|----------|---------|----------|----------|---------|---------------|-------------|----------------|----------------|---------------|---------------|------------|
| 渡辺俊雄(苫小牧) | 菊地憲二(室蘭) | 岩崎薫(札幌) | 宮嶋真理子(札幌) | 鈴木啓三(札幌) | 阿部隆(札幌) | 福士博明(札幌) | 留目英生(札幌) | 堀口功(室蘭) | 副会長 廣岡達夫(苫小牧) | 會長 細川哲男(札幌) | 事務局次長 留目英生(札幌) | 事務局次長 福士博明(札幌) | 事務局長 留目英生(札幌) | 事務局長 留目英生(札幌) | 幹事 阿部隆(札幌) |
|-----------|----------|---------|-----------|----------|---------|----------|----------|---------|---------------|-------------|----------------|----------------|---------------|---------------|------------|

### 幹事

|         |          |          |          |          |          |          |          |         |         |         |          |          |             |           |          |          |              |
|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|---------|---------|----------|----------|-------------|-----------|----------|----------|--------------|
| 阿部栄(札幌) | 武田誠剛(札幌) | 釣巻卓郎(函館) | 中野龍一(函館) | 土江太朗(室蘭) | 石井俊光(室蘭) | 平田好作(留萌) | 伊藤正衛(留萌) | 竹田昂(北見) | 上田弘(鉏路) | 早坂要(鉏路) | 梅津政一(十勝) | 重堂忠美(十勝) | 五十嵐与三郎(苫小牧) | 池田錠治(苫小牧) | 大西政弘(札幌) | 村本徳雄(札幌) | 幹事 廣岡達夫(苫小牧) |
|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|---------|---------|----------|----------|-------------|-----------|----------|----------|--------------|

### 會計監査

## 昭和55年度

|            |               |
|------------|---------------|
| 會長 岩崎薫(札幌) | 副會長 廣岡達夫(苫小牧) |
|------------|---------------|

事務局長  
事務局長次長  
運営委員

幹 会

事 計

|     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 早坂  | 上田  | 谷沢  | 井上  | 川添  | 松山  | 早坂  | 柏木  | 南部  | 小野寺 | 吉田  | 佐竹  | 堀口  | 釣巻  | 中野  | 阿部  | 武田  | 留目  | 松山  | 渡辺  | 堀口  | 津田  | 宮本  | 坂上  | 宮嶋  | 鈴木  | 阿部  | 福士  | 留目  |
| 要   | 弘   | 忠   | 茂   | 一   | 義   | 二   | 新   | 義   | 三千男 | 敬   | 信   | 功   | 卓   | 龍   | 栄   | 剛   | 恭   | 義   | 雄   | 功   | 嘉   | 好   | 弘   | 真   | 啓   | 隆   | 明   | 英   |
| (鉏) | (鉏) | (北) | (北) | (旭) | (旭) | (稚) | (稚) | (留) | (留) | (苦) | (苦) | (室) | (函) | (函) | (札) | (札) | (札) | (旭) | (苦) | (室) | (小) | (札) | (札) | (札) | (札) | (札) | (札) | (札) |
| 路)  | 路)  | 見)  | 見)  | 川)  | 川)  | 内)  | 内)  | 萌)  | 萌)  | 牧)  | 牧)  | 蘭)  | 館)  | 館)  | 幌)  | 幌)  | 幌)  | 川)  | 牧)  | 蘭)  | 樽)  | 幌)  | 幌)  | 幌)  | 幌)  | 幌)  | 幌)  | 幌)  |

昭和56年度

幹 事 上 田 弘 (鉏 路)

會計監査 岡崎 輝幸 (帯 広)

村本 徳雄 (札 幌)

副会長 岩崎 薫 (札 幌)

事務局長 阿部 隆 (札 幌)

事務局長次長 福士 博明 (札 幌)

運営役員 留目 恭子 (札 幌)

宮嶋 真理子 (札 幌)

宮本 好和 (札 幌)

鈴木 啓三 (札 幌)

坂上 敏弘 (札 幌)

松山 近義 (旭 川)

津田 嘉郎 (小 樽)

鈴木 修一 (苦 小 牧)

上田 弘 (鉏 路)

昭和57年度

副会長 岩崎 薫 (札 幌)

上田 弘 (鉏 路)

井上 茂 (北 見)

鈴木 啓三 (札 幌)

松山 近義 (旭 川)

石原 三夫 (函 館)

堀口 功 (室 蘭)

阿部 隆 (札 幌)

宮本 好和 (札 幌)

中村 信夫 (札 幌)

鈴木 修一 (苦 小 牧)

村本 徳雄 (札 幌)

福田 一成 (函 館)

生沢 公太郎 (函 館)

谷沢 忠 (北 見)

金野 正夫 (北 見)

松田 悟 (室 蘭)

小玉 昇 (室 蘭)

早坂 要 (鉏 路)

水沢 秀一 (鉏 路)

新沼 和好 (苦 小 牧)

玉根 靖子 (苦 小 牧)

小椋 哲夫 (帯 広)

加藤 健 (帯 広)

薄木 理 (留 萌)

寺嶋 定一 (留 萌)

事務局長 阿部 隆 (札 幌)

次長兼會計 宮本 好和 (札 幌)

委員 中村 信夫 (札 幌)

幹 事 鈴木 修一 (苦 小 牧)

|     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 寺嶋  | 薄木  | 加藤  | 小椋  | 玉根  | 新沼  | 水沢  | 早坂  | 小玉  | 松田  | 金野  | 谷沢  | 生沢  | 福田  | 村本  | 鈴木  | 中村  | 宮本  | 阿部  | 堀口  | 石原  | 松山  | 鈴木  | 井上  | 上田  | 廣岡  | 岩崎  |
| 定一  | 理   | 健   | 哲夫  | 靖子  | 和好  | 秀一  | 要   | 昇   | 悟   | 正夫  | 忠   | 公太郎 | 一成  | 徳雄  | 修一  | 信夫  | 好和  | 隆   | 功   | 三夫  | 近義  | 啓三  | 茂   | 弘   | 夫   | 薫   |
| (留) | (留) | (帶) | (帶) | (苦) | (苦) | (鉏) | (鉏) | (室) | (室) | (北) | (北) | (函) | (函) | (札) | (苦) | (札) | (札) | (札) | (室) | (函) | (旭) | (札) | (北) | (鉏) | (苦) | (札) |
| 萌)  | 萌)  | 広)  | 広)  | 牧)  | 牧)  | 路)  | 路)  | 蘭)  | 蘭)  | 見)  | 見)  | 館)  | 館)  | 幌)  | 幌)  | 幌)  | 幌)  | 幌)  | 蘭)  | 館)  | 川)  | 幌)  | 見)  | 路)  | 幌)  | 幌)  |

昭和58年

|         |         |         |          |          |          |          |          |          |         |         |           |         |         |
|---------|---------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|---------|-----------|---------|---------|
| 佐藤昇(室蘭) | 飯田興(小樽) | 村本徳(札幌) | 中村信夫(札幌) | 宮本好和(札幌) | 阿部隆夫(函館) | 石原三夫(函館) | 松山近義(旭川) | 鈴木啓三(札幌) | 井上茂(札幌) | 上田弘(札幌) | 廣岡達夫(苫小牧) | 岩崎薫(札幌) | 会长      |
| 副会長     | 岩崎薫(札幌) | 幹事      | 堀口功(室蘭)  | 副会長      | 岩崎薫(札幌)  | 幹事       | 石原三夫(函館) | 副会長      | 岩崎薫(札幌) | 幹事      | 石原三夫(函館)  | 副会長     | 岩崎薫(札幌) |

|          |          |           |          |          |         |          |          |          |          |
|----------|----------|-----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|
| 津田嘉郎(小樽) | 福士博明(札幌) | 福原真理子(札幌) | 庄司勝利(札幌) | 大西政弘(札幌) | 柳本一(旭川) | 川添健一(旭川) | 乙竹隆七(稚内) | 渡辺自立(小樽) | 飯田興治(小樽) |
| 幹事       | 副会長      | 會計監査      | 幹事       | 幹事       | 幹事      | 幹事       | 幹事       | 幹事       | 幹事       |

昭和59年度

|          |          |          |         |           |         |     |
|----------|----------|----------|---------|-----------|---------|-----|
| 石原三夫(函館) | 松山近義(旭川) | 鈴木啓三(札幌) | 上田弘(札幌) | 廣岡達夫(苫小牧) | 岩崎薫(札幌) | 会长  |
| 副会長      | 幹事       | 副会長      | 幹事      | 副会長       | 幹事      | 副会長 |

會計監査

|          |          |           |          |          |           |          |           |         |          |          |          |          |          |          |           |          |
|----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|----------|-----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|----------|
| 津田嘉郎(小樽) | 福士博明(札幌) | 福原真理子(札幌) | 大西政弘(札幌) | 堀井和彦(札幌) | 新倉義太郎(帯広) | 川添健一(旭川) | 新沼和好(苫小牧) | 谷沢忠(北見) | 乙竹隆七(稚内) | 渡辺自立(小樽) | 水沢秀一(釧路) | 寺嶋定一(留萌) | 佐藤利國(室蘭) | 福田一成(函館) | 船木卯之吉(札幌) | 庄司勝利(札幌) |
| 幹事       | 幹事       | 幹事        | 幹事       | 幹事       | 幹事        | 幹事       | 幹事        | 幹事      | 幹事       | 幹事       | 幹事       | 幹事       | 幹事       | 幹事       | 幹事        | 幹事       |

【編集委員会】

|          |           |         |          |          |          |         |          |          |           |          |           |          |          |          |           |          |           |          |          |         |          |          |          |          |          |          |    |
|----------|-----------|---------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----|
| 中村信夫(札幌) | 福原真理子(札幌) | 高道章(札幌) | 村本徳雄(札幌) | 鈴木啓三(札幌) | 川添健一(旭川) | 辻正廣(札幌) | 川窪健次(札幌) | 水沢秀一(札幌) | 新倉義太郎(帯広) | 佐藤利國(室蘭) | 元村竹平(苫小牧) | 福田一成(函館) | 乙竹隆七(稚内) | 寺嶋定一(留萌) | 佐藤あつ子(旭川) | 渡辺自立(小樽) | 福原真理子(札幌) | 大西政弘(札幌) | 堀井和彦(札幌) | 佐藤昇(室蘭) | 庄司勝利(札幌) | 飯田興治(小樽) | 村本徳雄(札幌) | 宮本好和(札幌) | 中村信夫(札幌) | 津田嘉郎(小樽) |    |
| 委員       | 委員        | 委員      | 委員       | 委員       | 委員       | 委員      | 委員       | 委員       | 委員        | 委員       | 委員        | 委員       | 委員       | 委員       | 委員        | 委員       | 委員        | 委員       | 委員       | 委員      | 委員       | 委員       | 委員       | 委員       | 委員       | 委員       | 委員 |

|          |          |          |          |          |          |         |          |          |           |          |           |          |          |          |           |          |           |          |          |          |         |          |          |          |         |           |          |    |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|---------|-----------|----------|----|
| 津田嘉郎(小樽) | 中村信夫(札幌) | 宮本好和(札幌) | 村本徳雄(札幌) | 飯田興治(小樽) | 庄司勝利(札幌) | 佐藤昇(室蘭) | 堀井和彦(札幌) | 大西政弘(札幌) | 福原真理子(札幌) | 渡辺自立(小樽) | 佐藤あつ子(旭川) | 寺嶋定一(留萌) | 乙竹隆七(稚内) | 福田一成(函館) | 元村竹平(苫小牧) | 佐藤利國(室蘭) | 新倉義太郎(帯広) | 水沢秀一(札幌) | 川窪健次(札幌) | 川添健一(旭川) | 辻正廣(札幌) | 川添健一(旭川) | 鈴木啓三(札幌) | 村本徳雄(札幌) | 高道章(札幌) | 福原真理子(札幌) | 中村信夫(札幌) |    |
| 幹事       | 幹事       | 幹事       | 幹事       | 幹事       | 幹事       | 幹事      | 幹事       | 幹事       | 幹事        | 幹事       | 幹事        | 幹事       | 幹事       | 幹事       | 幹事        | 幹事       | 幹事        | 幹事       | 幹事       | 幹事       | 幹事      | 幹事       | 幹事       | 幹事       | 幹事      | 幹事        | 幹事       | 幹事 |

【全腎協派遣役員】

副会長 岩崎 薫 (札幌)  
幹事 堀井 和彦 (札幌)

【北海道難病連役員】

理事 岩崎 薫 (札幌)  
評議員 鈴木 啓三 (札幌)  
中村 信夫 (札幌)  
庄司 勝利 (札幌)  
松山 近義 (旭川支事務局長)  
石原 三夫 (函館)  
廣岡 達夫 (苫小牧)  
佐藤 昇 (釧路支事務局長)  
上田 弘 (釧路支部長)

昭和60年度

会長 岩崎 薫 (札幌)  
副会長 廣岡 達夫 (苫小牧)

事務局員

中野 龍一 (道南)  
佐藤 昇 (室蘭)  
飯田 興治 (小樽)  
猪村 和子 (札幌)  
福原 真理子 (札幌)  
宮本 好和 (札幌)  
中村 信夫 (札幌)  
津田 嘉郎 (小樽)  
松山 近義 (旭川)  
鈴木 啓三 (札幌)  
上田 弘 (札幌)  
廣岡 達夫 (苫小牧)

幹事

川窪 健次 (北見)  
堀井 和彦 (札幌)  
大西 政弘 (札幌)  
岡根 徳政 (札幌)  
渡辺 自立 (小樽)  
佐藤 敦子 (旭川)  
池田 利男 (留萌)  
乙竹 隆七 (稚内)  
山下 昭治 (道南)  
山飼 野秋 (滝川)  
馬飼 野秋 (滝川)  
梶沢 隆弘 (苫小牧)  
佐藤 道美 (室蘭)  
新倉 義太郎 (十勝)  
早坂 要 (釧路)  
谷沢 忠 (北見)  
金野 正夫 (網走)  
井上 茂 (中湧別)  
辻 正廣 (札幌)  
川添 健一 (旭川)

【全腎協派遣役員】

幹事 川添 健一 (旭川)  
副会長 岩崎 薫 (札幌)  
會計監査 川添 健一 (旭川)

昭和61年度

会長 岩崎 薫 (札幌)  
副会長 廣岡 達夫 (苫小牧)

鈴木 啓三 (札幌)  
上田 弘 (札幌)  
廣岡 達夫 (苫小牧)

幹事

大西 政弘 (札幌)  
堀井 和彦 (札幌)  
川窪 健次 (北見)  
中野 龍一 (道南)  
佐藤 昇 (室蘭)  
渡辺 自立 (小樽)  
猪村 和子 (札幌)  
芳賀 務和 (札幌)  
宮本 好和 (札幌)  
中村 信夫 (札幌)  
津田 嘉郎 (小樽)  
松山 近義 (旭川)

事務局員

山田 良明 (岩見沢)  
須藤 亮 (夕張)  
井上 茂 (中湧別)  
金野 正夫 (網走)  
川股 幸 (北見)  
橋本 巖 (釧路)  
岡崎 幸 (十勝)  
佐藤 道美 (室蘭)  
木村 升平 (苫小牧)  
馬飼 野秋 (滝川)  
山下 昭治 (道南)  
乙竹 隆七 (稚内)  
池田 利男 (留萌)  
佐藤 昌夫 (旭川)  
高橋 夕マ (小樽)  
福原 真理子 (札幌)  
岡根 徳政 (札幌)  
大西 政弘 (札幌)  
堀井 和彦 (札幌)  
川窪 健次 (北見)  
中野 龍一 (道南)  
佐藤 昇 (室蘭)  
渡辺 自立 (小樽)  
猪村 和子 (札幌)  
芳賀 務和 (札幌)  
宮本 好和 (札幌)  
中村 信夫 (札幌)  
津田 嘉郎 (小樽)  
松山 近義 (旭川)

昭和62年度

会長 岩崎 薫(札幌)  
 副会長 廣岡 夫(苫小牧)  
 上田 弘(釧路)  
 鈴木 啓三(札幌)  
 津田 嘉郎(小樽)  
 中野 龍一(道南)  
 中村 信夫(札幌)  
 宮本 好和(札幌)  
 芳賀 務(札幌)  
 猪村 和子(札幌)  
 渡辺 自立(小樽)  
 佐藤 昇(室蘭)  
 川窪 健次(北見)

【全腎協派遣役員】

幹事 佐藤 昇(室蘭)  
 副会長 中村 信夫(札幌)  
 委員 鈴木 啓三(札幌)  
 村本 徳雄(札幌)  
 高道 章(札幌)  
 福原 真理子(札幌)  
 中村 信夫(札幌)  
 相談役 細川 哲男(札幌)  
 柳本 一(旭川)  
 辻正 廣(札幌)  
 星野 英市(岩見沢)

【編集委員会】

委員 鈴木 啓三(札幌)  
 中村 信夫(札幌)  
 芳賀 務(札幌)  
 岡根 徳政(札幌)  
 福原 真理子(札幌)  
 柳本 一(旭川)  
 堀井 和彦(札幌)  
 大西 政弘(札幌)  
 岡根 徳政(札幌)  
 福原 真理子(札幌)  
 高橋 夕マ(小樽)  
 宮武 明博(旭川)  
 池田 利男(留萌)  
 乙竹 隆七(稚内)  
 山下 昭治(道南)  
 馬飼野 秋雄(滝川)  
 梶沢 隆弘(苫小牧)  
 石井 俊光(室蘭)  
 岡崎 輝幸(十勝)  
 橋本 巖(釧路)  
 川股 良幸(北見)  
 金野 正夫(網走)  
 須藤 亮(夕張)  
 井上 茂(中湧別)  
 山田 良明(岩見沢)  
 山野 英一(岩見沢)  
 星野 正廣(札幌)  
 辻江 良和(旭川)  
 安江 正和(旭川)

昭和63年度

【全腎協派遣役員】

副会長 中村 信夫(札幌)  
 幹事 渡辺 自立(小樽)

事務局長  
 運営委員

会長 岩崎 薫(札幌)  
 副会長 廣岡 夫(苫小牧)  
 上田 弘(釧路)  
 鈴木 啓三(札幌)  
 津田 嘉郎(小樽)  
 中野 龍一(道南)  
 堀井 和彦(札幌)  
 宮本 好和(札幌)  
 平原 立身(札幌)  
 川村 隆志(札幌)  
 佐藤 昇(室蘭)  
 川窪 健次(北見)  
 柳本 一(旭川)  
 木村 幸雄(十勝)  
 芳賀 務(札幌)  
 大西 政弘(札幌)  
 岡根 徳政(札幌)  
 雨宮 英子(札幌)  
 斉藤 一子(小樽)  
 佐藤 昌夫(旭川)  
 池田 利男(留萌)  
 乙竹 隆七(稚内)  
 山下 昭治(道南)

幹事  
 會計監査

會計監査 辻江 良和(旭川)  
 星野 正廣(札幌)  
 山田 良明(岩見沢)  
 山野 英一(岩見沢)  
 安江 正和(旭川)

|    |      |    |     |           |    |         |      |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |
|----|------|----|-----|-----------|----|---------|------|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|
| 理事 | 代表理事 | 幹事 | 副会長 | 【全腎協派遣役員】 | 委員 | 【編集委員会】 | 会計監査 | 安江 | 岡本 | 小林 | 田中 | 星野 | 山田 | 井上  | 須藤 | 金野 | 東一 | 橋本 | 藤田 | 石井 | 椛沢  | 渡辺 |    |    |    |
| 堀井 | 岩崎   | 川村 | 廣岡  | 隆志        | 雨宮 | 宮本      | 平原   | 堀井 | 村本 | 鈴木 | 安江 | 岡本 | 小林 | 田中  | 星野 | 山田 | 井上 | 須藤 | 金野 | 東一 | 橋本  | 藤田 | 石井 | 椛沢 | 渡辺 |
| 和彦 | 薫    | 隆志 | 夫   | 子         | 英子 | 好和      | 立身   | 和彦 | 本徳 | 木啓 | 良徳 | 昌治 | 英市 | 明良  | 茂亮 | 正夫 | 一夫 | 巖  | 一義 | 俊光 | 弘光  | 生節 | 生節 | 生節 |    |
| 札幌 | 札幌   | 札幌 | 苫小牧 | 札幌        | 札幌 | 札幌      | 札幌   | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 旭川 | 根室 | 江別 | 岩見沢 | 紋別 | 網走 | 北見 | 釧路 | 十勝 | 室蘭 | 苫小牧 | 滝川 | 滝川 | 滝川 |    |

|     |        |     |      |    |    |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|-----|--------|-----|------|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 評議員 | 事業資金委員 | 副会長 | 事務局長 | 幹事 | 會計 | 副会長 | 會長 | 岩崎 | 廣岡 | 上田 | 鈴木 | 津田 | 中野 | 堀井 | 宮本 | 川村 | 椛村 | 佐藤 | 西木 | 柳本 | 木村 | 芳賀 | 大西 | 雨宮 | 永田 | 斉藤 | 佐藤 |    |
| 鈴木  | 芳賀     | 津田  | 椛村   | 柳本 | 木村 | 芳賀  | 大西 | 雨宮 | 永田 | 斉藤 | 佐藤 | 鈴木 | 津田 | 中野 | 堀井 | 宮本 | 川村 | 椛村 | 佐藤 | 西木 | 柳本 | 木村 | 芳賀 | 大西 | 雨宮 | 永田 | 斉藤 | 佐藤 |
| 啓三  | 務小     | 嘉郎  | 隆弘   | 一旭 | 雄十 | 務弘  | 弘政 | 子之 | 子之 | 子之 | 子之 | 啓三 | 嘉郎 | 一旭 | 隆弘 | 雄十 | 務弘 | 弘政 | 子之 | 子之 | 子之 | 子之 | 子之 | 子之 | 子之 | 子之 | 子之 | 子之 |
| 札幌  | 札幌     | 札幌  | 札幌   | 札幌 | 札幌 | 札幌  | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 |

平成元年度

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |         |     |    |           |        |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|---------|-----|----|-----------|--------|----|----|----|----|
| 乙竹 | 池田 | 田中 | 伊藤 | 合田 | 渡辺 | 藤田 | 忠村 | 東一 | 原幸 | 須藤 | 井上 | 山田  | 田中 | 辻中 | 岡本 | 安江 | 【編集委員会】 | 委員長 | 委員 | 【全腎協派遣役員】 | ブロック代表 | 幹事 |    |    |    |
| 七  | 利男 | 政夫 | 粹裕 | 晃生 | 節生 | 一義 | 敏一 | 一夫 | 幸一 | 亮一 | 茂一 | 明一  | 稔一 | 夫一 | 昌一 | 良一 | 堀井      | 鈴木  | 村本 | 芳賀        | 永田     | 宮本 | 廣岡 | 川村 |    |
| 稚内 | 留南 | 道南 | 苦小 | 室小 | 滝川 | 十勝 | 釧路 | 北見 | 網走 | 夕張 | 紋別 | 岩見沢 | 江別 | 浦河 | 根室 | 旭川 | 札幌      | 札幌  | 札幌 | 札幌        | 札幌     | 札幌 | 札幌 | 札幌 | 札幌 |



【道難病連派遣役員】

理事 堀井和彦(札幌)  
 評議員 鈴木啓三(札幌)  
 芳賀務(札幌)  
 津田嘉郎(小樽)  
 柳本一(旭川)  
 事業資金委員 鈴木啓三(札幌)

平成2年度

会長 岩崎薫(札幌)  
 副会長 廣岡達夫(苫小牧)  
 上田弘(釧路)  
 鈴木啓三(札幌)  
 津田嘉郎(小樽)  
 堀井和彦(札幌)  
 事務局長 宮本好和(札幌)  
 事務局長 榎本勇(札幌)  
 芳賀務(札幌)  
 佐藤利國(室蘭)  
 西木戸隆博(北見)  
 柳本一(旭川)  
 木村幸雄(十勝)  
 田中政夫(道南)  
 川村隆志(札幌)  
 永田和之(札幌)  
 佐藤裕子(札幌)  
 柳沼正一(札幌)  
 齊藤一子(小樽)

【道難病連派遣役員】

理事 堀井和彦(札幌)  
 評議員 鈴木啓三(札幌)  
 芳賀務(札幌)  
 津田嘉郎(小樽)  
 柳本一(旭川)  
 事業資金委員 廣岡達夫(苫小牧)  
 共同レク委員 川村隆志(札幌)

平成3年度

会長 岩崎薫(札幌)  
 副会長 廣岡達夫(苫小牧)  
 上田弘(釧路)  
 鈴木啓三(札幌)  
 津田嘉郎(小樽)  
 事務局長 堀井和彦(札幌)  
 事務局長 川村隆志(札幌)  
 事務局長次長 宮本好和(札幌)  
 運営委員 榎本勇(札幌)  
 佐藤美(札幌)  
 佐藤朱(札幌)  
 西木戸隆博(北見)  
 柳本一(旭川)  
 木村幸雄(十勝)  
 田中政夫(道南)  
 村本徳雄(札幌)

【編集委員会】

会計監査 安江良和(旭川)  
 村本徳雄(札幌)  
 榎本弘千(札幌)

委員長 堀井和彦(札幌)  
 委員 鈴木啓三(札幌)  
 川村隆志(札幌)  
 村本徳雄(札幌)  
 永田和之(札幌)

【全腎協派遣役員】

ブロック代表 廣岡達夫(苫小牧)  
 幹事 川村隆志(札幌)

幹事 佐藤裕子(札幌)

柳沼正一(札幌)

片桐俊子(札幌)

斉藤一子(札幌)

佐藤昌夫(札幌)

乙藤隆七(札幌)

薄木隆理(札幌)

白岩政春(札幌)

村田明光(札幌)

合田晃(札幌)

八木澤尊子(札幌)

藤田一義(札幌)

橋本一義(札幌)

下田武秀(札幌)

浜田博義(札幌)

井上茂(札幌)

三浦春雄(札幌)

進藤繁幸(札幌)

毛内裕之(札幌)

岡田昌治(札幌)

江島寛(札幌)

鈴木美深(札幌)

永田和之(札幌)

安江良和(札幌)

【編集委員会】

会計監査

委員長 堀井和彦(札幌)

委員 川村隆志(札幌)

委員 村本徳雄(札幌)

委員 永田和之(札幌)

【全腎協派遣役員】

ブロック代表 廣岡達夫(苫小牧)

幹事 佐藤利國(札幌)

理事 堀井和彦(札幌)

評議員 鈴木啓三(札幌)

津田嘉一郎(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

柳本一(札幌)

平成4年度

事業資金委員

川村隆志(札幌)

廣岡達夫(苫小牧)

廣岡達夫(苫小牧)

廣岡達夫(苫小牧)

廣岡達夫(苫小牧)

廣岡達夫(苫小牧)

廣岡達夫(苫小牧)

廣岡達夫(苫小牧)

廣岡達夫(苫小牧)

廣岡達夫(苫小牧)

廣岡達夫(苫小牧)

廣岡達夫(苫小牧)

廣岡達夫(苫小牧)

廣岡達夫(苫小牧)

廣岡達夫(苫小牧)

廣岡達夫(苫小牧)

會計 村本徳雄(札幌)

柳沼正一(札幌)

三沢祥子(札幌)

斉藤一子(札幌)

佐藤昌夫(札幌)

乙藤隆七(札幌)

薄木隆理(札幌)

白岩政春(札幌)

村田明光(札幌)

合田晃(札幌)

岡崎由紀夫(札幌)

橋本一義(札幌)

原田幸一(札幌)

井上茂(札幌)

下田武秀(札幌)

三浦春雄(札幌)

進藤繁幸(札幌)

毛内裕之(札幌)

岡田昌治(札幌)

谷目守治(札幌)

増田実(札幌)

永田和之(札幌)

安江良和(札幌)

【編集委員会】

会計監査

委員長 堀井和彦(札幌)

委員 川村隆志(札幌)

委員 村本徳雄(札幌)

委員 永田和之(札幌)

永田和之(札幌)

【全腎協派遣役員】

ブロック代表 廣岡 達夫(苫小牧)  
幹事 佐藤 利國(室蘭)

【道難病連派遣役員】

理事 堀井 和彦(札幌)  
評議員 鈴木 啓三(札幌)  
津田 嘉一郎(小樽)  
柳本 一(旭川)  
榎本 勇(札幌)

事業資金委員

川村 隆志(札幌)  
佐藤 利國(室蘭)

平成5年度

会長 岩崎 薫(札幌)  
副会長 廣岡 達夫(苫小牧)

事務局長 上田 弘(札幌)  
事務局長 鈴木 啓三(札幌)  
事務局長 津田 嘉一郎(小樽)  
事務局長 堀井 和彦(札幌)  
事務局長 川村 隆志(札幌)  
事務局長 宮本 好和(札幌)  
事務局長 榎本 勇(札幌)  
事務局長 佐藤 朱美(札幌)  
事務局長 佐藤 利國(室蘭)  
事務局長 西木戸 隆博(北見)

柳本 一(旭川)  
塚本 義彦(十勝)  
田中 政夫(道南)

會計

村本 徳雄(札幌)  
佐藤 裕子(札幌)  
柳沼 正一(札幌)  
三沢 祥子(札幌)

幹事

齊藤 一子(小樽)  
佐藤 昌夫(旭川)  
乙竹 隆七(稚内)

岡崎 嘉奈恵(留萌)  
横内 栄松(道南)

合田 明晃(苫小牧)  
嘉見 照子(滝川)

伊藤 進(十勝)  
橋本 徹(釧路)

矢部 昭子(網走)  
井上 茂(紋別)

下田 武秀(北見)  
三浦 春雄(夕張)

進藤 繁幸(岩見沢)  
渡辺 寛(浦河)

岡田 昌治(根室)  
江島 寛(千歳)

會計監査 鈴木 春美(深川)  
棚田 まゆみ(札幌)

安江 良和(旭川)

【編集委員会】

委員長 堀井 和彦(札幌)  
委員 川村 隆志(札幌)  
委員 村本 徳雄(札幌)

【全腎協派遣役員】

ブロック代表 廣岡 達夫(苫小牧)  
幹事 佐藤 利國(室蘭)

【道難病連派遣役員】

理事 堀井 和彦(札幌)  
評議員 鈴木 啓三(札幌)  
津田 嘉一郎(小樽)  
柳本 一(旭川)  
榎本 勇(札幌)

事業資金委員

川村 隆志(札幌)  
佐藤 利國(室蘭)

平成6年度

会長 岩崎 薫(札幌)  
副会長 廣岡 達夫(苫小牧)

事務局長 上田 弘(札幌)  
事務局長 鈴木 啓三(札幌)  
事務局長 川村 隆志(札幌)  
事務局長 三上 留美子(札幌)  
事務局長 堀井 和彦(札幌)  
事務局長 宮本 好和(札幌)  
事務局長 榎本 勇(札幌)  
事務局長 佐藤 朱美(札幌)  
事務局長 佐藤 利國(室蘭)

柳本 一(旭川)  
塚本 義彦(十勝)  
西木戸 隆博(北見)  
佐藤 利國(室蘭)

幹 会  
事 計

委員長 堀井隆志(札幌)  
 委員 川村隆志(札幌)  
 【編集委員会】  
 会計監査 安江良和(旭川)  
 棚田まゆみ(札幌)  
 鈴木春美(深川)  
 江島寛(千歳)  
 岡田昌治(根室)  
 渡辺繁寛(浦河)  
 進藤幸(岩見沢)  
 浦正明(夕張)  
 小原洋一(北見)  
 井上茂(紋別)  
 原田幸一(網走)  
 橋本一(釧路)  
 土角福寿(滝川)  
 合田晃(室蘭)  
 村田明光(苫小牧)  
 横内栄松(道南)  
 藤田勝美(留萌)  
 乙竹隆七(稚内)  
 佐藤昌夫(旭川)  
 北沢征子(小樽)  
 三沢祥子(札幌)  
 柳沼正一(札幌)  
 村井義雄(札幌)  
 村本徳雄(札幌)  
 斉藤一子(小樽)  
 田中政夫(道南)  
 幹 会  
 事 計

【全腎協派遣役員】

ブロック代表 廣岡達夫(苫小牧)  
 幹 事 佐藤利國(室蘭)

【道難病連派遣役員】

理事 岩崎薫(札幌)  
 評議員 鈴木啓三(札幌)  
 廣岡達夫(苫小牧)

事業資金委員

川村隆志(札幌)  
 佐藤利國(室蘭)  
 棧本勇(札幌)  
 柳本一(旭川)  
 廣岡達夫(苫小牧)  
 鈴木啓三(札幌)  
 岩崎薫(札幌)  
 幹 事 佐藤利國(室蘭)  
 久原幸江(札幌)  
 村本徳雄(札幌)  
 神座敦子(札幌)

平成7年度

会長 岩崎薫(札幌)  
 副会長 廣岡達夫(苫小牧)

事務局長 川村隆志(札幌)  
 事務局次長 村上留美子(札幌)  
 運営委員 堀井和彦(札幌)  
 宮本好和(札幌)  
 柳沼正一(札幌)  
 佐藤朱美(札幌)  
 佐藤利國(室蘭)

西木戸隆博(北見)  
 佐藤利國(室蘭)  
 佐藤朱美(札幌)  
 柳沼正一(札幌)  
 宮本好和(札幌)  
 堀井和彦(札幌)  
 三上留美子(札幌)  
 川村隆志(札幌)  
 鈴木啓三(札幌)  
 上田弘(釧路)

幹 会  
事 計

会計監査 安江良和(旭川)  
 棚田まゆみ(札幌)  
 鈴木春美(深川)  
 江島寛(千歳)  
 岡田悦子(根室)  
 渡辺繁寛(浦河)  
 進藤幸(岩見沢)  
 柳原政雄(夕張)  
 小原洋一(北見)  
 井上茂(紋別)  
 原田幸一(網走)  
 橋本義彦(十勝)  
 塚本(釧路)  
 土角福寿(滝川)  
 合田晃(室蘭)  
 黒田秀樹(苫小牧)  
 横内栄松(道南)  
 藤田勝美(留萌)  
 足立清栄(稚内)  
 佐藤昌夫(旭川)  
 北沢征子(小樽)  
 三沢祥子(札幌)  
 村井義雄(札幌)  
 澤内繁雄(札幌)  
 村本徳雄(札幌)  
 斉藤一子(小樽)  
 田中政夫(道南)  
 鈴木茂(十勝)  
 柳本一(旭川)  
 幹 会  
 事 計

【編集委員会】

委員長 堀井和彦(札幌)  
委員 川村隆志(札幌)  
村本徳雄(札幌)  
神座敦子(札幌)  
久原幸江(札幌)

【全腎協派遣役員】

ブロック代表 廣岡達夫(苫小牧)  
幹事 佐藤利國(室蘭)

【道難病連派遣役員】

理事 岩崎薫(札幌)  
評議員 鈴木啓三(札幌)  
廣岡達夫(苫小牧)  
柳本一(旭川)  
川村隆志(札幌)  
齊藤一子(小樽)

事業資金委員  
川村隆志(札幌)  
齊藤一子(小樽)

平成8年度

会長 岩崎薫(札幌)  
副会長 廣岡達夫(苫小牧)

事務局長 川村隆志(札幌)  
事務局長次長 三上留美子(札幌)  
運営委員 堀井和彦(札幌)  
宮本好和(札幌)  
柳沼正一(札幌)

幹事計

佐藤朱美(札幌) 佐藤利國(室蘭) 西木隆博(北見) 柳本一(旭川) 鈴木茂(十勝) 田中政夫(道南) 齊藤一子(小樽) 村本徳雄(札幌) 澤内繁雄(札幌) 村井義雄(札幌) 北沢祥子(札幌) 北藤征子(小樽) 佐藤昌夫(旭川) 足立清栄(稚内) 藤田勝美(留萌) 横内栄松(道南) 黒田秀樹(苫小牧) 合田晃(室蘭) 宇野峯治(滝川) 塚本義彦(十勝) 橋本巖(釧路) 金野正夫(網走) 井上茂(紋別) 小原洋一(北見) 柳原政雄(夕張) 進藤繁幸(岩見沢) 大原賢三(江別) 渡辺寛(浦河) 岡田悦子(根室)

会計監査  
江島寛(千歳)  
鈴木春美(深川)  
棚田まゆみ(札幌)  
安江良和(旭川)

【編集委員会】

委員長 堀井和彦(札幌)  
委員 川村隆志(札幌)  
神座敦子(札幌)  
久原幸江(札幌)

【全腎協派遣役員】

ブロック代表 廣岡達夫(苫小牧)  
幹事 佐藤利國(室蘭)

【道難病連派遣役員】

理事 岩崎薫(札幌)  
評議員 宮本好和(札幌)  
廣岡達夫(苫小牧)  
柳本一(旭川)  
川村隆志(札幌)  
齊藤一子(小樽)

事業資金委員  
川村隆志(札幌)  
齊藤一子(小樽)

平成9年度

会長 岩崎薫(札幌)  
副会長 上田弘(釧路)

事務局長 澤内繁雄(札幌)  
事務局長次長 田中政夫(道南)  
運営委員 鈴木啓三(札幌)  
堀井和彦(札幌)  
佐藤利國(室蘭)



|     |    |            |             |            |            |            |            |           |     |           |    |            |           |            |      |             |            |            |           |            |           |             |             |            |            |            |               |               |           |            |
|-----|----|------------|-------------|------------|------------|------------|------------|-----------|-----|-----------|----|------------|-----------|------------|------|-------------|------------|------------|-----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|------------|------------|---------------|---------------|-----------|------------|
| 評議員 | 理事 | 久原 幸江 (札幌) | 福原 真理子 (札幌) | 澤内 繁雄 (札幌) | 佐藤 功彦 (札幌) | 堀井 和彦 (札幌) | 村本 徳雄 (札幌) | 【機関紙編集委員】 | 正会員 | 北 征子 (小樽) | 理事 | 佐藤 利國 (室蘭) | 【全腎協派遣役員】 | 青柳 正一 (旭川) | 會計監査 | 棚田 まゆみ (札幌) | 鈴木 春美 (深川) | 岡田 悦子 (根室) | 江島 寛 (千歳) | 足立 清栄 (稚内) | 渡辺 寛 (浦河) | 進藤 繁幸 (岩見沢) | 椿分 百合江 (江別) | 薄木 理留 (留萌) | 小野 勇一 (北見) | 小原 洋一 (北見) | 井上 茂夫 (オホーツク) | 金野 正夫 (オホーツク) | 鈴木 茂 (十勝) | 宇野 峯治 (滝川) |
|-----|----|------------|-------------|------------|------------|------------|------------|-----------|-----|-----------|----|------------|-----------|------------|------|-------------|------------|------------|-----------|------------|-----------|-------------|-------------|------------|------------|------------|---------------|---------------|-----------|------------|

【道難病連派遣役員】

|    |            |            |            |           |           |             |            |            |            |            |            |            |            |             |            |            |            |            |            |             |           |     |            |    |           |          |            |            |            |           |           |
|----|------------|------------|------------|-----------|-----------|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|-----------|-----|------------|----|-----------|----------|------------|------------|------------|-----------|-----------|
| 幹事 | 梅田 明文 (札幌) | 伊藤 隆博 (札幌) | 西木戸 隆 (札幌) | 橋本 巖 (釧路) | 天沼 忠 (室蘭) | 山口 信子 (苫小牧) | 桑島 智義 (道南) | 近江谷 守 (旭川) | 斉藤 一子 (小樽) | 佐藤 朱美 (札幌) | 柳沼 正一 (札幌) | 宮本 好和 (札幌) | 村本 徳雄 (札幌) | 三上 留美子 (札幌) | 堀井 和彦 (札幌) | 澤内 繁雄 (札幌) | 掛札 昌夫 (旭川) | 佐藤 利國 (室蘭) | 佐藤 啓三 (札幌) | 鈴木 木啓三 (札幌) | 岩崎 薫 (札幌) | 副会長 | 岩崎 啓三 (札幌) | 會長 | 岩崎 薫 (札幌) | 【事業資金委員】 | 澤内 繁雄 (札幌) | 斉藤 一子 (小樽) | 田中 政夫 (道南) | 柳本 一 (旭川) | 橋本 巖 (釧路) |
|----|------------|------------|------------|-----------|-----------|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|-----------|-----|------------|----|-----------|----------|------------|------------|------------|-----------|-----------|

平成11年度

|       |            |       |            |     |            |    |            |           |      |            |             |            |           |            |            |             |            |               |               |            |            |            |            |             |             |            |            |           |          |            |
|-------|------------|-------|------------|-----|------------|----|------------|-----------|------|------------|-------------|------------|-----------|------------|------------|-------------|------------|---------------|---------------|------------|------------|------------|------------|-------------|-------------|------------|------------|-----------|----------|------------|
| 編輯委員長 | 堀井 和彦 (札幌) | 編輯委員長 | 村本 徳雄 (札幌) | 正会員 | 澤内 繁雄 (札幌) | 理事 | 佐藤 利國 (室蘭) | 【機関紙編集委員】 | 會計監査 | 青柳 正一 (旭川) | 棚田 まゆみ (札幌) | 鈴木 春美 (深川) | 江島 寛 (千歳) | 岡田 悦子 (根室) | 湯谷 憲保 (浦河) | 椿分 百合江 (江別) | 柳原 政雄 (夕張) | 井上 茂夫 (オホーツク) | 金野 正夫 (オホーツク) | 小原 洋一 (北見) | 栗山 尚倫 (釧路) | 宇野 峯治 (滝川) | 浅田 精一 (室蘭) | 河内 英樹 (苫小牧) | 東谷 美紀子 (道南) | 豊島 恒樹 (留萌) | 足立 清栄 (稚内) | 棚田 均 (旭川) | 北征子 (小樽) | 鈴木 友幸 (札幌) |
|-------|------------|-------|------------|-----|------------|----|------------|-----------|------|------------|-------------|------------|-----------|------------|------------|-------------|------------|---------------|---------------|------------|------------|------------|------------|-------------|-------------|------------|------------|-----------|----------|------------|



平成12年度

【道難病連派遣役員】

理事 久原 幸江 (札幌)  
 評議員 北宮 征和 (札幌)  
 柳沼 正一 (札幌)  
 掛札 聖一 (札幌)  
 澤内 繁雄 (札幌)

兼山 明雄 (十勝)  
 伊藤 文夫 (札幌)  
 梅田 幸明 (札幌)  
 鈴木 友幸 (札幌)  
 北宮 征和 (札幌)  
 棚田 均 (旭川)  
 足立 清栄 (稚内)  
 豊島 恒樹 (留萌)  
 東谷 美紀子 (道南)  
 河内 英樹 (苫小牧)  
 浅田 精一 (室蘭)  
 宇野 峯治 (滝川)  
 山田 洋子 (十勝)  
 栗山 尚倫 (釧路)  
 小原 洋一 (北見)  
 金野 正夫 (オホーツク)  
 井上 茂 (紋別)  
 柳原 政雄 (夕張)  
 椿分 百合江 (江別)  
 湯谷 憲保 (浦河)  
 岡田 悦子 (根室)  
 江島 寛 (千歳)  
 鈴木 春美 (深川)  
 棚田 まゆみ (札幌)  
 青柳 正一 (旭川)  
 岩崎 薫 (札幌)

【機関紙編集委員】

編集委員長 村本 徳雄 (札幌)  
 編集委員 堀井 和彦 (札幌)  
 佐藤 功 (札幌)  
 澤内 繁雄 (札幌)  
 福原 真理子 (札幌)  
 久原 幸江 (札幌)  
 三上 留美子 (札幌)

【道難病連派遣役員】

理事 北宮 征和 (札幌)  
 評議員 柳沼 正一 (札幌)  
 掛札 聖一 (札幌)  
 澤内 繁雄 (札幌)

平成13年度

事務局長  
事務局次長  
會計  
運営委員

會長 鈴木 啓三 (札幌)  
 副會長 堀井 和彦 (札幌)  
 佐藤 利國 (室蘭)  
 佐藤 昌夫 (旭川)  
 掛札 聖一 (札幌)  
 澤内 繁雄 (札幌)  
 三上 留美子 (札幌)  
 村上 徳雄 (札幌)  
 宮本 好和 (札幌)  
 柳沼 正一 (札幌)  
 佐藤 朱美 (札幌)  
 斉藤 一子 (小樽)  
 近江谷 守 (旭川)  
 桑島 智義 (道南)  
 山口 信子 (苫小牧)  
 天沼 忠 (室蘭)  
 橋本 巖 (釧路)  
 西木戸 隆博 (北見)

會長  
副會長

會長 堀井 和彦 (札幌)  
 副會長 佐藤 昌夫 (旭川)  
 掛札 聖一 (札幌)  
 川村 隆志 (札幌)  
 山口 信子 (苫小牧)  
 澤内 繁雄 (札幌)  
 三上 留美子 (札幌)  
 村上 徳雄 (札幌)  
 柳沼 正一 (札幌)  
 伊藤 文夫 (札幌)  
 鈴木 友幸 (札幌)  
 近江谷 守 (旭川)

【全腎協派遣役員】

理事 佐藤 利國 (室蘭)  
 正會員 澤内 繁雄 (札幌)

會計監査役

棚田 まゆみ (札幌)  
 青柳 正一 (旭川)  
 岩崎 薫 (札幌)

事務局次長  
會計  
運営委員

事務局次長 三上 留美子 (札幌)  
 會計 村上 徳雄 (札幌)  
 運営委員 柳沼 正一 (札幌)  
 伊藤 文夫 (札幌)  
 鈴木 友幸 (札幌)  
 近江谷 守 (旭川)



平成15年度

会長 長川村隆志(札幌)  
副会長 掛札聖(釧路)

會計監査役 栗山尚倫(釧路)  
青柳正一(旭川)

相談役 岩崎真理子(札幌)  
鈴木啓三(札幌)

【全腎協派遣役員】

理事 佐藤利國(室蘭)  
正会員 堀井和彦(札幌)

【機関紙編集委員】

編集委員長 村本徳雄(札幌)  
編集委員 堀井和彦(札幌)  
三上留美子(札幌)

【道難病連派遣役員】

理事 北征子(小樽)  
評議員 堀井和彦(札幌)  
三上留美子(札幌)

事業資金委員 澤内繁雄(札幌)  
藤田孝子(室蘭)  
松浦範子(苫小牧)  
青柳正一(旭川)

幹事

事務局長 堀井和彦(札幌)  
事務局次長 三上留美子(札幌)  
會計 村本徳雄(札幌)  
運営委員 柳沼正一(札幌)

山口信子(苫小牧)  
青柳正一(旭川)  
堀井和彦(札幌)  
澤内繁雄(札幌)  
三上留美子(札幌)  
村本徳雄(札幌)  
柳沼正一(札幌)  
菖木芳三(札幌)  
近江谷守(旭川)  
桑島智義(道南)  
河内英樹(苫小牧)  
水島裕(室蘭)  
橋本巖(釧路)  
金井英樹(小樽)  
椿分百合江(江別)  
大澤則夫(十勝)  
佐藤功(札幌)  
石井典子(札幌)  
北征子(小樽)  
小笠原和枝(十勝)  
岩本美津枝(旭川)  
永澤直喜(夕張)  
山谷眞幸(道南)  
山浦範子(苫小牧)  
田中敏彦(留萌)  
井上茂彦(紋別)  
浜上武(稚内)  
村田弘(北見)  
原村田(弘北見)

會計監査役

栗山尚倫(釧路)  
山勝志郎(伊達川)  
栗山尚倫(釧路)  
齊藤英(浦河)  
宮林政勝(室蘭)  
蓬田雄一(旭川)

【全腎協派遣役員】

相談役 岩崎真理子(札幌)  
鈴木啓三(札幌)

【機関紙編集委員】

理事 佐藤利國(室蘭)  
正会員 栗山尚倫(釧路)  
堀井和彦(札幌)  
編集委員長 村本徳雄(札幌)  
編集委員 堀井和彦(札幌)  
澤内繁雄(札幌)

【道難病連派遣役員】

理事 北征子(小樽)  
評議員 柳沼正一(札幌)  
青柳正一(旭川)

事業資金委員 澤内繁雄(札幌)  
藤田孝子(室蘭)  
松浦範子(苫小牧)  
青柳正一(旭川)

平成16年度

|          |    |         |     |           |          |          |          |           |          |          |          |          |          |           |         |         |          |         |          |         |           |          |          |          |          |           |          |         |        |      |
|----------|----|---------|-----|-----------|----------|----------|----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|---------|---------|----------|---------|----------|---------|-----------|----------|----------|----------|----------|-----------|----------|---------|--------|------|
| 川村隆志(札幌) | 会長 | 掛札聖(釧路) | 副会長 | 山口信子(苫小牧) | 青柳正一(旭川) | 堀井和彦(札幌) | 澤内繁雄(札幌) | 三上留美子(札幌) | 村本徳雄(札幌) | 柳沼正一(札幌) | 荳木芳三(札幌) | 近江谷守(旭川) | 桑島智義(道南) | 河内英樹(苫小牧) | 水島裕(室蘭) | 橋本巖(釧路) | 大澤則夫(十勝) | 佐藤功(札幌) | 石井典子(札幌) | 北征子(小樽) | 小笠原和枝(十勝) | 小平敬明(旭川) | 永澤直喜(夕張) | 山谷眞幸(道南) | 山浦眞幸(道南) | 松浦範子(苫小牧) | 田中敏彦(留萌) | 井上茂(稚内) | 浜武(稚内) |      |
|          | 幹事 |         |     |           |          |          |          | 事務局長      | 事務局長     | 事務局長     | 事務局長     | 事務局長     | 事務局長     | 事務局長      | 事務局長    | 事務局長    | 事務局長     | 事務局長    | 事務局長     | 事務局長    | 事務局長      | 事務局長     | 事務局長     | 事務局長     | 事務局長     | 事務局長      | 事務局長     | 事務局長    | 事務局長   | 事務局長 |

|            |        |         |           |         |          |          |          |          |         |         |          |           |         |          |     |    |     |       |      |          |          |           |          |           |         |          |          |           |     |  |
|------------|--------|---------|-----------|---------|----------|----------|----------|----------|---------|---------|----------|-----------|---------|----------|-----|----|-----|-------|------|----------|----------|-----------|----------|-----------|---------|----------|----------|-----------|-----|--|
| 村田豊(オホーツク) | 原弘(北見) | 奏直泰(滝川) | 山中勝志郎(伊達) | 山尚倫(釧路) | 栗山英倫(浦河) | 齊藤英勝(室蘭) | 宮林政勝(室蘭) | 小松勝寿(静内) | 岡田均(根室) | 矢野清(江別) | 蓬田雄一(旭川) | 福原真理子(札幌) | 岩崎薫(札幌) | 鈴木啓三(札幌) | 相談役 | 理事 | 正会員 | 編集委員長 | 編集委員 | 堀井和彦(札幌) | 澤内繁雄(札幌) | 福原真理子(札幌) | 久原幸江(札幌) | 三上留美子(札幌) | 北征子(小樽) | 柳沼正一(札幌) | 青柳正一(札幌) | 松浦範子(苫小牧) | 評議員 |  |
|            |        |         |           |         |          |          |          |          |         |         |          |           |         |          |     |    |     |       |      |          |          |           |          |           |         |          |          |           |     |  |

|          |        |          |          |    |         |           |           |          |          |          |           |          |          |          |           |         |         |          |         |          |          |           |          |         |          |          |          |          |  |
|----------|--------|----------|----------|----|---------|-----------|-----------|----------|----------|----------|-----------|----------|----------|----------|-----------|---------|---------|----------|---------|----------|----------|-----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|--|
| 藤田孝子(室蘭) | 事業資金委員 | 澤内繁雄(札幌) | 川村隆志(札幌) | 会長 | 掛札聖(釧路) | 山口信子(苫小牧) | 山口信子(苫小牧) | 青柳正一(旭川) | 柳沼正一(札幌) | 堀井和彦(札幌) | 三上留美子(札幌) | 荳木芳三(札幌) | 近江谷守(旭川) | 山谷眞幸(道南) | 河内英樹(苫小牧) | 水島裕(室蘭) | 北征子(小樽) | 大澤則夫(十勝) | 佐藤功(札幌) | 庄野一男(札幌) | 本間理恵(小樽) | 小笠原和枝(十勝) | 小平敬明(旭川) | 原晶子(夕張) | 筒井紀昭(道南) | 田中敏彦(留萌) | 高田光一(稚内) | 福田茂哉(稚内) |  |
|          |        |          |          |    |         |           |           |          |          |          |           |          |          |          |           |         |         |          |         |          |          |           |          |         |          |          |          |          |  |

平成17年度

平成18年度

浅見恭行(北見) 山中勝志郎(伊達) 河野正子(釧路) 斉藤英(浦河) 瀬戸洋明(室蘭) 橋本和弘(静室) 岡田均(根室) 吉田三枝子(江別) 野原寿二(旭川) 福原真理子(札幌) 岩崎真子(札幌) 鈴木啓三(札幌)

【青年部】 部長 五十嵐信康(釧路)

【全腎協派遣役員】 理事 栗山尚倫(釧路) 正会員 掛札聖(釧路)

【機関紙編集委員】 編集委員長 福原真理子(札幌) 編集委員 堀井和彦(札幌) 久原幸江(札幌) 三上留美子(札幌)

【道難病連派遣役員】 理事 北征子(小樽) 評議員 柳沼正一(札幌) 青柳正一(札幌) 小平敬明(旭川) 庄野一男(札幌)

事業資金委員 庄野一男(札幌)

川口松男(滝川) 浅見恭行(北見) 村田茂哉(稚内) 福田光一(紋別) 高田敏彦(留萌) 田中敏彦(留萌) 吉野美津留(岩見沢) 筒井紀昭(道南) 原晶子(夕張) 小平敬明(旭川) 小笠原和枝(十勝) 武田優子(小樽) 庄野一男(札幌) 佐藤功夫(札幌) 大澤則夫(十勝) 北征子(小樽) 水島裕(室蘭) 河内英樹(苦小牧) 山谷眞幸(道南) 近江谷守(旭川) 荳木芳三(札幌) 三上留美子(札幌) 堀井和彦(札幌) 柳沼正一(札幌) 山口信子(苦小牧) 掛札聖(釧路) 川村隆志(札幌)

会長 川村隆志(札幌) 副会長 掛札聖(釧路) 事務局長 柳沼正一(札幌) 會計 堀井和彦(札幌) 三上留美子(札幌) 運営委員 荳木芳三(札幌) 近江谷守(旭川) 山眞幸(道南) 河内英樹(苦小牧) 水島裕(室蘭) 北征子(小樽) 大澤則夫(十勝) 佐藤功夫(札幌) 庄野一男(札幌) 武田優子(小樽) 小笠原和枝(十勝) 小笠原和枝(十勝) 原晶子(夕張) 筒井紀昭(道南) 吉野美津留(岩見沢) 田中敏彦(留萌) 高田敏彦(留萌) 福田光一(紋別) 村田茂哉(稚内) 浅見恭行(北見) 川口松男(滝川)

山中勝志郎(伊達) 河野正子(釧路) 鳥羽勝子(浦河) 瀬戸洋明(室蘭) 橋本和弘(静室) 岡田均(根室) 吉田三枝子(江別) 野原寿二(旭川) 福原真理子(札幌) 岩崎真子(札幌) 鈴木啓三(札幌)

【青年部】 部長 阿部純一(士別)

【全腎協派遣役員】 理事 栗山尚倫(釧路) 正会員 掛札聖(釧路)

【機関紙編集委員】 編集委員長 福原真理子(札幌) 編集委員 堀井和彦(札幌) 久原幸江(札幌) 三上留美子(札幌)

【道難病連派遣役員】 理事 北征子(小樽) 評議員 柳沼正一(札幌) 小平敬明(旭川) 庄野一男(札幌)

事業資金委員 庄野一男(札幌)

平成19・20年度

会長 川村隆志(札幌)  
 副会長 掛札聖(釧路)  
 事務局長 柳沼正一(札幌)  
 会計 三上留美子(札幌)  
 運営委員 山谷眞幸(道南)  
 北谷征子(小樽)  
 水島裕(室蘭)  
 浅見恭行(北見)  
 大澤則夫(十勝)  
 庄野一男(札幌)  
 小平敬明(旭川)  
 佐藤功(札幌)  
 坂藤孝光(札幌)  
 武田優子(小樽)  
 小笠原和枝(十勝)  
 近江谷守(旭川)  
 堀川礼子(道南)  
 安田隆伸(苫小牧)  
 浦田光男(留萌)  
 高田光一(紋別)  
 福田茂哉(稚内)  
 村田豊(オホーツク)  
 永井勉(北見)  
 川口松男(滝川)  
 川本充(伊達)

河野正子(釧路)  
 鳥羽勝子(浦河)  
 福留夕起子(室蘭)  
 橋本和弘(静内)  
 石田廣治(根室)  
 吉野美津留(岩見沢)  
 吉田三枝子(江別)  
 野原寿二(札幌)  
 福原眞理子(札幌)  
 相談役 鈴木啓三(札幌)  
 堀井和彦(札幌)

**【青年部】**  
 部長 外川純也(札幌)

**【全腎協派遣役員】**  
 理事 栗山尚倫(釧路)  
 正会員 掛札聖(釧路)

**【道難病連派遣役員】**  
 理事 北征子(小樽)  
 評議員 柳沼正一(札幌)  
 堀井和彦(札幌)  
 小平敬明(旭川)

事業資金委員 苮木芳三(札幌)  
**【機関紙編集委員】**  
 編集委員長 福原眞理子(札幌)  
 編集委員 苮木芳三(札幌)  
 堀井和彦(札幌)  
 久原幸江(札幌)  
 三上留美子(札幌)

あ  
ゆ  
み

|                    |  |  |                      |                 |                                    |              |
|--------------------|--|--|----------------------|-----------------|------------------------------------|--------------|
| 1972年<br>(昭47年)    | 1971年<br>(昭46年)  | 1968年<br>(昭43年)                            | 1967年<br>(昭42年)      | 1956年<br>(昭31年) | 1954年<br>(昭29年)                    |              |
|                    |  | 9月<br><br>(北大で道内初の腎移植成功)                   |                      |                 |                                    | 道腎協30年のあゆみ   |
| 11月7日<br>第2次国会請願実施 | 6月25日<br>第2回全腎協総会(東京)<br>10月1日<br>身体障害者福祉法改正・腎機能障害者が内部障害者に含まれ更生医療適用(18歳未満育成医療) | 6月6日<br>全腎協結成総会(東京)<br>10月18日<br>第1次国会請願実施 | 12月<br><br>人工透析に健保適用 | 日本で初の腎移植        | 米ハーバード大で世界初の腎移植<br>東大で日本初の血液透析(臨床) | 国・全腎協・その他の動き |



|                         |   |   |
|-------------------------|---|---|
| <p>1973年<br/>(昭48年)</p> | <p>10月<br/>用)<br/>(北海道に於て重度身体障害者医療給付制度適</p>   | <p>3月23日 「腎移植普及会設立」<br/>4月25日 第3回全腎協総会(東京)<br/>10月1日 健康保険法改正される<br/>・家族7割給付<br/>・高額療養費制度新設<br/>12月7日 第3次国会請願実施</p>                    |
| <p>1974年<br/>(昭49年)</p> |   | <p>4月1日 小・中・高生の隔年検尿実施 血液代金の保険<br/>適用 腎機能障害者にも身体障害者雇用促進法<br/>を適用<br/>4月28日 第4回全腎協総会(神戸)<br/>5月8日 慢性腎炎難病に指定される<br/>12月13日 第4次国会請願実施</p> |
| <p>1975年<br/>(昭50年)</p> |   | <p>5月18日 第5回全腎協総会(岐阜)<br/>11月4日 第5次国会請願実施</p>   |
| <p>1976年<br/>(昭51年)</p> |   | <p>5月16日 第6回全腎協総会(東京)</p>   |
| <p>1977年<br/>(昭52年)</p> | <p>3月6日 道腎協結成準備会 腎移植の映画と講演会<br/>(札幌医師会館)<br/>10月1日 北海道腎臓病患者連絡協議会(道腎協)結成<br/>会長 細川哲夫氏(全道7ブロック)<br/>(「北海道腎移植をすすめる会」発足―北大泌尿器科)<br/>10月17日 道腎協北海道難病連に加盟</p> | <p>2月1日 第6次国会請願実施<br/>2月20日 日本で初めて腎移植女性出産<br/>4月1日 1歳6カ月児の検尿実施<br/>5月8日 第7回全腎協総会(京都)</p>  |

|                 |  |   |
|-----------------|--|---|
|                 | 道腎協 30 年のあゆみ   | 国・全腎協・その他の動き  |
| 1978年<br>(昭53年) | <p>3月5日 道腎協会議(札幌)</p> <p>3月14日 「どうじん」創刊号発行</p> <p>3月25日 全道一斉街頭署名活動</p> <p>6月18日 第1回道腎協定期総会(札幌)</p> <p>7月10日 道内透析患者の実態調査</p> <p>11月7日 道に道東3地区より通院交通費助成の請願書</p> <p>11月24日 道内の通院交通費実態調査実施</p> <p>12月23日 (道、道東3地区からの「通院交通費助成請願採択」)</p> | <p>1月31日 第7次国会請願実施</p> <p>2月1日 医療費改定(透析医療費実質的引下げ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間透析加算・腎移植健保適用</li> <li>・透析に時間制導入</li> <li>・給食費の保険適用</li> </ul> <p>4月1日 家庭婦人の検尿体制発足</p> <p>4月2日 「ゆたかな医療と福祉をめざす全国患者・家族集会」開催</p> <p>5月14日 第8回全腎協総会(名古屋)</p> |
| 1979年<br>(昭54年) | <p>6月17日 第2回道腎協定期総会(札幌)</p> <p>腎移植に関する講演会</p> <p>6月 (通院交通費知事査定で削られる)</p> <p>10月10日 「どうじん」2号発行</p> <p>10月17日 通院交通費で三者会談(全道労協・難病連・道腎協)</p> <p>11月28日 通院交通費で記者クラブ会見</p> <p>12月2日 通院交通費で全道決起集会</p> <p>12月4日 通院交通費で要望書提出</p>            | <p>1月30日 第8次国会請願実施</p> <p>3月31日 内部障害者に乗用車の物品税免除適用</p> <p>4月1日 腎臓移植手術に更生医療適用 小・中学生毎年検尿義務化 国立佐倉病院腎移植センターオープン</p> <p>5月20日 第9回全腎協総会(広島)</p> <p>12月11日 角膜及び腎臓の移植に関する法律成立</p>  |
| 1980年<br>(昭55年) | <p>5月2日 健保改悪阻止ハガキ行動</p> <p>6月15日 「北海道透析白書」完成</p> <p>6月29日 第3回道腎協定期総会(札幌)</p> <p>会長 岩崎薫氏就任</p> <p>7月1日 (道が腎機能障害者通院交通費補助事業実施)</p>  | <p>2月5日 第9次国会請願実施</p> <p>5月18日 第10回全腎協総会(福岡)</p>  |

|   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| <p>1983年<br/>(昭58年)</p>   | <p>1982年<br/>(昭57年)</p>   | <p>1981年<br/>(昭56年)</p>  | <p>1980年<br/>(昭55年)</p>   |
| <p>1月1日 「どうじん」第5号発行<br/>1月30日 道腎協会員1千名を超える<br/>6月1日 「どうじん」第6号発行<br/>6月7日 道に腎移植センターの設置を要望<br/>7月3日 第6回道腎協定期総会(札幌)<br/>9月18日 第3回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> | <p>5月29日 第5回道腎協定期総会(札幌)<br/>5月30日 道腎協5周年記念講演会<br/>8月1日 「どうじん」4号発行<br/>9月19日 第2回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン<br/>9月22日 (道内初のUS腎移植成功)<br/>11月 道に「腎疾患対策委員会」の設置を要望<br/>12月3日 道議会6項目請願署名(1万364名)<br/>12月30日 (初の道内透析者より角膜移植)</p> | <p>2月3日 国会請願参加<br/>5月23日 第4回道腎協定期総会(旭川)<br/>5月24日 「腎不全を考える集い」旭川大会開催<br/>11月8日 第1回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン実施</p>   | <p>9月14日 腎移植プロジェクト会議開催<br/>10月1日 「どうじん」3号発行<br/>12月8日 道腎協事務局長 留目英生氏死去</p> |
| <p>2月1日 老人保健法スタート<br/>2月2日 医療費改定で透析医療費再引き下げ<br/>2月2日 第12次国会請願実施<br/>2月3日 CAPD液薬価基準収載<br/>5月10日 神奈川県腎友会が全腎協から退会を通告<br/>5月15日 第13回全腎協総会(宮城)</p>       | <p>2月2日 第11次国会請願実施<br/>5月16日 第12回全腎協総会(大阪)<br/>8月5日 国民年金法改正案成立<br/>8月17日 老人保健法成立(昭58年2月1日実施)<br/>9月19日 第2回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン<br/>12月2日 全腎協厚生省に医療費改正で7項目を要求</p>   | <p>1月1日 国際障害者年スタート<br/>2月3日 第10次国会請願実施<br/>6月1日 透析医療費再引下げ・腎提供者にも健保適用<br/>6月7日 第11回全腎協総会(東京)<br/>7月10日 第2臨調第1次答申「医療・福祉の抑制策」打ち出す<br/>11月8日 第1回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン(全腎協)</p> |   |

|                 |   |  |
|-----------------|---|--|
|                 | 道腎協 30年のあゆみ   | 国・全腎協・その他の動き   |
| 1983年<br>(昭58年) | <p>9月19日 自民党道支部に腎移植センター設置を要望</p> <p>10月29日 東北ブロック会議に初参加</p> <p>11月1日 「どうじん」第7号発行 健保改悪にハガキで抗議運動</p>  | <p>9月18日 第3回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> <p>11月28日 厚生省「年金制度改革案」を諮問</p> <p>12月24日 連絡会「健保改悪に反対する全国決起集会」</p>   |
| 1984年<br>(昭59年) | <p>2月2日 国会請願参加</p> <p>3月25日 「どうじん」第8号発行</p> <p>5月28日 (北海道腎バンク発足)</p> <p>6月10日 第7回道腎協定期総会(札幌)</p> <p>7月10日 「どうじん」第9号発行 腎提供拡大広報誌掲載活動</p> <p>7月 道に重度身体障害者医療給付制度</p> <p>7月24日 腎提供登録者拡大全道1周キャラバン隊出発(2,000キロ走破)</p> <p>9月16日 第4回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> <p>10月1日 道、人工透析と血友病の限度額1万円に<sup>㊟</sup>を適用</p> <p>11月1日 (北海道腎移植センター、市立札幌病院に開設)</p> <p>11月11日 腎臓病に関するシンポジウム開催</p> <p>12月20日 「どうじん」第10号発行</p> | <p>2月2日 第13次国会請願実施</p> <p>3月1日 医療費改定で透析医療費再び引き下げ</p> <p>3月20日 CAPD在宅でも健保適用</p> <p>3月20日 全腎協災害対策マニュアル「どうする災害時」作成</p> <p>5月20日 第14回全腎協総会(静岡)</p> <p>7月30日 「ゆたかな……患者、家族」連絡会「健保改悪反対」で社会労働委員会に要請</p> <p>8月7日 健康保険法成立(10月1日実施) ・健保本人の給付率引き下げ(10割↓8割) ・高額療養費の中の長期高額疾病に人工透析、血友病が指定され限度額1万円となる</p> <p>9月16日 第4回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> <p>10月1日 身体障害者福祉法改正</p> <p>12月6日 警察庁に「腎バンク登録者拡大について」要請</p> |
| 1985年<br>(昭60年) | <p>2月7日 国会請願参加</p> <p>5月1日 「どうじん」第11号発行</p> <p>5月25日 専門委員会制発足</p>   | <p>2月7日 第14次国会請願実施</p>   |

| 1985年<br>(昭和60年)  | 1986年<br>(昭和61年)  |
|---|---|
| <p>5月26日 第8回道腎協定期総会(札幌)</p> <p>6月16日 全道一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> <p>9月22日 第5回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> <p>10月27日 初の腎疾患総合対策シンポジウム開催</p> <p>11月1日 道内患者の実態調査実施</p>   | <p>2月6日 国会請願参加</p> <p>2月25日 医療関係者との懇談会(札幌)</p> <p>3月1日 「どうじん」第12号発行</p> <p>3月 知事候補に公開質問状</p> <p>5月1日 「どうじん」第13号発行</p> <p>5月25日 第9回道腎協定期総会(札幌)</p> <p>5月27日 前会長細川哲男氏死去</p> <p>6月15日 全道一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> <p>8月10日 「どうじん」第14号発行</p> <p>10月5日 第6回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p>                  |
| <p>3月1日 医療費改定(透析医療費引き下げ)・腎関係の診療報酬点数時間区分2段階に</p> <p>3月12日 「ゆたかな：患者、家族」連絡会、医療と生活の保障を求め国会請願</p> <p>4月15日 全腎協マニユアル「なぜ今腎疾患総合対策なのか」作成</p> <p>4月24日 「国民年金」「厚生年金」法改正(61年4月実施)</p> <p>5月19日 第15回全腎協総会(岡山)</p> <p>6月11日 小児腎炎の研究班発足</p> <p>7月1日 厚生年金、障害年金の事後重症制度5年制限を廃止</p> <p>9月22日 第5回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> <p>12月6日 厚生省「脳死に関する研究班」判定基準をまとめる</p> | <p>2月6日 第15次国会請願実施</p> <p>2月28日 「ゆたかな：患者、家族」連絡会、全日空と道路公団に身障者割引適用要請</p> <p>4月1日 医療費改定(透析点数引き下げ)CAPD加温器給付 新年金法施行(基礎年金制度導入)</p> <p>5月16日 第16回全腎協総会(東京)</p> <p>6月1日 老人医療一部負担金上がる</p> <p>7月17日 児童扶養手当問題で厚生省に全腎協申し入れ</p> <p>10月 厚生省毎年10月を腎移植推進月間として施行</p> <p>10月5日 第6回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン</p> |

|                 | 道腎協 30年のあゆみ  | 国・全腎協・その他の動き  |
|-----------------|--|---|
| 1987年<br>(昭62年) | 2月10日 国会請願参加<br>3月10日 「どうじん」第15号発行(道内患者実態調査報告集)<br>3月31日 道腎協会員1800名を超える<br>5月10日 「どうじん」第16号発行<br>5月31日 第10回道腎協定期総会(札幌)<br>10月4日 第7回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン<br>11月10日 「どうじん」第17号発行<br>11月29日 JRなど運賃割引で運輸建設両省に陳情<br>12月5日 国際障害者年日本推進協議会「国民会議'87」(6日まで)<br>12月30日 10周年記念誌「どうじん」発行 | 2月10日 第16次国会請願実施<br>3月 15周年事業として「実態調査報告書」「福祉制度のしおり」(改定版)発行<br>5月24日 第17回全腎協総会(新潟)<br>5月27日 臨床工学技士法成立<br>7月 「献腎」テレフォンカード製作販売<br>9月2日 JR・航空運賃割引で全腎協国会請願<br>10月4日 第7回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン<br>10月29日 日本腎臓学会が「腎炎ネフローゼ患者の生活指導指針」をまとめる<br>11月4日 身体障害者実態調査結果概要発表(身体障害者241万人)<br>12月22日 運賃割引でJR四国に陳情<br>12月28日 88年度政府予算案決定 ①腎不全予防対策費②都道府県腎移植推進情報センター連絡会経費③同オンラインシステム開発費 |
| 1988年<br>(昭63年) | 1月10日 「どうじん」18号発行<br>1月28日 道透析医会に転院問題で要望書提出<br>2月2日 JR、航空、有料道路料金割引についての請願署名展開・道議会請願、藤井議長に2万名分を超える署名提出、JR運賃等内部障害者に適用するよう要望・江差、羽幌、中標津に透析病院の実現を要請   | 1月12日 日医生命倫理懇談会、最終報告書で脳死、臓器移植認める<br>1月19日 運賃割引でJR東日本に陳情<br>1月29日 運賃割引でJR西日本に陳情<br>2月2日 運賃割引でJR北海道に陳情<br>2月12日 運賃割引でJR九州に陳情<br>小児腎疾患研究班シンポジウム<br>2月16日 第17次国会請願  |

| 1988年<br>(昭和63年) |   |
|------------------|---|
| 2月16日            | 国会請願行動、道からも3名参加   |
| 3月10日            | 「どうじん」19号発行   |
| 4月               | 道腎協10周年記念の会旗完成  |
| 5月10日            | 「どうじん」10周年記念20号発行   |
| 5月22日            | 10周年記念第11回道腎協定期総会（道庁別館地下ホール250名の参加）   |
| 6月29日            | 10年表彰、透析医療功労者感謝状49名に 記念特別講演太田和夫教授<br>道議会で岩崎会長が身障者運賃割引請願書の趣旨説明   |
| 8月8日             | 事務局長中村信夫氏死去<br>JR運賃等割引制度導入請願が道議会で採択される  |
| 8月10日            | 「どうじん」21号発行   |
| 10月9日            | 第8回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン全道で約400名の会員が参加・臓器移植推進請願署名6,085名、国会請願署名1万8,160名、110万184円の募金、JPC分は、署名7,579名分、16万9,205円の募金 |
| 10月29日           | 第25回ブロック会議  |
| 10月30日           | 医療講演会   |
| 12月6日            | 道腎協で初めてのハワイツアーを実施、大好評（13日まで）  |
| 12月10日           | 「どうじん」22号発行   |
| 2月24日            | JPC、運賃割引で運輸省に陳情   |
| 2月25日            | 診療報酬改定（人工臓器の水処理加算を新設、移植点数増額）  |
| 3月1日             | JPCが運賃割引で国会請願実施（不採択）  |
| 3月18日            | 運賃割引でJR東海に陳情  |
| 4月1日             | マル優廃止   |
| 5月15日            | 第18回全腎協総会（熊本）   |
| 5月26日            | 89年度予算で厚生省に陳情   |
| 7月6日             | 「全腎協」100号記念発行   |
| 7月13日            | フィリピン生体移植問題で会長談話発表  |
| 9月7日             | 腎不全対策推進会議が「当面緊急に対応すべき腎不全対策」を厚生省・保健医療局長に報告   |
| 9月8日             | 「臓器移植の促進に関する請願」実施（不採択）  |
| 10月1日            | 厚生省が腎移植推進月間（31日まで）  |
| 10月9日            | 第8回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン  |
| 10月25日           | 厚生省、労働省が「長寿・福祉社会を実現するための施策の基本的考え方と目標について」<br>「長期プラン」を発表   |
| 11月6日            | 腎バンク全国に17カ所に、腎バンク登録者数21万人を超える、臨床工学技師試験初めて実施   |
| 12月1日            | 「脳死・臓器移植」に関する会員意識調査実施   |
| 12月7日            | 「脳死臨調」設置法案、自民党・調査会がまとめる   |



|                        | 道腎協 30年のあゆみ  | 国・全腎協・その他の動き  |
|------------------------|--|---|
| 1989年<br>(昭64年<br>平元年) | <p>3月10日 「どうじん」 23号発行</p> <p>3月30日 国会請願参加</p> <p>4月8日 第26回ブロック会議(9日まで)</p> <p>4月11日 沖繩旅行に30名参加元気に珍道中出発</p> <p>5月10日 「どうじん」 24号発行</p> <p>5月28日 第12回道腎協定期総会・医療講演会(北農健保会館)</p> <p>6月10日 「どうじん」 25号発行</p> <p>6月29日 JR北海道本社に請願行動、割引早期実現の要望(役員5名)</p> <p>9月10日 「どうじん」 26号発行</p> <p>9月17日 第27回ブロック会議</p> <p>ブロック会議において全腎協の分担金、値上げを合意、これにより50円アップされることになる</p> <p>9月18日 第1回役員研修会</p> <p>10月8日 第9回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン</p> <p>12月10日 「どうじん」 27号発行</p> | <p>1月24日 89年度政府予算案決定(国立佐倉病院の臨床研究部の設置、腎不全医療研究費) 腎臓に関する予算は2億4,700万円</p> <p>2月1日 臨時福祉特別給付金支給</p> <p>3月30日 第18回国会請願実施</p> <p>福祉関係三審議会合同企画分科会が「今後の社会福祉のあり方」を意見具申</p> <p>4月1日 消費税3%導入</p> <p>5月1日 「患者サービスの在り方に関する懇談会」(厚生省)が提言</p> <p>5月11日 JRなど運賃割引で運輸省に申し入れ</p> <p>5月21日 JRなど運賃割引で運輸省に申し入れ</p> <p>5月21日 第19回全腎協総会(埼玉)</p> <p>6月1日 90年度予算で厚生省に陳情 高額医療費の自己負担限度額が5万7千円に引きあげ、特定疾病は据え置き</p> <p>7月11日 血液が不適合の人同士でやりとりする腎臓移植の成功が全国で相次ぐ</p> <p>7月17日 大蔵省に陳情(自動車購入時の消費税免税)</p> <p>9月 脳死の患者を抱えた家族に臓器提供の依頼をしたり、救急病院と移植病院との橋渡しをする「移植コーディネーター」を21国立病院に配置</p> <p>10月1日 厚生省が腎移植推進月間(31日まで)</p> <p>10月7日 厚生省が腎移植推進国民大会(京都)、全腎協に大臣感謝状が贈られる</p> <p>10月8日 全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン</p> |

| 1989年<br>（昭和64年<br>平元年）   | 1990年<br>（平2年）   |
|---|--|
| <p>11月13日 市立札幌病院腎移植センターは、心臓死患者から取り出した腎臓を他の2人の腎臓病患者に同時移植することに成功。心臓死者からの腎移植は道内で9年ぶり3例目</p> <p>11月14日 J R 割引制度実現。来年2月からと運輸大臣発表</p> <p>12月1日 「脳死臨調」設置法案が成立</p> <p>12月5日 厚生省に陳情（エリスロポエチンの早期認可など）</p> <p>12月14日 国民年金等を一部改正する法律が成立 ①学生<br/>の強制適用②完全自動物価スライド制の導入③<br/>保険料のアップなど</p> <p>12月20日 中央薬事審議会がエリスロポエチンの製造承認<br/>を答申 J R 6社が身体障害者運賃割引に内部<br/>障害者を含める認可申請</p> <p>12月21日 「高齢者保健福祉10カ年計画」（ゴールドプラ<br/>ン）を発表、在宅推進を強化</p> <p>12月29日 90年度政府予算案を決定（腎移植推進員等設置<br/>費、摘出協力病院経費、都道府県腎移植推進・<br/>情報センター経費などが新規事業）</p> <p>12月31日 全国腎バンク登録者数24万8,022人となる</p> | <p>3月10日 「どうじん」28号発行</p> <p>4月7日 第28回ブロック会議〜札幌難病センターにて、<br/>30名（8日まで）</p> <p>4月12日 国会請願参加</p> <p>5月10日 「どうじん」29号発行</p> <p>5月18日 道腎協主催、四国一周の旅実施〜37名参加</p> |
| <p>11月13日 市立札幌病院腎移植センターは、心臓死患者から取り出した腎臓を他の2人の腎臓病患者に同時移植することに成功。心臓死者からの腎移植は道内で9年ぶり3例目</p> <p>11月14日 J R 割引制度実現。来年2月からと運輸大臣発表</p> <p>12月1日 「脳死臨調」設置法案が成立</p> <p>12月5日 厚生省に陳情（エリスロポエチンの早期認可など）</p> <p>12月14日 国民年金等を一部改正する法律が成立 ①学生<br/>の強制適用②完全自動物価スライド制の導入③<br/>保険料のアップなど</p> <p>12月20日 中央薬事審議会がエリスロポエチンの製造承認<br/>を答申 J R 6社が身体障害者運賃割引に内部<br/>障害者を含める認可申請</p> <p>12月21日 「高齢者保健福祉10カ年計画」（ゴールドプラ<br/>ン）を発表、在宅推進を強化</p> <p>12月29日 90年度政府予算案を決定（腎移植推進員等設置<br/>費、摘出協力病院経費、都道府県腎移植推進・<br/>情報センター経費などが新規事業）</p> <p>12月31日 全国腎バンク登録者数24万8,022人となる</p> | <p>1月31日 小児慢性腎疾患研究班がシンポジウム（1日ま<br/>で）</p> <p>2月1日 J R などの運賃割引が内部障害者にも適用<br/>脳死臨調が初会合</p> <p>2月23日 診療報酬改定（透析の休日加算を新設、食事加<br/>算が10円アップ、老人医療に定額払い制導入）</p>   |

|                |   |   |
|----------------|---|---|
|                | 道腎協 30年のあゆみ   | 国・全腎協・その他の動き  |
| 1990年<br>(平2年) | <p>5月27日 第13回道腎協定期総会（北農健保会館）<br/>医療講演会（札幌）</p> <p>6月10日 「どうじん」 30号発行</p> <p>9月10日 「どうじん」 31号発行</p> <p>10月7日 第10回腎バンク登録拡大街頭キャンペーン全道各地で展開</p> <p>10月27日 第29回ブロック会議（北農健保会館）</p> <p>10月28日 文化講演会</p> <p>12月10日 「どうじん」 32号発行</p> <p>12月18日 道立羽幌病院に透析施設設置、人工透析治療始まる</p> | <p>3月10日 第58回定例幹事会にて分担金引き上げを承認</p> <p>4月1日 初の組織強化月間</p> <p>4月12日 第19次全国会請願実施</p> <p>5月20日 第20回全腎協総会（愛媛）</p> <p>6月22日 福祉八法改正案成立</p> <p>8月5日 昨年に続き死体腎移植く市立札幌病院で33歳の男性へ</p> <p>9月23日 要介護者問題対策委員会を設置</p> <p>10月1日 厚生省が腎移植推進月間、世帯更生資金が貸付対象を拡大し「生活福祉資金」と改称</p> <p>10月7日 第10回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン</p> <p>11月1日 「有料道路料金身体障害者割り引きの内部障害者への適用拡大に関する」国会請願（不採択）</p> <p>11月17日 雲仙普賢岳噴火活動開始</p> <p>11月26日 厚生省健康政策局長宛に医療法「改正」に関する公開質問状「『医療法一部の改正』に関する質問」を提出</p> <p>12月8日 韓国腎臓植協会との交流のため全腎協代表が訪韓（11日まで）</p> <p>12月29日 全腎協バッジ作成、販売開始<br/>91年度予算政府案決定<br/>（ゴールドプラン推進予算、医療保険高額療養費制度自己負担限度額引き上げ、腎対策に新規事業なし）</p> |

| 1991年<br>(平3年) |  |
|----------------|--|
| 1月17日          | 北海道腎バンクへ臓器移植募金箱より5万円を寄付  |
| 1月31日          | 運転免許試験場(道内6カ所)への腎登録カード設置が実現  |
| 3月10日          | 「どうじん」33号発行  |
| 3月26日          | 国会請願参加   |
| 4月13日          | 第30回ブロック会議・専門委員会(14日まで)  |
| 4月             | 富良野協会病院透析施設設置  |
| 5月10日          | 「どうじん」34号発行 「どうじん」臨時号発行(P.R版)  |
| 6月2日           | 第14回道腎協定期総会(北農健保会館)<br>医療講演会(札幌)   |
| 6月10日          | 「どうじん」35号発行  |
| 7月27日          | 難病連全道集会出现(28日まで)   |
| 8月24日          | 第22回全腎協総会北海道大会実行委員会(札幌40名(25日まで))  |
| 9月10日          | 「どうじん」36号発行  |
| 10月6日          | 第11回全国一斉腎提供拡大街頭キャンペーン  |
| 11月9日          | 第31回ブロック会議32名参加(10日まで)   |
| 12月10日         | 「どうじん」37号発行  |
| 1月6日           | 要介護者問題対策委員会が中間報告を提出  |
| 1月21日          | 医療法「改正」についての全腎協公開質問状に<br>対して厚生省が回答   |
| 3月             | 20周年記念誌「歩みとどまらず」発行   |
| 3月26日          | 第20回国会請願実施   |
| 4月1日           | 組織強化月間   |
| 5月6日           | 会報「全腎協」カラー化実施  |
| 5月8日           | 第120回通常国会で社会労働委員会が厚生委員会と労働委員会に分離されることが決まる                                    |
| 5月25日          | 20周年感謝の集い  |
| 5月26日          | 結成20周年記念第21回全腎協総会<br>20周年記念行事  |
| 6月1日           | 要介護者問題対策委員会が実態調査<br>・ケーススタディ開始   |
| 6月3日           | 雲仙普賢岳に大火砕流発生、会員宅に被害  |
| 6月27日          | 長崎・雲仙普賢岳噴火災害で現地調査(28日まで)<br>雲仙普賢岳噴火非常災害対策本部・長崎県知事宛に「透析患者の治療と生活保障についての要望書」を提出 |
| 6月29日          | 雲仙普賢岳被災者救済カンパを全国の会員に呼びかける(全腎協1,700万円カンパ)                                     |
| 7月15日          | 北海道臓器移植連絡協議会を結成  |
| 7月18日          | 厚生省、社会保険庁に障害年金制度の改善要求を求める陳情  |
| 7月20日          | 県立宮崎病院で精神障害者の透析が拒否され、死亡する事件が発生   |
| 7月22日          | 精神障害者の透析拒否で会長表明を発表   |

| 1991年<br>(平3年) | 道腎協30年のあゆみ   | 国・全腎協・その他の動き  |
|----------------|--|---|
| 1992年<br>(平4年) | 3月10日 「どうじん」38号発行<br>3月26日 国会請願参加<br>4月25日 第32回ブロック会議(26日まで) | 7月31日 中央心身障害者対策協議会が「国連・障害者の10年」最終年で首相に意見具申<br>8月9日 「脳死臨調」が東京で初めて公聴会を開催<br>9月6日 20周年記念ビデオ「歩みとどまらず」完成<br>9月11日 JRなど身体障害者運賃割り引き制度が精神障害者に対象拡大<br>9月12日 老人保健法「改正」案が成立(患者一部負担の引き上げ、スライド制の導入、老人保健施設療養費の公費負担の引き上げ、訪問看護制度の創設)<br>10月1日 腎不全患者アンケート(実態調査)開始<br>10月3日 公益法人化検討委員会発足<br>10月6日 第11回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン<br>10月26日 全腎協事務局移転(東京・豊島区へ)日本腎移植者協議会結成<br>11月6日 先の臨時国会で老人保健法の改正案が成立。現行入院時4000円を来年1月から6000円。93年度から7000円、現行通院月8000円を、93年度から1,0000円に<br>11月9日 要介護者問題対策委員会が最終報告を提出<br>1月22日 「脳死臨調」最終答申で脳死の臓器移植を容認<br>3月6日 全腎協公益法人化をめざし検討委員会を設置<br>3月20日 全腎協20周年記念誌「歩みとどまらず」完成 |

| 1992年<br>(平4年)   | 1993年<br>(平5年)  |
|--|---|
| <p>5月24日 第22回全腎協総会が札幌市で開催</p> <p>6月10日 「どうじん」39号発行</p> <p>7月19日 第15回道腎協定期総会（札幌） 医療講演会</p> <p>8月10日 「どうじん」40号発行</p> <p>10月4日 第12回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン</p> <p>10月10日 「どうじん」41号発行</p> <p>10月24日 第33回ブロック会議（25日まで）</p> <p>3月26日 第21次国会請願実施（80万人署名） 有料道路割引でも請願</p> <p>4月1日 医療費改定で透析患者の血液検査等に定額制を導入（1月に1回を限度とし算定）</p> <p>5月24日 第22回全腎協総会が札幌で開催（参加1,117名）前日、定山溪で636名の交流会</p> <p>5月28日 透析患者の検査の定額化が一部改善（合併症患者などに対応）</p> <p>8月25日 自民党綿貫幹事長、帯広で暴言「人工透析やらないだけでもお国のため」に全腎協抗議文</p> <p>10月3日 第12回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン「脳死と移植と患者と」と題し神戸でシンポジウム</p> <p>10月4日 第12回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン</p> <p>11月7日 スペインで国際シンポジウム</p> <p>12月 全国の腎友会では、地元選出国会議員に対し「臓器移植法案」の早期成立を促す要請</p> <p>12月10日 要介護透析患者対策の早期着手について、全腎協は厚生省に対し陳情</p> | <p>2月10日 「どうじん」42号発行</p> <p>3月25日 国会請願参加</p> <p>3月30日 国会請願署名過去最高2万6,131名分</p> <p>北海道腎バンクに臓器移植基金募金箱から15万円寄付</p> <p>4月24日 第34回ブロック会議（25日まで）</p> <p>5月10日 「どうじん」43号発行</p> <p>1月22日 腎臓移植普及会が、20周年を迎え祝賀会</p> <p>1月23日 全腎協と愛知県腎協が、名古屋において要介護透析者対策についてのシンポジウムを開催</p> <p>2月5日 医療法改正の診療報酬決まる「特定機能病院」と「療養型病床群」にわけ、格差をつけた</p> <p>3月25日 第22次国会請願実施、過去最高の85万人分の署名を持って161名が参加</p> |

|                | 道腎協 30年のあゆみ  | 国・全腎協・その他の動き  |
|----------------|--|---|
| 1993年<br>(平5年) | <p>5月29日 第23回全腎協総会(滋賀) 道腎協からも45名参加(30日まで)</p> <p>6月6日 第16回道腎協定期総会・医療講演会(札幌)</p> <p>6月10日 「どうじん」44号発行</p> <p>7月12日 北海道南西沖地震発生、会員への被害なし</p> <p>8月1日 運転免許試験場での腎提供登録カード設置が札幌手稲運転免許試験場で許可された</p> <p>9月10日 「どうじん」45号発行</p> <p>10月10日 第13回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン</p> <p>10月15日 札幌地下街において腎登録啓発パネル展を開き</p> <p>10月21日 キャンペーン(17日まで)</p> <p>厚生大臣より道腎協に対して業績を認定され、感謝状</p> <p>10月28日 健康保険制度改悪反対JPC署名く1万6、294名分</p> <p>10月30日 第35回ブロック会議(31日まで)</p> <p>11月15日 社会保障・医療の後退反対集会く東京、広岡副会長参加</p> <p>12月10日 「どうじん」46号発行</p> | <p>4月1日 福祉八法の改悪により、福祉行政の権限が従来の都道府県から市町村に移行</p> <p>5月30日 第23回全腎協総会(滋賀)</p> <p>6月3日 厚生省への陳情行動、要介護対策の緊急性を訴える</p> <p>7月1日 厚生省は難病対策見直し専門委員会を設置</p> <p>7月18日 日本透析療法学会は透析患者が12万3、926名と発表。前年より7、623名の増加</p> <p>7月22日 透析を理由に解雇された長野県のタクシー運転手「川野さん」長野地裁に提訴</p> <p>9月6日 医療保健審議会は給食代などの患者負担を6月23日に発表。これに対し反対はがき送付、反対署名運動を展開</p> <p>9月24日 中央社会保険医療協議会の診療報酬基本問題小委員会は、包括化払い方式を容認する報告書を提出</p> <p>9月30日 健康保険法・年金問題について改悪絶対反対の要望を申し入れ</p> <p>10月8日 難病対策20周年記念シンポジウム</p> <p>10月10日 第13回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン</p> <p>10月12日 老齢年金65歳支給く年金審議会が意見書提出</p> <p>11月15日 「健保改悪を許さない患者・家族大行動」</p> <p>11月25日 各党協議会は移植要綱を作成</p> |



| 1993年<br>(平5年) |   | 12月8日<br>医療保険審議会が入院給食費患者負担を厚生大臣に提出、1日800円負担となる見込み<br>障害者基本法の成立(23年ぶりに改定)  |
|----------------|---|---|
| 1994年<br>(平6年) | <p>1月 第23回国会請願署名く2万6、254名分<br/>3月10日 「どうじん」47号発行 「どうじん」臨時号発行<br/>3月29日 北海道腎バンクに臓器移植募金箱から10万円の寄付<br/>3月31日 道内の会員数2、813名、135名増加<br/>国会請願参加<br/>4月23日 第36回ブロック会議(24日まで)<br/>5月10日 「どうじん」48号発行<br/>6月5日 第17回道腎協定期総会(室蘭) 医療講演会<br/>6月6日 道腎協結成15周年記念シンポジウム<br/>6月10日 「どうじん」49号発行<br/>9月10日 「どうじん」50号発行<br/>9月11日 全道一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン<br/>10月1日 入院給食費自己負担(1日600円)開始。更生医療指定外施設に入院した場合は全額自己負担<br/>10月2日 全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン<br/>10月15日 第37回ブロック会議(16日まで) 札幌地下街において腎登録啓発パネル展示(16日まで)<br/>12月10日 「どうじん」51号発行</p> | <p>1月18日 全腎協法人化について厚生省と折衝<br/>1月25日 臓器移植法案国会提出へ通常国会に条件つきで<br/>2月18日 厚生省が入院給食費の患者負担を1日800円、低所得者で660円とすることを決定<br/>2月23日 人工腎臓技術料包括化く1回の透析2万1千円<br/>3月18日 厚生省年金法案の改正案国会提出く支給年齢60歳から65歳へ<br/>3月22日 入院給食費の患者負担導入をめざす健保法案国会へ提出される<br/>3月31日 第23回国会請願行動、93万の署名が177名の仲間の手によって国会の場合へ<br/>4月1日 HDF(血液透析ろ過)が初めて保険に加えられた<br/>5月22日 第24回全腎協総会(千葉)<br/>6月6日 健保改悪法案阻止の座り込みく衆議院議員第一議員会館前で<br/>6月17日 健保法案共産党の反対以外、各党の賛成で可決成立、これにより入院給食費1日600円<br/>9月く10月 東京の西新宿診療所で透析患者4名が劇症肝炎になり相次いで死亡<br/>10月1日 有料道路の料金割引制度が内部障害者にも適用(半額)<br/>10月2日 全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン</p> |

|  | 1994年<br>(平6年) | 1995年<br>(平7年)   | 道腎協30年のあゆみ | 12月<br>全国透析患者数14万3、709名、そのうち会<br>員7万7千人、組織率約50%あまり<br>厚生省は、高齢者介護支援システム研究会を設<br>置  | 国・全腎協・その他の動き |  |
|--|----------------|--|------------|---|--------------|--|
|  |                | 3月10日 「どうじん」52号発行<br>3月30日 北海道腎バンクに平成6年度分の募金箱より6<br>万8、218円寄付<br>国会請願参加<br>4月20日 第38回ブロック会議(21日まで)<br>5月10日 「どうじん」53号発行<br>6月4日 第18回道腎協定期総会(釧路) 医療講演会<br>7月22日 20周年記念事業第1回実行委員会<br>7月30日 難病連全道集會腎臓病部会<br>医療講演(札幌)<br>8月24日 入院給食費自己負担の医療助成について陳情行<br>動<br>8月27日 札幌腎友会と共催でSTV24時間チャリティに<br>参加し、腎キャンペーンを兼ねた初の試み<br>9月7日 札幌地下街において腎登録啓発パネル展示(80<br>名の腎登録者を得る(10日まで))<br>9月10日 第15回全道一斉腎提供登録拡大街頭キャンペ<br>ーン<br>10月21日 「どうじん」55号発行<br>第39回ブロック会議(22日まで) |            | 1月17日 阪神大震災発生・死者5千人を大幅に超える、<br>その内透析患者20名死亡・840人余りが臨時<br>透析<br>3月6日 高齢者介護自立支援：研究会が報告書を提出し<br>公的介護保険の導入を提言<br>3月29日 昨年の劇症肝炎事件は院内感染と判明<br>3月30日 第24回国会請願実施、92万2、586名分の署<br>名を持って166人が参加<br>4月 国立佐倉病院を中心に新腎移植ネットワークシ<br>ステムが稼動。移植システムスピード化<br>5月21日 第25回全腎協総会(宮崎)<br>5月25日 透析診療報酬に5時間枠要求し厚生省交渉<br>6月13日 臓器移植法案または継続審議に<br>7月15日 日本腎臓移植ネットワーク東北北海道ブロック<br>センター発足<br>9月17日 災害時の透析確保に向け全腎協がシンポジウム<br>開催(岩手と共催)<br>9月 透析医療の定額制度撤廃の要望し透析医会、厚<br>生省などに要望提出 |              |  |

| 1995年<br>(平7年)  | 1996年<br>(平8年)  |
|---|---|
| <p>12月10日 「どうじん」 56号発行</p>  | <p>2月25日 国会請願署名活動、3万2、344名分(過去最高)</p> <p>3月10日 「どうじん」 57号発行</p> <p>3月28日 国会請願参加</p> <p>4月20日 第40回ブロック会議(21日まで)</p> <p>5月10日 「どうじん」 58号発行</p> <p>5月26日 第19回道腎協定期総会(函館) 医療講演会</p> <p>6月10日 「どうじん」 59号発行</p> <p>8月4日 難病連全道集會腎臓病部会</p> <p>医療講演会(北見)</p> <p>9月8日 全道一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン</p> <p>9月10日 「どうじん」 60号発行</p> <p>9月15日 シンポジウム開催</p> <p>10月26日 第41回ブロック会議(27日まで)</p> <p>12月10日 「どうじん」 61号発行</p>          |
| <p>10月8日 第15回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン</p> <p>11月1日 移植法案で初の地方公聴会、衆議院厚生委員会は名古屋で実態調査</p> <p>11月11日 全腎協が災害マニュアルを作成、全国に配布</p> <p>JPC全国交流集会で、介護保険構想に真っ向から反対</p> <p>政府の障害者対策推進本部は「障害プラン」ノーマライゼーション7カ年戦略」を策定</p> <p>12月18日</p> | <p>1月23日 日本腎移植ネットワークの登録データの不備が発覚</p> <p>1月31日 老人保険福祉審議会が介護保険2次報告書提出</p> <p>介護保険対象は65歳以上</p> <p>3月28日 第25次国会請願実施、95万の署名、155人の代表とともに国会議員へ</p> <p>4月1日 これまで4時間を境に2段階とされてきた透析診療報酬に「5時間以上」が追加された</p> <p>4月2日 臓器移植法案の早期審議入りと早期成立を求め全衆院議員に要請</p> <p>5月19日 全腎協結成25周年記念</p> <p>第26回全腎協総会(東京)</p> <p>6月21日 医療保険審議会は「医療保険改革」案を提示(本人2割、老人定率負担へ)</p> <p>7月13日 第2回相談員研修会を開催(14日まで)</p> <p>7月自由配布制の「意思表示カード」の作成、配布</p> |

|              | 1996年<br>(平8年)   | 1997年<br>(平9年)  |
|--------------|--|---|
| 道腎協 30年のあゆみ  |  | <p>3月10日 「どうじん」62号発行</p> <p>3月27日 北海道腎バンクへ臓器移植基金募金箱より7万円寄付</p> <p>国会請願参加</p> <p>4月19日 第42回北海道ブロック会議(20日まで)</p> <p>5月10日 「どうじん」63号発行</p> <p>5月25日 創立20周年記念第20回道腎協定期総会</p> <p>医療講演会(札幌ホテルユニオン)</p> <p>6月10日 「どうじん」64号発行</p> <p>9月10日 「どうじん」65号発行</p> <p>10月18日 第43回北海道ブロック会議(19日まで)</p> <p>12月10日 「どうじん」66号発行</p> |
| 国・全腎協・その他の動き | <p>9月26日 全国腎臓病患者連絡協議会に社団法人許可(社)全国腎臓病協議会に名称変更</p> <p>10月1日 入院時の給食費自己負担額が現行600円が800円に引き上げ</p> <p>10月6日 第16回全国一斉腎提供登録拡大街頭キャンペーン</p> <p>10月13日 第11回腎移植推進国民大会(福岡市)</p> <p>10月21日 「介護保険」で全腎協が厚生省に陳情</p> <p>11月16日 第1回全腎協青年交流集会(17日まで)</p> <p>12月 日本腎臓移植ネットワークは移植希望登録患者の更新を毎年3月に行い、その際、更新料を5千円と決定</p> | <p>2月9日 人工臓器学会が在宅血液透析でシンポジウム</p> <p>3月27日 第26次国会請願実施</p> <p>4月14日 川野訴訟控訴審第1回公判(東京高裁)</p> <p>4月21日 JPC「医療と介護の拡充を求める」緊急国会請願行動(不採択)</p> <p>4月24日 臓器移植法案衆議院可決</p> <p>5月18日 全腎協が兵庫県腎友会共催で全国大会(神戸)前日交流会</p> <p>6月11日 移植関連8団体が「臓器移植法案」の今国会成立を要望</p> <p>6月17日 臓器移植法成立(10月16日施行)</p> <p>8月30日 第2回青年交流会(富山市)</p>          |

| 1997年<br>(平9年)  | 1998年<br>(平10年)  |
|---|--|
| <p>9月1日 健康保険法等改正施行<br/>本人2割負担、薬代一部負担実施</p> <p>11月18日 透析施設での劇症肝炎死亡事件で院長不起訴<br/>(94年9月、東京)</p> <p>12月2日 介護保険法成立(2000年4月導入)</p> <p>12月22日 JPC厚生省交渉、厚生省前座り込み</p>  | <p>3月10日 「どうじん」67号発行 PR版</p> <p>3月26日 国会請願参加</p> <p>4月18日 第44回北海道ブロック会議(19日まで)</p> <p>5月10日 「どうじん」68号発行(議案書)</p> <p>5月24日 第21回道腎協定期総会</p> <p>6月10日 医療講演会(音更文化センター)</p> <p>7月21日 「どうじん」69号発行</p> <p>大阪の看護師2名臓器移植意志カード普及<br/>自転車で日本縦断中宗谷岬到着</p> <p>8月2日 難病連全道集會腎臓病部会<br/>医療講演会(登別)</p> <p>9月10日 「どうじん」70号発行</p> <p>9月10日 第18回全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン</p> <p>10月24日 第45回北海道ブロック会議(25日まで)</p> <p>12月10日 「どうじん」71号発行</p>                                 |
| <p>3月14～15日 第5回通常総会(東京)</p> <p>3月26日 第27次国会請願実施</p> <p>4月4日 看護婦2人が意思表示カード普及のため自転車で日本横断出発<br/>(沖縄・残波岬 7月21日北海道宗谷岬到着)</p> <p>5月17日 全腎協全国大会(島根)</p> <p>6月18日 カテーター挿入「違法」判決について声明文</p> <p>6月24日 通院介護マニュアル発行</p> <p>7月6日 川野裁判和解成立、声明・記者会見(7月21日から現場復帰)</p> <p>7月22日 7月20日付朝日新聞での梶山発言に対し抗議の<br/>FAX</p> <p>8月29～30日 第3回青年交流集會「臓器移植推進のため<br/>に」(兵庫・姫路市)</p> <p>10月1日 労働、運輸、大蔵省交渉<br/>(障害者の解雇制限、鉄道運賃割引の距離制限の撤廃など)</p> <p>10月4日 第18回腎移植推進全国一斉街頭キャンペーン</p> <p>12月1日 全腎協ホームページ開設</p> | <p>3月14～15日 第5回通常総会(東京)</p> <p>3月26日 第27次国会請願実施</p> <p>4月4日 看護婦2人が意思表示カード普及のため自転車で日本横断出発</p> <p>5月17日 全腎協全国大会(島根)</p> <p>6月18日 カテーター挿入「違法」判決について声明文</p> <p>6月24日 通院介護マニュアル発行</p> <p>7月6日 川野裁判和解成立、声明・記者会見(7月21日から現場復帰)</p> <p>7月22日 7月20日付朝日新聞での梶山発言に対し抗議の<br/>FAX</p> <p>8月29～30日 第3回青年交流集會「臓器移植推進のため<br/>に」(兵庫・姫路市)</p> <p>10月1日 労働、運輸、大蔵省交渉<br/>(障害者の解雇制限、鉄道運賃割引の距離制限の撤廃など)</p> <p>10月4日 第18回腎移植推進全国一斉街頭キャンペーン</p> <p>12月1日 全腎協ホームページ開設</p> |

|              | 1999年<br>(平11年)   | 2000年<br>(平12年)   |
|--------------|---|---|
| 道腎協 30年のあゆみ  | <p>3月10日 「どうじん」72号発行（PR）版<br/>国会請願参加</p> <p>3月25日 第46回北海道ブロック会議（18日まで）<br/>「どうじん」73号発行（議案書）</p> <p>4月17日 第22回道腎協定期総会</p> <p>5月10日 医療講演会（札幌ホテルユニオン）<br/>「どうじん」74号発行</p> <p>6月6日 難病連全道集會腎臓病部会</p> <p>6月10日 医療講演会（札幌かでの2・7）</p> <p>8月1日 北海道知事に更生医療等4項目を要望</p> <p>9月9日 「どうじん」75号発行</p> <p>9月10日 第19回全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン</p> <p>9月12日 第1回臓器移植推進全国大会（札幌キタラ）</p> <p>10月19日 第47回北海道ブロック会議（24日まで）</p> <p>10月23日 「どうじん」76号発行</p> <p>12月10日</p> | <p>3月10日 「どうじん」77号発行（PR版）<br/>国会請願参加</p> <p>3月23日 有珠山噴火災害義援金募金開始</p> <p>3月31日 第48回北海道ブロック会議（16日まで）<br/>「どうじん」78号発行（議案書）</p> <p>4月15日 第23回道腎協総会「岩崎会長退任」<br/>医療講演会（小樽）</p> <p>5月10日</p> <p>5月21日 「どうじん」79号発行</p> <p>6月10日</p> |
| 国・全腎協・その他の動き | <p>2月28日 法施行後初の脳死臓器提供 心、肝、腎、角膜</p> <p>3月13日 第8回通常総会（東京）<br/>◎運転免許証用ドナーシール配布開始</p> <p>3月25日 第28回国会請願実施</p> <p>4月8日 『透析を始める人のためのガイドブック』発行</p> <p>5月12日 脳死臓器提供2例目</p> <p>5月27日 兵庫の施設で劇症肝炎4人死亡を報道</p> <p>10月3日 全国一斉臓器移植普及推進キャンペーン</p> <p>12月6日 B型肝炎院内感染事件で兵庫県が最終報告（感<br/>染経路特定できず）</p>  | <p>3月23日 第29回国会請願実施</p> <p>3月31日 有珠山噴火、透析施設被災</p> <p>4月1日 介護保険制度開始</p> <p>4月12～13日 有珠山噴火で油井会長、事務局員現地見舞い、調査</p> <p>5月23日 EPO訴訟第1回公判（横浜地裁）</p> <p>5月27日 第12回通常総会（鹿児島）</p> <p>5月28日 全国大会（鹿児島）</p>                              |

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p>2002年<br/>(平14年)</p>                          | <p>2001年<br/>(平13年)</p>   | <p>2000年<br/>(平12年)</p>  |
| <p>3月10日 「どうじん」 87号発行 (PR版)<br/>3月28日 国会請願参加</p> | <p>3月10日 「どうじん」 82号発行 (PR版)<br/>3月22日 国会請願参加<br/>4月21日 第50回北海道ブロック会議 (22日まで)<br/>5月10日 「どうじん」 83号発行 (議案書)<br/>5月26日 道腎協青年部発足<br/>6月10日 第24回道腎協定期総会<br/>医療講演会 (札幌ホテルユニオン)<br/>「どうじん」 84号発行<br/>8月5日 難病連全道集會腎臓病部会<br/>医療講演会 (札幌ホテルユニオン)<br/>9月9日 第21回全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン<br/>9月10日 「どうじん」 85号発行<br/>10月1日 重度心身障害者医療費給付事業に所得制限導入<br/>10月27日 第51回北海道ブロック会議 (28日まで)<br/>12月10日 「どうじん」 86号発行</p> | <p>8月6日 難病連全道集會腎臓病部会<br/>医療講演会 (函館)<br/>9月10日 「どうじん」 80号発行<br/>第20回全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン<br/>道議会上に医療費補助率引き下げ・所得制限導入<br/>反対請願<br/>12月10日 「どうじん」 81号発行</p>  |
| <p>2月20日 EPO訴訟第13回公判 (中井先生証人尋問)</p>              | <p>2月7日 EPO訴訟第6回公判<br/>3月22日 第30次国会請願実施 (100万名突破)<br/>3月30日 『高齢透析患者のためのガイドブック』発行、<br/>社会保障改革大綱<br/>4月14日 EPO訴訟第7回公判<br/>5月20日 全国大会 (東京)<br/>5月30日 EPO訴訟第8回公判<br/>7月11日 EPO訴訟第9回公判<br/>8月25日 第13回世界移植者スポーツ大会 (兵庫・神戸市) (9月1日まで)<br/>9月12日 EPO訴訟第10回公判<br/>10月7日 第21回腎移植普及全国一斉街頭キャンペーン<br/>10月17日 EPO訴訟第11回公判<br/>10月20日 臓器移植推進国民大会 (秋田)<br/>12月19日 EPO訴訟第12回公判</p>                          | <p>6月23日 EPO訴訟を支援する会 結成総会 (神奈川・横浜市)<br/>7月7日 EPO訴訟第2回公判<br/>8月30日 EPO訴訟第3回公判<br/>10月1日 全腎協会員10万人突破<br/>10月8日 第20回臓器移植普及全国一斉街頭キャンペーン<br/>10月18日 EPO訴訟第4回公判<br/>12月2、3日 第1回通院介護支援交流会 (東京)<br/>12月6日 EPO訴訟第5回公判</p> |



|                         |  |   |
|-------------------------|--|---|
|                         | <p>道腎協 30 年のあゆみ</p>  | <p>国・全腎協・その他の動き</p>   |
| <p>2002年<br/>(平14年)</p> | <p>4月13日 第52回北海道ブロック会議(14日まで)<br/>「どうじん」88号発行(議案書)<br/>5月19日 第25回道腎協定期総会<br/>医療講演会(ホテル札幌会館)<br/>6月10日 「どうじん」89号発行<br/>8月4日 難病連全道集会腎臓病部会<br/>医療講演会(釧路プラザさいわい)<br/>9月10日 「どうじん」90号発行<br/>9月15日 第21回腎不全対策を語るつどい<br/>「生活習慣病と腎臓病―その予防と治療―」(北海道・旭川市)<br/>9月22日 第22回全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン<br/>10月26日 第53回北海道ブロック会議(27日まで)<br/>12月10日 「どうじん」91号発行</p> | <p>3月28日 第31次国会請願実施(署名数106万1,906人)<br/>5月26日 全国大会(秋田)<br/>10月6日 第22回腎臓移植普及推進全国一斉街頭キャンペーン<br/>11月2日 第7回青年交流集会(神奈川県・三浦市)</p>  |
| <p>2003年<br/>(平15年)</p> | <p>3月10日 「どうじん」92号発行(PR版)<br/>北海道透析患者実態調査報告書発行<br/>国会請願参加<br/>3月27日<br/>4月12日 第54回北海道ブロック会議(13日まで)<br/>5月10日 「どうじん」93号発行(議案書)<br/>5月22日 第26回道腎協定期総会<br/>医療講演会(苫小牧)<br/>6月10日 「どうじん」94号発行<br/>8月3日 難病連全道集会腎臓病部会<br/>医療講演(札幌)</p>  | <p>2月26日 EPO訴訟判決、原告勝訴(横浜地裁)<br/>3月27日 第32次国会請願実施<br/>9月 「年金改革」の中の無年金障害者の救済要望<br/>10月30日 厚生労働省医療課に診察報酬改定について要望<br/>11月1、2日 第4回通院介護支援事業交流会<br/>12月11日 「年金改革」の中の無年金障害者の救済の要望</p> |

| 2003年<br>(平15年)   | 2004年<br>(平16年)  |
|---|--|
| <p>8月30～31日 全腎協青年交流会 in 北海道</p> <p>9月10日 「どうじん」95号発行</p> <p>9月23日 第23回全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン</p> <p>10月25日 第55回北海道ブロック会議(26日まで)</p> <p>11月29日 台風10号災害激励と義援金配分</p> <p>12月10日 「どうじん」96号発行</p>   | <p>1月29日 重度心身障害者医療給付事業(マル障)見直し<br/>反対要望行動を道庁におこなう</p> <p>3月5日 重度心身障害者医療給付事業見直し反対請願書<br/>道議会に提出</p> <p>3月10日 「どうじん」97号発行(PR版)</p> <p>3月25日 国会請願参加</p> <p>4月10日 「どうじん」臨時号「マル障継続審議に」</p> <p>5月10日 第56回北海道ブロック会議(11日まで)</p> <p>5月10日 「どうじん」98号発行(議案書)</p> <p>5月30日 第27回道腎協定期総会</p> <p>6月10日 医療講演会(札幌ホテルユニオン)</p> <p>8月8日 「どうじん」99号発行</p> <p>8月8日 難病連全道集會腎臓病部会<br/>医療講演会(小樽)</p> <p>9月10日 「どうじん」100号記念特集号<br/>北海道知事に院外調剤薬局の更生医療指定要望<br/>書提出</p> <p>9月26日 第24回全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン</p> <p>10月16日 第57回北海道ブロック会議(17日まで)</p> <p>12月10日 「どうじん」101号発行</p> |
| <p>1月20日 ETCにおける障害者割引を適用</p> <p>3月25日 第33回国会請願実施</p> <p>5月23日 全腎協全国大会 in 長野</p> <p>8月28～29日 全腎協青年交流会 in だいせん(鳥取)</p> <p>10月3日 第24回腎臓移植推進全国一斉街頭キャンペーン</p> <p>10月8日 厚生労働省が障害者福祉の改革案発表</p> <p>10月16日 「家族の日」を定める</p> <p>10月23日 新潟中越大地震(多くの透析患者が被害にあ<br/>う)</p> <p>10月28日 無年金障害者の訴え、新潟地裁で勝訴</p> <p>12月2日 介護保険改正で負担とサービス利用の拡大見送<br/>り</p> <p>「特定障害者に対する特別障害給付金の支給に<br/>関する法律」成立</p> |  |

| 2006年<br>(平18年)  | 2005年<br>(平17年)   |                     |
|--|---|---------------------|
| <p>2月14日 JR北海道に運賃割引拡大の要望書を提出</p> <p>3月10日 「どうじん」107号発行 (PR版)</p> <p>3月23日 国会請願参加</p> | <p>2月28日 道に腎疾患総合対策早期確立を要望</p> <p>3月10日 「どうじん」102号発行 (PR版)</p> <p>3月24日 国会請願参加</p> <p>4月16日 第58回北海道ブロック会議 (17日まで)</p> <p>5月10日 「どうじん」103号発行 (議案書)</p> <p>5月29日 第28回道腎協定期総会</p> <p>6月10日 医療講演会 (旭川大雪クリスタルホール)</p> <p>「どうじん」104号発行</p> <p>6月16日 障害者自立支援法案反対国会座り込み行動参加</p> <p>8月10日 難病連全道集會腎臓病部会</p> <p>医療講演会 (札幌)</p> <p>9月10日 「どうじん」105号発行</p> <p>9月25日 第25回全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン</p> <p>10月10日 「どうじん」臨時号 「障害者自立支援法案に反対を」</p> <p>10月15日 第59回北海道ブロック会議 (16日まで)</p> <p>12月10日 「どうじん」106号発行</p>   | <p>道腎協 30年のあゆみ</p>  |
| <p>2月2日 診療報酬改定を食い止めるべく厚労省前で抗議 (会員130人参加)</p>   | <p>1月中旬 会員向け災害手帳を作成・配布</p> <p>1月13日 障害者自立支援給付法見直しを要望 (厚労省)</p> <p>学生無年金障害者訴訟</p> <p>3月3日 学生無年金障害訴訟 広島地裁で勝訴</p> <p>3月20日 福岡西方沖地震 (混乱なし)</p> <p>3月24日 第34回国会請願実施</p> <p>3月25日 学生無年金障害訴訟 東京高裁で敗訴</p> <p>4月1日 個人情報保護法が全面施行</p> <p>4月 児童福祉法に基づく小児難病医療費助成</p> <p>4月22日 学生無年金障害訴訟 福岡勝訴</p> <p>5月18日 学生無年金障害訴訟 京都敗訴</p> <p>5月22日 全腎協全国大会 in 新潟</p> <p>6月16日 障害者自立支援法反対の中央行動 (国会前で座り込み敢行)</p> <p>7月4日 学生無年金障害訴訟 札幌地裁で敗訴</p> <p>7月5日 障害者自立支援法見直し求める緊急大行動 (1万人以上が集結)</p> <p>8月27～28日 全腎協青年交流研修会</p> <p>10月 第25回腎臓移植推進全国一斉街頭キャンペーン</p> <p>10月26日 学生無年金障害訴訟 東京高裁で勝訴</p> <p>10月31日 障害者自立支援法案が衆議院で可決</p> | <p>国・全腎協・その他の動き</p> |

| 2006年<br>(平18年)   |  | 2007年<br>(平19年)  |                         |   |   |  |
|---|--|--|-------------------------|---|---|--|
| <p>4月15日 第60回北海道ブロック会議(16日まで)</p> <p>5月10日 「どうじん」108号発行(議案書)</p> <p>A-4版化に紙面拡大</p> <p>5月28日 第29回道腎協定期総会</p> <p>6月10日 医療講演会(札幌ホテルユニオン)</p> <p>「どうじん」109号発行</p> <p>8月6日 難病連全道集會腎臓病部会</p> <p>医療講演会(帯広)</p> <p>9月10日 「どうじん」110号発行</p> <p>9月24日 第26回全道一斉腎提供者拡大街頭キャンペーン</p> <p>10月14日 第61回北海道ブロック会議(15日まで)</p> <p>12月10日 「どうじん」111号発行</p> |  | <p>2月15日 診療報酬の夜間・休日加算引き下げとなる答申(500点↓300点)</p> <p>2月22日 学生無年金障害者裁判 広島高裁で敗訴</p> <p>3月23日 第35次国会請願実施</p> <p>3月27日 学生無年金障害者裁判 岩手地裁で勝訴</p> <p>4月1日 障害者自立支援法施行</p> <p>5月11日 NHK受信料減免の内部障害者への拡大を要望</p> <p>5月12日 道路運送法などの一部改正法成立</p> <p>6月1日 医療制度改革に要望(2007年厚労省交渉)</p> <p>6月14日 医療制度改革関連法成立</p> <p>6月25日 日本慢性腎臓病対策協議会が発足</p> <p>8月3日 政管健保の被保険者証に臓器提供の意思表示欄記載へ(H19年1月発行分より)</p> <p>8月26、27日 全腎協青年部研修会(東京)</p> <p>10月1日 第26回腎臓移植推進全国一斉街頭キャンペーン</p> <p>10月31日 大フォーラム実行委員会 障害者自立支援法の見直し・障害者施策の総合的整備を求め約15,000人 東京都日比谷公園周辺に集結</p> | <p>2007年<br/>(平19年)</p> | <p>1月31日 夕張市市立病院透析室存続を知事に要望</p> <p>2月19日 道議会に夕張市立病院透析室存続を請願</p> <p>3月10日 「どうじん」112号発行(PR版)</p> <p>3月10日 「どうじん」113号発行</p> <p>3月22日 国会請願参加</p> <p>4月14日 第62回北海道ブロック会議(15日まで)</p> <p>5月27日 第30回道腎協定期総会(札幌)</p> <p>道腎協30周年記念医療講演会</p> | <p>2月8日 腎疾患対策懇談会を発足</p> <p>3月22日 第36次国会請願実施</p> |  |

# 編集後記



編集責任者

堀井 和彦

私事で恐縮ですが、透析を導入したのは、1978年（昭和53年）12月でした。今年の12月末で30年になります。その様な私が30周年記念誌の編集に携われた事は、大変な光栄であり有り難い事だと思えます。

結成30周年を迎えられるには、透析医療技術の進歩、医療社会保障の充実等、様々な要因のお陰と感謝しなければなりません。また、道腎協活動の礎となり志なかなばで逝去された仲間には改めて感謝とご冥福を祈念します。

編集をしていて、逝去された仲間の写真や名前を見つづける都度、作業の手が止まります。仲間との楽しかった事、悲しかった事のあった時に一瞬して戻り、思い出が走馬灯のように蘇ってきます。

現在、私たち患者会を巡る状況は、透析患者の増加での診療報酬の引き下げによる、透析医療の質の低下や、国の経済情勢逼迫などで様々な医療社会保障制度の後退があり、そのしわ寄せが患者にきています。とくに、懸念されるのは患者会の無関心層が増え、会員が減ってきて来ていることです。国としては医療に無関心な国民

が増えれば、なんでも国の方針がとおり医療費の自己負担増など、すべて国民にしわ寄せが来ます。これが、私たち一生医療を必要とする患者にとつて一番怖いことです。皆様には、この記念誌をご高覧戴き、周りの未加入患者に是非患者会に入会するように勧めてくださる資料となり、ご協力下さるようお願い致します。最後に、この記念誌発刊にあたり、ご多忙の中、快くご寄稿戴いた、行政・医療関係者・会員、また編集委員の皆様にご厚く感謝申し上げます。



委員

苜木 芳三

30周年記念誌編集作業に参加し、患者会活動史に登場する多くの方々がすでに物故されていることに気付かされました。命を削りながら患者会活動をされてきた諸先輩の努力を無にすることがない様にこれからの患者会活動に励む決意を新たにしました編集作業でした。



委員

久原 幸江

機関紙「どうじん」30周年記念誌発行誠に御座りましてありがとうございます。

編集委員の末席に名を連ねて15年、私にとつて人生最大の勉強をさせて頂いた貴重な時間でした。



委員

三上留美子

30周年記念誌に携わり、ようやく発刊に漕ぎ着くことが出来ました。

本当は沢山の方に読んで頂きたいと思っておりますが、皆さんに手にとつて読んでいただけの心配です。できましたら、記念誌に対する注文中でも指摘でもなんでもよろしいですので、一言感想が頂けたらと思います。



委員

福原真理子

昨今の社会情勢の中、透析患者ならずとも人々は自らの生活を守る事もままならず、苦渋に満ちているように見える。しかし、今回の編集を通してあらためて先人の精神力の強さを感じ、そして今、私は私自身に対し、また外に対して何ができるかを考えさせられた。少しづつ、少しづつでも心にかなう事をしていけば良いのだと。

道腎協結成30周年記念誌

# 風と大地と微笑みと

---

発行日 2008年3月

発行 北海道腎臓病患者連絡協議会  
会長 川村 隆志

〒001-0017

札幌市北区北17条西2丁目2番38-101

TEL・FAX 011-747-0217

印刷 大輝印刷株式会社

---

